ISSN 1346-6976

石 川 県 立 看 護 大 学

年 報

第 20 巻

2019 年度

石川県公立大学法人
石川県立看護大学
ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

巻頭言

2019 年度は、前年度の活動を受けた二つの重要事項がありました。それは、①前年度に改定したカリキュラムが動き始めること、②前年度に具体的方針を固めた本学の「教育の質保証」体制が大学基準協会の認証評価の受審によって評価されることです。①においては科目の統廃合や配当年次の変更があり一部の教員の担当科目に影響がありましたが、大きな混乱はなく順調に滑り出しました。②に関しては、10 月に行われた大学基準協会の現地調査においてこの点に質問が集中し、社会的重要性を実感させられました。幸い大きな指摘は受けずに認証され、今後は本学流の PDCA サイクルを動かして「教育の質保証」を実質化することが求められます。その一環として卒業生に対する第 3 者評価を得る目的で就職先の医療機関からの聞き取り調査を 1 ～ 2 月に行いました。この結果は自己点検評価の資料とし、2023 年度からの次期中期計画に反映させる予定です。

その他の実績として、高大接続入試改革に関連する検討に注力したこと、受験生確保のために高等学校との関係を強めたこと、教員評価の体制を単年度評価から 5 年ごとの評価に切り替え、その試行開始の準備を整えたこと、開学 20 周年を記念する事業の準備に力を入れたことなどがあげられます。入試改革については国からの求めに応じて検討しましたが、最終的には国が英語 4 技能検査や記述式問題の導入延期を発して一旦終息しました。受験生確保に向けて非常勤のアドミッションアドバイサーを任用し、高校の進学指導のタイミングに合わせた高校訪問を行うなどの改善を図りました。また能登地区の 3 病院の協力を得て中学生対象のナーシングカフェを開催し、看護を志望する若者の掘り起こしを始めました。

大学院看護学研究科においては、学部卒業に続いて進学できる学内入試日程を導入し、助産師を目指す学生以外に初めて 1 名の研究コース進学者が決定しました。将来が期待されます。

その他に、図書館ではデータベースや学習スペース環境の改善が行われました。また地域ケア総合センターではかほく市の街角交流館を活用した新事業の立ち上げ、国際貢献事業の拡充（パラグアイの日系社会に対する草の根プログラム開始の検討）などがありました。看護キャリア支援センターでは次年度から再開する感染管理認定看護師教育の準備を整えました。

最後に、2019 年度の特記すべき事項として、年度末から新型コロナウイルスの感染が日本にも及び、入試や卒業式には厳重な感染予防対策が必要となりました。また大学運営や教員の研究活動、海外との交流活動が予定通り運べず、大きな影響が発生しました。

このように最後には予定が狂った事項もありましたが、総じて多忙な年でした。この年報には、教育研究に真摯に向き合った教職員の成果、一人ひとりの学内外での役割・活躍や、個人で努力したことの成果等がほぼ網羅的に掲載されています。また委員会活動をはじめとするこの 1 年の大学全体の様相も示されています。

皆様から本学に対する忌憚のないご意見をうかがえれば幸甚です。

石川県立看護大学　学長　石垣和子

第 20 回入学式
（2019 年 4 月 3 日）

夏のオープンキャンパス
（2019 年 7 月 13 日）

第 15 回夏期アメリカ看護研修
（2019 年 8 月 28 日～ 9 月 10 日）

韓国看護研修
（2019 年 8 月 25 日～ 9 月 8 日）

JICA　日系研修
（2019 年 7 月 1 日～ 7 月 12 日）

JICA　青年研修
（2019 年 12 月 5 日～ 12 月 17 日）

管理者研修
（2019 年 9 月 27 日）

認知症看護認定看護師教育課程　修了式
（2020 年 2 月 12 日）

第 16 回卒業記念
（2020 年 3 月 14 日）

目　次

巻頭言
1.　学事…… 1
1.1　2019 年度学事暦 …… 1
1.2　大学組織図…… 2
1.2.1　大学組織図 …… 2
1.2.2　常設委員会構成 …… 3
1.3　オープンキャンパス…… 5
1.3.1　夏のオープンキャンパス …… 5
1.3.2　秋のオープンキャンパス …… 5

2.　教員・職員…… 6
2.1　教員紹介…… 6
2.2　特任教員等紹介…… 10
2.2.1　特任教員 …… 10
2.2.2　非常勤教職員 …… 10
2.3　教員組織構成…… 11
2.3.1　所属領域・講座と職位構成 …… 11
2.3.2　職位別年齢構成 …… 11
2.3.3　大学院看護学研究科の研究指導教員・研究指導補助教員 …… 11
2.3.4　博士前期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成 …… 12
2.3.5　博士後期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成 …… 12
2.4　職員…… 13

3.　中期計画…… 14
3.1　第 2 期中期計画（2017 年度～ 2022 年度）における 2019 年度計画と実績 …… 14
3.1.1　2019 年度計画の概略 …… 14
3.1.2　2019 年度実績の概略 …… 15

4.　看護学部看護学科…… 19
4.1　理念・目標…… 19
4.1.1　教育理念 …… 19
4.1.2　教育目標 …… 19
4.1.3　アドミッション・ポリシー（求める人材）…… 19
4.1.4　カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）…… 20
4.1.5　ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）…… 20
4.2　学部学生の入学・在学・卒業の状況…… 21
4.3　教育・履修体制…… 24
4.4　委員会活動…… 25
4.4.1　常設委員会 …… 25
4.4.1.1　教務委員会…… 25

4.4.1.2　学生委員会…… 25
4.4.1.2.1　学生相談専門部会 …… 26
4.4.1.2.2　進路支援専門部会 …… 27
4.4.1.3　研究推進委員会…… 29
4.4.1.4　学内研究助成審査委員会…… 30
4.4.1.5　石川看護雑誌編集委員会…… 30
4.4.1.6　情報システム委員会（含む情報セキュリティ）…… 31
4.4.1.7　広報委員会…… 31
4.4.1.8　入学試験委員会…… 34
4.4.1.8.1　入試実施部会 …… 35
4.4.1.8.2　入試評価部会 …… 35
4.4.1.9　自己点検・評価委員会…… 35
4.4.1.9.1　教員評価部会 …… 36
4.4.1.9.2　年報編集部会 …… 37
4.4.1.10　FD 委員会 …… 37
4.4.1.11　ハラスメント委員会 …… 38
4.4.1.12　コンプライアンス委員会 …… 39
4.4.1.13　倫理委員会 …… 39
4.4.1.14　衛生委員会 …… 40
4.4.2　特設委員会 …… 41
4.4.2.1　20 周年記念事業委員会 …… 41
4.4.2.2　省エネ・働き方改革ワーキング…… 42
4.4.2.3　語学力推進ワーキング…… 43
4.4.2.4　基礎科学教育拡充ワーキング…… 44
4.5　2019 年度　卒業研究論文題目一覧 …… 45

5.　大学院・看護学研究科…… 50
5.1　理念・目標…… 50
5.1.1　博士前期課程（修士）…… 50
5.1.1.1　教育理念…… 50
5.1.1.2　教育目標…… 50
5.1.1.3　アドミッション・ポリシー（求める人材）…… 51
5.1.1.4　カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）…… 51
5.1.1.5　ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）…… 51
5.1.2　博士後期課程（博士）…… 52
5.1.2.1　教育理念…… 52
5.1.2.2　教育目標…… 52
5.1.2.3　アドミッション・ポリシー（求める人材）…… 52
5.1.2.4　カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）…… 53
5.1.2.5　ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）…… 53
5.2　大学院生の入学・在学・修了の状況…… 54
5.3　大学院教務学生委員会…… 56

5.4　2019 年度　修士論文題目一覧 …… 58
5.5　2019 年度　博士論文題目一覧 …… 59

6.　教員の業績…… 60
6.1　書籍…… 60
6.1.1　書籍（著書）…… 60
6.2　学術論文…… 61
6.2.1　査読有 …… 61
6.2.2　査読無 …… 63
6.3　その他の原稿…… 64
6.4　学会発表…… 66
6.5　社会活動・地域貢献…… 73
6.6　その他（受賞等）…… 87
6.7　研究助成金…… 88
6.7.1　科学研究費助成事業（日本学術振興会）…… 88
6.7.1.1　科学研究費補助金…… 88
6.7.1.2　学術研究助成基金助成金…… 89
6.7.2　学内研究助成費 …… 91
6.7.3　その他助成金等 …… 92

7.　国際交流…… 93
7.1　国際交流委員会…… 93
7.2　アメリカ看護研修…… 97
7.3　韓国看護研修…… 99

8.　地域創生…… 101
8.1　地域創生委員会…… 101

9.　附属図書館…… 102
9.1　図書館運営委員会…… 102
9.2　今年度の主な活動概況…… 105
9.2.1　図書館事業の実施 …… 105
9.3　資料整備状況…… 106
9.3.1　分野別蔵書構成 …… 106
9.3.2　医学分類蔵書構成 …… 106
9.3.3　看護系資料分類別構成 …… 106
9.4　利用統計 …… 107
9.4.1　開館日数・入館者数 …… 107
9.4.2　館外利用者数及び冊数 …… 107
9.4.3　他大学・国立国会図書館・公共図書館への文献複写依頼件数 …… 107
9.4.4　他大学・公共図書館・個人からの文献複写受付件数 …… 107
9.4.5　館内設置コピー機による複写件数・枚数 …… 108

9.4.6　相互貸借貸出冊数 …… 108
9.4.7　相互貸借借受冊数 …… 108
9.4.8　データベースアクセス状況 …… 105
9.5　利用者サービス …… 109
9.5.1　学内向図書館サービス …… 109
9.5.2　学外向図書館サービス …… 109
9.5.3　学内で利用できるデータベース …… 110
9.6　職員研修…… 111
9.6.1　附属図書館職員の研修 …… 111

10.　附属地域ケア総合センター …… 112
10.1　地域ケア総合センター運営委員会 …… 112
10.1.1　人材育成部会…… 112
10.1.2　地域活動部会…… 113
10.1.3　国際貢献部会…… 113

11.　附属看護キャリア支援センター …… 114
11.1　看護キャリア支援センター運営委員会 …… 114
11.2　認知症看護認定看護師教育課程 …… 115
11.2.1　受講生の受講・修了状況…… 115
11.2.2　入学試験・入試説明会の実施…… 115
11.2.3　認知症看護認定看護師教育課程入試委員会…… 115
11.2.4　認知症看護認定看護師教育課程教員会…… 115
11.3　石川県委託事業の開催 …… 116
11.3.1　石川県看護教員現任研修事業…… 116
11.3.2　管理者経営研修…… 116
11.3.3　専門的看護実践力研修（分野別実践看護師養成研修）「皮膚・排泄ケア研修」…… 116
11.4　感染管理認定看護師フォローアップ研修 …… 116
11.5　認知症看護認定看護師フォローアップ研修 …… 117

12.　大学として取り組んでいる連携事業 …… 118
12.1　超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成 …… 118
12.1.1　がんプロ企画委員会…… 118

13.　大学施設の開放 …… 121

編集後記…… 122

1. 学事

1.1　2019年度学事暦

2019年

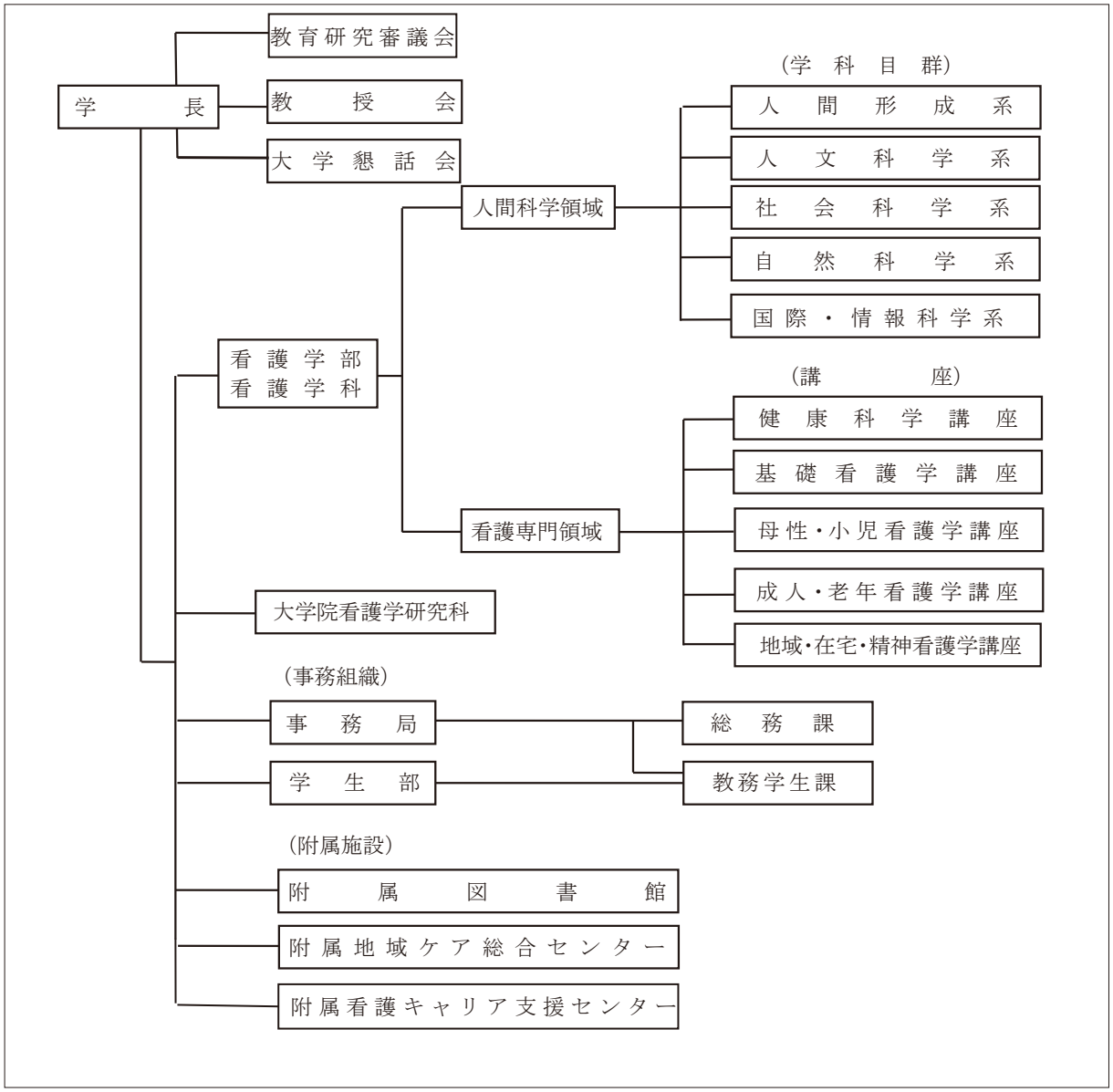
4月 3日（水）	入学式
4月 4日（木）～ 4月 5日（金）	ガイダンス
	学生健康診断
4月 8日（月）	授業開始
4月 5日（金）～ 4月11日（木）	前期履修登録受付
5月29日（水）	開学記念日
7月 6日（土）	入学試験（大学院博士前期課程・学内選抜）
7月13日（土）	夏のオープンキャンパス
7月31日（水）～ 8月 9日（金）	前期補講・試験
8月10日（土）～ 9月30日（月）	夏季休業
9月28日（土）	入学試験（大学院博士前期課程・後期課程）
10月 1日（火）	後期授業開始
9月19日（木）～10月 3日（木）	後期履修登録受付
10月19日（土）～10月20日（日）	大学祭　19日（土）秋のオープンキャンパス
11月23日（土・祝）	入学試験（推薦入試・社会人入試）
12月23日（月）～ 1月 3日（金）	冬季休業

2020年

1月18日（土）～ 1月19日（日）	大学入試センター試験
2月12日（水）～ 2月21日（金）	後期補講・試験
2月25日（火）	入学試験（一般入試前期日程）
3月12日（木）	入学試験（一般入試後期日程）
3月14日（土）	卒業式・学位授与式
2月25日（火）～ 3月31日（火）	春季休業

1.2　大学組織図

1.2.1　大学組織図



1.2.2　常設委員会構成

委員会・部会名	委員長	教員構成	掲載ページ
教務委員会*	学長の指名	小講座から各1名（助教以上）ただし、基礎からは各2名	25
学生委員会*	学生部長	大講座から各1名以上（助教以上）＋各学年担任から1名	25
学生相談専門部会	学生部長の指名	4名（助教以上）＋学生部長	26
進路支援専門部会	学生部長の指名	看護の小講座から1名（講師以上）	27
図書館運営委員会*	附属図書館長	5名	102
石川看護雑誌編集委員会*	図書館長の指名	5名	30
研究推進委員会*	学長の指名	5名	29
学内研究助成審査委員会	学長の指名	5名（教授のみ）	30
情報システム委員会	学長の指名	5名	31
地域ケア総合センター運営委員会*	附属地域ケア総合センター長	6名	112
人材育成部会		3名	112
地域活動部会		3名	113
国際貢献部会		3名	113
看護キャリア支援センター運営委員会*	附属看護キャリア支援センター長	特任教員3名 その他学長が指名する者5名	114
認知症看護教員会		特任教員3名 学長が指名する専任教員1名、石川県看護協会の役員1名、医療機関の看護管理者2名、その他学長が指名する者2名	115
認知症看護入試委員会		特任教員3名 学長が指名する専任教員1名、教育経験を有する認知症看護認定看護師3名、その他学長が指名する者1名	115
認知症看護認定看護師教育課程委員会		特任教員3名 学長が指名する専任教員2名、医療機関の看護管理者4名、その他学長が指名する者1名	115
国際交流委員会	学長の指名	5名	93
広報委員会*	学長の指名	役職者＋HPへの文章登載の役割を担う者	31
入学試験委員会	学長	7名	34
入試実施部会	入試委員長の指名	小講座から各1名以上	35
入試評価部会	入試委員長の指名	3名（講師以上）	35
問題編集部会（非公表）	学長の指名	3名	

*委員会運営を助ける助手・助教1 ～ 2名が学長指名で追加される。

委員会・部会名	委員長	教員構成	掲載ページ
自己点検・評価委員会*	学長	役職者、学長指名4名	35
教員評価部会	学長の指名	3名	36
年報編集部会	学長の指名	3名	37
FD委員会*	学長の指名	5名	37
ハラスメント委員会	学長	5名	38
コンプライアンス委員会	研究科長	5名	39
大学院教務学生委員会	研究科長	5名	56
倫理委員会	研究科長	学内7名＋学外2名	39
がんプロ企画委員会	学長の指名	学長指名	118
衛生委員会	衛生管理者の資格を有する教員	理事長指名＋過半数代表者推薦	40

*委員会運営を助ける助手・助教1 ～ 2名が学長指名で追加される。

1.3　オープンキャンパス

1.3.1　夏のオープンキャンパス

1. 日　時：令和元年7月13日（土）　10時00分～ 14時00分
2. 参加者：334名
3. 概　要：
   1）大学説明会
      ・オリエンテーション
      ・本学の概要説明
      ・入試説明
   2）看護師、助産師、保健師、養護教諭の卒業生による講演
      「教えて先輩！多彩な看護の世界」
   3）保護者セミナー
      ・カリキュラム、国家試験、進学・就職について
      ・学費・奨学金、アパート情報について
   4）学生によるキャンパスライフの紹介
      ・看護学実習、アメリカ看護研修について
      ・サークル・課外活動について
   5）在学生・教職員による相談・交流コーナー
   6）施設見学・看護学実習体験

夏のオープンキャンパス2019では、県内外から高校生、専門学校生、社会人および保護者ら334名の参加があった。本学の学生広報委員や学生ボランティア、教職員らがキャンパス見学や看護学実習体験、相談・交流コーナー、保護者セミナーなどの各企画を担当し、参加者との交流を行った。大学卒業後、病院の看護師以外の進路が開かれていることの理解が深まるようにした。

このオープンキャンパスが、参加者にとって本学への理解や関心を深める機会となり、一人でも多く本学への進学を志してもらえることを期待する。

1.3.2　秋のオープンキャンパス

1. 日　時：令和元年10月19日（土）　9時30分～ 12時00分
2. 参加者：167名
3. 概　要：
   1）大学案内
      ・学長からのメッセージ
   2）学生によるキャンパスライフの紹介
   3）入試準備セミナー　村井嘉子教授、川島和代教授、武山雅志教授
   4）在学生・教職員による相談・交流コーナー

秋のオープンキャンパス2019では、県内外から高校生、保護者ら167名の参加があった。

学長からのメッセージに始まり、学生から講義や実習、アメリカ看護研修を含めたキャンパスライフの紹介、また教員からは入試準備セミナーで小論文と面接について具体的なポイントを伝えた。

参加者のほとんどが今年度の受験対象者であり、入学試験に対する心構えや、大学生活や将来の職業観等について考える上で、参考になったことを期待する。

大学祭（看大祭）が同日開催であったことも、大学の雰囲気を知ることに繋がった。

2　教員・職員

2.1　教員紹介

領域	学科目群又は講座	科目群	職位	氏名
人間科学領域	人間形成系群	健康体力科学	准教授	垣花　渉
	社会科学系群	社会学	講師	三部倫子
	人文科学系群	心理学	教授	武山雅志
	自然科学系群	人間工学	教授	小林宏光
	国際・情報科学系群	情報科学	教授	松原　勇
		英語	准教授	加藤　穣
看護専門領域	健康科学講座	機能・病態学	教授	長谷川　昇
			教授	今井美和
			准教授	市丸　徹
		保健・治療学	教授	多久和典子
	基礎看護学講座	基礎看護学	教授	中田弘子
			准教授	石川倫子
			准教授	木森佳子
			講師	寺井梨恵子
			助教	田村幸恵
			助教	田淵知世
			助教	瀬戸清華
			助手	三輪早苗
	母性・小児看護学講座	母性看護学	教授	濵　耕子
			教授	亀田幸枝
			准教授	米田昌代
			講師	曽山小織
			助教	桶作　梢
			助手	河合美佳
			助手	西村未来
		小児看護学	教授	西村真実子
			講師	金谷雅代

研　　究　　課　　題
参加型健康教育が心身の健康に及ぼす影響、初年次教育の実践的研究
LGBTによる家族形成の研究、医療者とLGBTの相互行為の研究
新日本版MMPIにおける基礎研究、看護学生のコミュニケーションに関する研究、被災地学生ボランティア活動に関する研究
心拍変動（Heart rate variability）および唾液バイオマーカーの分布特性その応用研究、体幹加速度による歩行対称性の研究
在宅ケア（特に脳卒中既往者）の疫学統計、THP（トータル・ヘルス・プロモーション）の疫学統計、情報処理教育方法の改善研究
医学・看護英語に関する研究、英語圏の医療制度に関する研究、医療倫理に関する研究
低栄養防止、認知機能・身体機能の重症化予防の推進、機能性食品による更年期症状緩和効果、ロコモティブシンドローム予防のための根拠に基づいた実践
若年女性の子宮頸がん予防行動に関する研究
生殖機能の調節に関する研究
生理活性脂質メディエーターの生理学・病態生理学的意義の解明、現代のメディカルプロフェショナル育成：新しい教育メソッドの構築、疾患の病態生理に立脚した生活習慣病の予防指導、分子と細胞の機能理解の看護学への応用
看護技術に関する研究、補完代替療法に関する研究、看護用具のデザイン・開発に関する研究
看護教育学に関する研究、看護師のキャリア形成に関する研究、在宅療養移行支援に関する研究、Nurse Practitionerに関する研究
看護技術に関する基礎研究、創傷リスクアセスメント、予防・創傷治癒促進の技術についての研究、フィジカルアセスメント技術に関する研究
看護師の視覚情報に関連した観察についての研究、転倒予防に関する研究、看護師の臨床判断に関する研究
看護学実習における教員と指導者の連携についての研究、基礎看護教育に関する研究、心不全患者への看護に関する研究
外国人住民における健康課題の研究、多文化共生のための保健医療サービスの研究、退院調整に関する研究
ALS患者の意思疎通に関する研究、在宅療養者と家族介護者に関する研究
運動イメージ形成に関する研究、看護技術に関する研究
夫婦の親役割適応に関する研究、周産期の健康とQOL評価、女性向け補整下着の開発評価に関わる研究
出産前教育の効果や測定用具に関する研究、助産師教育に関する研究
流産・死産・新生児死亡で子どもを亡くした家族へのグリーフケアに関する研究、周産期のケアに関する研究、子育て支援に関する研究
周産期の看護に関する研究、子育て支援に関する研究、生殖補助医療の看護に関する研究、妊娠前ケアに関する研究
母乳育児支援に関する研究、AYA世代がんサバイバーの性と生殖に関する研究
女性の尿失禁に関する研究
周産期のメンタルヘルスに関する研究
子どもの虐待予防に関する研究、育児不安･育児困難・虐待に悩む母親への支援に関する研究、子育て支援に関する研究
育児不安や育児困難を抱える母親への支援に関する研究、子どもへのデスエデュケーション･グリーフケアに関する研究

領域	学科目群又は講座	科目群	職位	氏名
看護専門領域	母性・小児看護学講座	小児看護学	助教	千原裕香
			助手	山田ちづる
	成人・老年看護学講座	成人看護学	教授	牧野智恵
			教授	村井嘉子
			教授	紺家千津子
			講師	松本智里
			助教	南堀直之
			助教	今方裕子
			助教	大西陽子
			助教	瀧澤理穂
		老年看護学	教授	川島和代
			准教授	中道淳子
			助教	磯　光江
			助手	渡辺達也
	地域・在宅・精神看護学講座	地域看護学	教授	石垣和子
			教授	塚田久恵
			准教授	阿部智恵子
			講師	曽根志穂
			助教	金子紀子
		在宅看護学	教授	林　一美
			准教授	桜井志保美
			助教	子吉知恵美
			助手	牛村春奈
		精神看護学	准教授	谷本千恵
			講師	川村みどり
			講師	清水暢子
			助教	大江真吾
附属看護キャリア支援センター			講師(専任教員)	多幡明美
			助教(専任教員)	堅田三和子

研　　究　　課　　題
子どもの虐待予防に関する研究、次世代育成教育に関する研究、育児不安や育児困難を抱える母親への支援に関する研究
子育て支援に関する研究、育児不安や育児困難を抱える母親への支援に関する研究、妊娠先行型結婚をする母親の育児不安に関する研究
がん患者の「生きる意味」への支援、がん治療中および終末期がん患者への支援方法に関する研究
クリティカルケア看護に関する研究、クリティカルケア看護におけるキュアとケアの融合を基盤とした看護実践に関する研究
創傷看護・スキンケアに関する研究、ICTを活用した遠隔看護支援に関する研究
股関節疾患患者の歩容に関する研究、アピアランスケアに関する研究
内科的治療を受ける急性大動脈解離患者への看護に関する研究
がん化学療法による皮膚障害、スキンケアに関する研究
クリティカルケア領域における人工呼吸器装着患者への看護に関する研究
子どもをもつがん患者への支援に関する研究、がんサバイバーシップに関する研究
高齢者施設等の看護と介護の連携に関する研究、看護技術の開発と適用に関する研究、看護理論の実践における検証（優れた実践の理論的検証）
認知症高齢者ケアに関する研究、介護予防に関する研究
認知症を有する高齢透析患者に関する研究
視機能に関する研究、介護予防に関する研究
保健師活動に関する研究、僻地における看護に関する研究、家族看護に関する研究、異文化看護に関する研究
保健行動とヘルスリテラシーに関する研究、事業所の健康リスク診断と介入に関する研究、韓国の保健・医療・福祉に関する研究
地域と暮らしと健康に関する研究
健康を守るための地域防災・減災活動に関する研究
地域特性を踏まえた子育て支援に関する研究、保健活動に関する研究
慢性疾患をもつ療養者と家族の看護に関する研究、要介護者と家族介護者の在宅ケアに関する研究
家族介護者の健康支援に関する研究、医療的ケア児の養育者に対する育児支援
障害児とその保護者への支援方法の構築に関する研究、重症心身障害児のレスパイト施設の看護師の介護者への援助方法に関する研究、子育て期にある在宅がん終末期療養者に対する訪問看護師による支援
パーキンソン病患者の在宅療養支援に関する研究
精神障がい者の地域移行･定着支援に関する研究、患者の自殺を体験した精神科看護師のメンタルヘルスケアに関する研究、精神障がい者の園芸プログラムに関する研究
地域で生活する精神障害者に関する研究
認知機能障害への介入とその効果測定、精神疾患患者における地域移行支援推進のための研究、認知機能低下予防に関する研究、農福連携に関する研究
自閉症スペクトラム障害患者・患児への支援に関する研究

2.2　特任教員等紹介

2.2.1　特任教員

職　　位	氏　　名	担　　当	任　　期
特任教授	浅　見　　洋	アカデミックアドバイザー	平成31年4月 1日～ 令和2年3月31日
特任教授	丸　岡　直　子	大学院	平成31年4月 1日～ 令和2年3月31日
特任准教授	浅 見 美 千 江	附属看護キャリア支援センター	令和元年7月 1日～ 令和2年3月31日
特任講師	竹　田　昌　代	附属地域ケア総合センター	平成31年4月 1日～ 令和2年3月31日

2.2.2　非常勤教職員

職　　位	氏　　名	担　　当	任　　期
臨時助教	後　藤　亜　希	小児看護学	令和元年5月 1日～ 令和2年3月31日
臨時助手	宮 本 菜 々 恵	在宅看護学	平成31年4月 1日～ 令和元年6月30日
		老年看護学	令和元年7月 1日～ 令和2年3月31日
―	上　杉　直　人	アドミッションアドバイザー	平成31年4月 1日～ 令和2年3月31日
―	岡 山 の ぞ み	超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成 (北信がんプロ)	令和元年5月 1日～ 令和2年3月31日

2.3　教員組織構成（2020年3月現在）

2.3.1　所属領域・講座と職位構成

単位（人）

学部・センター	講座	計	教員	職位構成				
				教授	准教授	講師	助教	助手
人間科学領域		6(1)	6(1)	3(0)	2(0)	1(1)		
看護専門領域	健康科学	4(2)	4(2)	3(2)	1(0)			
	基礎看護学	8(8)	7(7)	1(1)	2(2)	1(1)	3(3)	1(1)
	母性・小児看護学	11(11)	8(8)	3(3)	1(1)	2(2)	2(2)	3(3)
	成人・老年看護学	12(10)	11(10)	4(4)	1(1)	1(1)	5(4)	1(0)
	地域・在宅・精神看護学	13(12)	12(11)	3(3)	3(3)	3(3)	3(2)	1(1)
附属看護キャリア支援センター		2(2)	2(2)			1(1)	1(1)	
計		56(46)	50(41)	17(13)	10(7)	9(9)	14(12)	6(5)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す；教員は教授、准教授、講師、助教を示す

2.3.2　職位別年齢構成

単位（人）

職位	計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
教　授	17 (13)				6	10	1
准教授	10 (7)			3	6	1	
講　師	9 (9)		3	1	4	1	
助　教	14 (12)		8	6			
教　員	50 (41)		11	10	16	12	1
助　手	6 (5)	1	4	1			
計	56 (46)	1	15	11	16	12	1

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す；教員は教授、准教授、講師、助教を示す

2.3.3　大学院看護学研究科の研究指導教員・研究指導補助教員

単位（人）

課程	計	研究指導教員	研究指導補助教員
博士前期課程	27(18)	17(17)	10(1)
博士後期課程	15(15)	10(10)	5(5)

（ ）の数字は内数であり教授の数を示す

2.3.4　博士前期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成

単位（人）

職位	計	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
研究指導教員	17　(14)	−	6	10	1
研究指導補助教員	10　(7)	2	6	2	−
計	27　(21)	2	12	12	1

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

2.3.5　博士後期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成

単位（人）

職位	計	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
研究指導教員	11　(11)	−	4	6	1
研究指導補助教員	5　(2)	−	2	3	−
計	16　(13)	−	6	9	−

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

2.4　職員（2020年3月現在）

事務局長	西田義明

＜総　務　課＞

総務課長	寺訳義人
主幹兼係長	白山節子
専門員	中村雄次
専門員	宮川泰生
主任主事	杉本聡子
主任主事	平村孝祐
非常勤嘱託	中嶋晴樹
非常勤嘱託	安達　幸
事務員	田上弘子

＜教務学生課＞

教務学生課長	田畠義仁
専門員	納橋雅代
専門員	松本礼司
主事	北村尭之
非常勤嘱託	野川ゆみ
事務員	﨑田千草

＜附属地域ケア総合センター＞

センター長	(兼)武山　雅志

＜附属看護キャリア支援センター＞

センター長	(兼)林　一美
非常勤嘱託	寺井　みゆき

＜附属図書館＞

館長	(兼)西村真実子
専門員(司書)	藤田一彦
非常勤嘱託(司書)	浅井千鶴代
非常勤嘱託(司書)	明翫賢吾

3. 中期計画

3.1　第2期中期計画（2017年度～2022年度）における2019年度計画と実績

3.1.1　2019年度計画の概略（石川県公立大学法人　2019年度計画　概要版より）

計画策定の基本的考え方

■第２期中期計画（６年間）の３年目にあたる平成３１年度は、中期計画の３つの柱「大学教育機能の強化」「地域連携・地域貢献機能の強化」「ガバナンス機能の強化」に基づく、教育研究機能の改善に係る方策を引き続き検討するとともに、志願者確保等の喫緊の課題に対する対応策を重点的に検討した。

中期計画の3つの柱に関する取組み

項目		看護大学 内容
Ⅰ.大学教育機能の強化 － 社会ニーズに応じた教育の提供 － 学生の学びの質向上	①学部教育の充実	○平成30年度に改訂したカリキュラムの運用開始 →科目の統廃合、1科目当たり時間数の統一 →アカデミックリテラシー科目の新設 ○「タイ・韓国看護研修」の充実　※H31から科目単位化 →現地研修の期間・内容を強化、事前学修に母国語講座導入
	②大学院教育の充実	○新たな高度実践看護師教育導入に向けた検討 ○内部進学者の受け入れ強化
	③キャリア教育の充実	○全学年を対象としたキャリア形成に関するセミナーを開催
Ⅱ.地域連携・地域貢献機能の強化	④産学官連携の推進 社会人教育の充実 等	○感染管理認定看護師養成課程(H32開始予定)の開設準備 ○地域での在宅看護に関するスキルアップ研修の充実 ○いきいきシニアステーション（かほく市）での公開講座の開催
Ⅲ.ガバナンス機能の強化	⑤学生募集に関する組織体制の強化	○広報組織体制の強化 →広告業者、学生広報委員を含む包括的な組織体制構築

その他の主要な取組み

項目		看護大学 内容
Ⅳ.志願者確保対策	①広報活動の充実	○各広報媒体を統一的にリニューアル →ホームページ、大学案内、大学新聞 ○学生広報委員の充実
	②入試制度の見直し	○2021年度入学者選抜（2020年度実施）に関する情報収集及び新たな入試制度の検討
Ⅴ.グローバル化の推進	③海外研修の充実 語学力の強化 情報発信力の強化 等	○アメリカ、タイ、韓国における看護研修を開催 ○学生及び教職員の語学力強化 →「語学推進ワーキンググループ」新設
Ⅵ.学修環境の整備	④システム等の充実	○WEB出願システム及びWEBシラバスの導入による利便性向上と事務効率化
	⑤学生支援制度の充実	○国の高等教育無償化施策への対応 →授業料等減免制度のあり方検討、国の財政支援措置の対象となるための確認申請書の提出　等 ○修学上の困難を抱える学生に対する個別支援体制の強化

3.1.2　2019年度実績の概略

（石川県公立大学法人　2019年度業務実績報告書の概要より抜粋）

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1　教育課程の充実

（1）新カリキュラムの運用開始

・アカデミックリテラシー科目（基本的能力の強化）の運用開始
・科目の統廃合、科目内容の刷新、１単位あたりの時間数の統一を実施

（2）大学と臨床機関との連携強化

・臨床教授等との意見交換会を開催
・臨床教授等称号付与制度についてのアンケート調査を実施

（3）グローバル化の推進

・タイ・韓国看護研修を新たに科目として単位化
・アメリカ看護研修の事前英語講座の充実
・看護研修後の英語力強化のためネイティブ教員を招聘
・韓国看護研修の事前学習として韓国語講座を実施
・語学力推進ワーキンググループを設置して学生・教員の語学力強化を支援

（4）大学院教育の充実

・新たに研究コースに学内選抜枠を設けて入試を実施
・初の修了生を輩出する助産師養成課程の学事日程と従来の学事日程の調整
・大学院教育懇談会の開催

2　教育実施体制の充実

（1）教育資材の改善

・図書館スペースの有効活用に向けた書架配置の見直し
・無線LAN（Wi-Fi）設置教室のさらなる拡充

（2）自学自習の環境整備の推進

・新たな図書データベースの導入を決定
・文献検索の講習会を実施

3　学生への支援

キャリアイメージの早期形成への支援

・全学年対象に学生セミナーを開催

4　研究の推進

研究体制の改善

・若手研究者のための対面相談の体制を新設

５　地域貢献及び国際貢献の推進

（１）地域連携事業の充実

・来人喜人健康づくり事業（能登町）を実施
・棚田が織りなす食・緑・健康の郷づくり（津幡町）を実施
・か歩く健康ウォーキング事業（かほく市）を実施
・かほく市いきいきステーションを活用した地域公開講座を実施

（２）地方創生推進事業(COC+) の推進

・大学コンソーシアム石川の事業に参画し、グローカル人材を育成

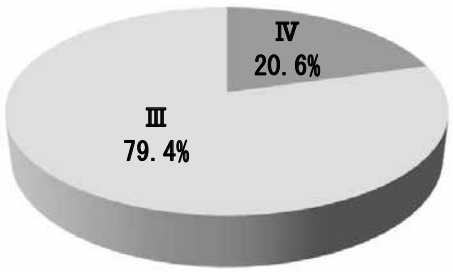
（３）認定看護師の養成

・感染管理認定看護師教育課程の開設準備

（４）国際貢献事業の推進

・JICA日系研修（パラグアイ）、青年研修（カンボジア）を実施
・JICAパラグアイとの草の根技術交流事業採択

項目別評価の状況



項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計
教育	3	21	0	0	24
研究	0	3	0	0	3
地域貢献	3	1	0	0	4
グローバル化	1	2	0	0	3
計	7	27	0	0	34

※Ⅳ･･･年度計画を上回って実施している。　Ⅲ･･･年度計画を順調に実施している。
Ⅱ･･･年度計画を十分には実施していない。　Ⅰ･･･年度計画を実施していない。

業務運営の改善・効率化に関する目標

1　両大学間連携の推進
・合同FD研修会及び合同研究発表会の開催
・両大学の共同研究の促進

2　ガバナンス体制の強化による大学改革の推進
・語学力推進ワーキング、働き方改革ワーキングを新たに立ち上げ

3　事務組織等の整備と効率化
・WEB出願システムの導入
・グループウェアを活用した教室・備品の予約システムを導入

4　教育研究組織体制の改善
・基礎科学教育拡充ワーキングで組織の点検、検証を実施

財務内容の改善に関する目標

1　外部資金の獲得
・科学研究費補助金の採択増
　前年度比＋16,040千円

2　志願者の増加に向けた取り組み
・奥能登地域における中学生を対象としたナーシングサイエンスカフェを実施
・アドミッションアドバイザーの意見をもとに学生募集活動を展開
・高校訪問の時期等の見直し

自己点検評価及び情報提供に関する目標

1　大学活動に関する情報発信を推進
・広報媒体の統一的リニューアルを実施
・学生や教員に大学の魅力等聞き取りを行い、情報発信のポイントを整理

その他業務運営に関する目標

1　施設設備の計画的な更新
・長期修繕計画に基づいて空調設備を更新
・備品整備計画に基づいて教育研究用備品を更新
・図書館情報システム等の情報システム機器を更新

2　全学的な安全衛生管理体制の整備
・新型コロナウイルス感染拡大に際して、学生へ注意喚起や感染防止対策を実施

4. 看護学部看護学科

4.1　理念・目標

4.1.1　教育理念

人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性とともに、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する

4.1.2　教育目標

1. 豊かな人間性と倫理観を備えた人材の育成
   人間の生命、生活を尊重し、人の痛みや苦しみを共に分かち合える温かい心、豊かな人間性と倫理観を備えた人材を育成する。
2. 看護学に求められる社会的使命を遂行し得る人材の育成
   看護専門職として必要な知識、技術を修得し、人々の健康と生活に関わる諸問題に対して、科学的な根拠に基づく判断力と問題解決能力及び看護学研究に関する思考力と創造性を涵養し、看護学に求められる社会的使命を遂行し得る人材を育成する。
3. 調整・管理能力を有する人材の育成
   保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協力して行われる看護実践を通して、調整・管理能力を有する人材を育成する。
4. 国際社会でも活躍できる人材の育成
   国際的な視野から、健康問題や看護問題を思考、判断し、国際社会でも活躍できる人材を育成する。
5. 将来の看護リーダーの役割を担う人材の育成
   社会状況の変化を踏まえ、看護が担うべき役割を展望し発展させるため、自らの研鑽を重ねながら、その資質向上に努め、看護学の発展に寄与し、将来の看護リーダーとなることができる人材を育成する。

4.1.3　アドミッション・ポリシー（求める人材）

看護とは、「様々な健康レベルの人々が、その人らしく生活できるよう援助する仕事」です。そのためには、専門的な知識・技術はもちろん、命を大切にする心や人間としての豊かさが求められます。

本学では以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を広く求めます。

1. 大学で学ぶ上で必要とされる基礎学力を身につけている。
2. 人間や生命に関心をもち、保健・医療・福祉分野で活躍・貢献したいという目的意識を持っている。
3. 周囲の人と協力して物事を進めることができる。
4. 他者の意見に耳を傾け、自分の考えを表現できる。
5. 自己学習・自己啓発を継続する意欲がある。

4.1.4　カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

本学では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる知識・技術などを修得できるように、人間科学領域の科目と看護専門領域の科目を体系的に編成しています。教育内容、教育方法、教育評価について以下のように定めています。

〈教育内容〉

学生が大学での学修に適応するための科目を初年次に配置する。加えて、人間科学・健康科学・看護学の科目間の連携を図り、それらを統合して学べるように科目を配置する。

看護専門領域に「健康･疾病･障害の理解」「看護の基本」「看護援助の方法」「看護の実践」「看護の発展」の科目を配置する。また、人間の成長、発達、健康の維持増進から終末に至る健康問題を科学的に評価し、生活・療養の場に応じた看護の必要性を学べるように設定する。

さらに、様々な状況に対応できる能力、多職種と連携・協働しながら看護の専門性を発揮できる能力、将来を切り開いていく能力を統合・発展させるための科目を段階的に学べるように設定する

〈教育方法〉

幅広く総合的に看護を学ぶことができるよう、積極的に人々の生活の場に出向いたり、アクティブ・ラーニング、異学年交流等を活用した講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を行う。

個々の学習深度や能力に応じた指導を行うため、個別学習やレポート課題を課し、フィードバックを行う。

学生のより積極的な学習ニーズに応えるため、外部の客観的評価試験や外部の開講科目（放送大学、シティカレッジ等）を活用する。

学年進行に沿って、学修を統合的に積み重ねることができるように履修指導を行う。

〈教育評価〉

各科目の学習目標の達成度を評価し、その基準は授業計画に示す。加えて、本学の履修規程･学則に基づいて総合的に評価する。

4.1.5　ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

教育理念を基に本学の教育課程に沿って研鑽に努め、指定する卒業単位を修得することで、下記の能力・資質を修得・涵養し、それらを総合的に活用できる人材を養成します。

1. 看護の基盤となる豊かな人間性や倫理観と教養を身につけている。
2. 看護職として専門分野における学問内容の知識・技術を修得している。
3. 人間の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価し、的確な判断ができる。
4. 人々の健康維持と増進、予防、また健康障害から回復過程等、全ての健康段階を連続的に捉え、生活に根ざした支援の必要性を理解できる。
5. リーダーシップを身につけ、自ら多職種と連携・協働することができる。
6. 国際化及び社会の医療ニーズの変化に対応し、生涯を通して自己を高めることができる。

4.2　学部学生の入学・在学・卒業の状況

(1) 入学の状況

①入学定員・収容定員

単位（人）

入学定員	収容定員
80	320

②試験実施日

	実施日
推薦入試・社会人入試	令和元年11月23日（土・祝）
一般入試前期日程試験	令和 2年 2月25日（火）
一般入試後期日程試験	令和 2年 3月12日（木）

③受験状況等

単位（人、倍）

	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率	入学者数
推薦入試	30	43	43	30	1.4	30(30)
社会人入試	若干名	2	2	1	2.0	1(1)
一般入試前期	40	83	81	42	1.9	39(36)
一般入試後期	10	148	36	12	3.0	10(10)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

(2) 在学の状況（令和2年3月1日現在）

単位（人）

学　　年		1年次	2年次	3年次	4年次	計
在学者数	男性	6	6	5	6	23
	女性	76	77	77	82	312
	計	82	83	82	88	335

(3) 卒業の状況

①卒業者数　第17期生

単位（人）

区　分	計	入学年度別卒業者数	
		平成27年度以前入　学　者	平成28年度入　学　者
卒業者数	83(79)	5(5)	78(74)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

②卒業後の進路状況　第17期生　（令和2年3月31日現在）

単位（人）

区　分		県内		県外		合計	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
就　職	看護師	51	61.4%	18	21.7%	69　(67)	83.1%
	国公立病院（独立行政法人を含む）	45	54.2%	9	10.8%	54　(53)	65.0%
	上記以外の病院	6	7.2%	9	10.8%	15　(14)	18.1%
	保健師	4	4.8%	1	1.2%	5　(4)	6.0%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0　(0)	0.0%
	計	55	66.3%	19	22.9%	74　(71)	89.1%
進　学	大学院博士前期課程	4	4.8%	0	0.0%	4　(3)	4.8%
	養護教諭特別別科	3	3.6%	0	0.0%	3　(3)	3.6%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0　(0)	0.0%
	計	7	8.4%	0	0.0%	7　(6)	8.4%
未　定		2	2.4%	0	0.0%	2　(2)	2.4%
合　計		63	75.9%	20	24.1%	83　(79)	100.0%

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す。 割合は、総数83人を100%としたもの

③主な就職先　第17期生　（令和2年3月31日現在）

県　　内	県　　外
石川県立中央病院	富山県立中央病院
金沢大学附属病院	富山大学附属病院
金沢医科大学病院	新潟県柏崎総合医療センター
公立松任石川中央病院	藤田医科大学病院
国立病院機構金沢医療センター	藤田医科大学岡崎医療センター
公立能登総合病院	豊橋市民病院
公立穴水総合病院	総合東京病院
珠洲市総合病院	板橋中央総合病院
町立宝達志水病院	NTT東日本関東病院
金沢市	多摩北部医療センター
加賀市	彩の国東大宮メディカルセンター
能美市	平塚共済病院
	北里大学病院
	千葉中央メディカルセンター
	京都第二赤十字病院
	堺市立総合医療センター
	社会医療法人製鉄記念広畑病院
	長岡市

4.3　教育・履修体制

本学の教育は、人間科学領域の5学科目群と看護専門領域の5講座に属する教員が担当します。

領域	学科目群又は講座	科目群	教育内容
人間科学領域	人間形成系群	健康体力科学	自己の健康・体力づくりを生涯にわたり実践していくための理論と方法を修得させるとともに、看護の対象者の健康獲得を目指すための知識と技術について教授する。
	人文科学系群	哲学	哲学・心理学的な思考を通して、人間の本質と存在の意義について理解を深めるとともに、看護識者として悩める人を理解し援助するための知識と方法、態度について教授する。
		心理学	
	社会科学系群	社会学	人々の生活を支える社会のしくみと人間と社会環境との関わりについて理解を深めさせるとともに、社会科学的視点から保健・医療・福祉・看護が抱える諸問題について教授する。
	自然科学系群	人間工学	人々の生活と環境との関わりや人間と環境との共生について理解を深めさせるとともに、人間の日常生活行動や看護現場での諸問題について人間工学的側面から教授する。
	国際・情報科学系群	英語	国際的な視野から健康や看護問題を思考、判断し、国際社会でも活躍できる思考力と語学力を教授する。また、高度情報社会に対応できる基礎力と看護情報の統計処理能力を教授する。
		情報科学	
看護専門領域	健康科学講座	機能・病態学	人間の生命現象や身体の構造・機能と心身の健康の保持・増進、疾病・障害の発症と回復のしくみに関する理論と知識、技術を科学的根拠に基づいて系統的に教授する。
		保健・治療学	
	基礎看護学講座	基礎看護学	「看護とはなにか」という看護の概念・本質と看護の基本となる理論と知識・技術、及び看護識者として必要な態度について教授する。
	母性・小児看護学講座	母性看護学	ライフサイクルのうち、妊娠・分娩・出産から思春期にわたる母子とその家族に特徴的な発達課題と健康問題を踏まえ、看護援助に必要な知識や理論と実践の方法について教授する。
		小児看護学	
	成人・老年看護学講座	成人看護学	ライフサイクルのうち、成人期から老年期にわたる対象に特徴的な発達課題と健康問題を踏まえ、看護援助に必要な知識や理論と実践の方法について教授する。
		老年看護学	
	地域・在宅・精神看護学講座	地域看護学	地域で生活する個人・家族・特定集団・地域住民全体を対象とした地域看護の特徴を踏まえ、活動の場(学校、職場、在宅、地域全体）とその対象の特性に応じた看護援助、及びライフサイクル各期のメンタルヘルスの課題や精神的な健康問題をもつ対象への看護援助に必要な知識や理論と実践の方法を教授する。
		在宅看護学	
		精神看護学	

4.4　委員会活動

4.4.1　常設委員会

4.4.1.1　教務委員会

委 員 長：中田 弘子　教授
委　　員：長谷川教授、濵教授、紺家教授、塚田教授、垣花准教授、谷本准教授（清水講師）、田村助教、千原助教、大西助教、子吉助教、磯助教
事 務 局：北村主事
活動内容：
教務の所掌業務に関して、以下の事項の審議を行った。

1. カリキュラム変更にともなう新・旧カリキュラムの学生への同質の学修の機会の提供と履修指導
2. 新統合実習(2020年より前倒し開講科目)の準備・担当者への説明会の開催
3. 随時試験・定期試験の時間割と試験監督の決定、時間割
4. 非常勤講師等の任用
5. 成績判定・修得単位および卒業要件の判定
6. 石川コンソーシアムのシティカレッジの科目提供と受講科目の成績確認
7. 臨床教授等の称号付与および申合せの改訂、称号付与の手続き・書類等の改定
8. 特別講義、ハンセン病講演会の実施
9. 卒業研究に関する教員および学生の希望調査等
10. 学生便覧の改訂
11. 次年度看護学実習計画・実習暦、ヒヤリハットへの集計・分析と防止対策
12. 中期計画の具体的な取り組み
    1) カリキュラム変更に伴う新入生への前期・後期の空きコマ活用等調査
    2) 臨床教授等との交流会の開催（丸岡直子氏による講演会、教員との意見交換会、臨床教授等に関するアンケート調査）
    3) 能登町民泊型フィールド実習担当者会議の開催、次年度の課題と対策
    4) フィールド実習担当者会議の開催、評価方法の検討と次年度に向けた改訂
    5) 新設科目であるアカデミックリテラシーとフィールド実習との連携
    6) ヒューマンヘルスケア（Human Hears Care: HHC）科目担当者会議の開催、HHCへ地域創生概論の視聴の導入、ポスター形式による成果発表の実施

4.4.1.2　学生委員会

委 員 長：多久和 典子　教授（学生部長）
委　　員：桜井准教授、石川准教授、加藤准教授、中道准教授、金谷講師、清水講師、松本講師、桶作助教、田畠教務学生課長
事 務 局：松本専門員、北村主事
活動内容：

1. 学生が成績不振について保護者に連絡しないことが原因で生じうる学生の不利益を回避する一つの方策として、昨年度、学生部長経験者の懇話会から提案された「保護者への成績通知」を本年度から開始した。
2. 来年度から隔週で「心理カウンセラー」に相談できるように準備を進め、実現にこぎつけた。これにより、担任･副担任、学生相談部会、SOUDAN BOXに加えて、相談先の選択肢が広がり、より充実した学生支援が実現できると期待される。
3. 例年通り、新入生オリエンテーションと各学年の新年度ガイダンスを実施した。
4. 本年度の開学記念日はまず、4月23日にご逝去された大木秀一先生を追悼し、全員で黙祷を捧げた。大木先生のご冥福をお祈り申し上げます。
5. 前期に初年次学修支援セミナー、および3年生を対象とした隣地実習へ向けてのセミナーを開催し、4年生から有意義なアドバイスを受ける異学年交流の機会とした。（なお、例年3月に実施している進路支援を目的とした3年生と卒業生の座談会は、新型コロナウイルス感染拡大の防止のため、開催中止となった。）
6. 例年通り、学生による大学祭の準備・開催の支援を行った。
7. 昨年度改訂作業を行った「学生生活の基本」改訂版が本年度の学生便覧から収載となった。自立心をもって行動する大学生に相応しい内容となった。特に、【生活の基本】として、「心身の健康を第一とし、その上で学業・課外活動に励む」ことを明記し、また、緊急時には、第一に身の安全を確保することを明記の上、連絡先電話番号を掲載した。
8. 令和元年度卒業式は、新型コロナウイルス感染拡大を防止する様々な対策を講じた上で、最大限簡素化して挙行した。（卒業生の出席の可否の決定、間隔を空けた着席、換気、保護者の別室参加、写真撮影の割愛など。）成績優秀者1名を含む5名の学生が学長表彰を受けた。卒業式に先立ち、グローカルヤングリーダーの称号取得者2名の表彰式が行われた。
9. 例年どおり自治会と学長・学生部長・大学事務局との懇話会を行った。本年度は備品等に関する要望はなかったが、試験答案の返却を全ての科目で実施してほしいとの学生からの要望を昨年度に続き繰り返し受け取り、3月の教員全体会議において伝達した。
10. 年度末に在校生を対象としてアンケート調査を行った。教務学生課に置いて集計中であり、来年度早々に集計結果を学生支援に生かせるように検討する予定である。

4.4.1.2.1　学生相談専門部会

部 会 長：多久 和典子　教授
部 会 員：多久和教授、磯助教、桶作助教、南堀助教、
　　田畠教務学生課長、野川嘱託
活動内容：

1. 従来通り、月1回の相談部会を開催し、学生に関する情報共有、学生対象のアンケートについてのディスカッション等を行った。
2. 学生からの相談の敷居を低くするため、赤い郵便箱の「SOUDAN BOX」を学内3か所に設置した。メールによる相談も受け付ける体制を整え、学生に周知した。実際に相談案件があり、全教員で共有・対応をはかった。
3. 学修支援の必要な学生や療養の必要な学生について、部会員・担任教員・関係部署教員の協働により支援を行った。また、本人・保護者とともに主治医と面談し、助言を仰いだ。

4. 学生委員会・学生相談部会主催の教職員研修会「学修支援を考える～学生の特性に着目して～」を平成31年度4月に開催すべく準備を行った。

4.4.1.2.2　進路支援専門部会

部 会 長：桜井 志保美　准教授
部 会 員：阿部准教授、木森准教授、中道准教授、金谷講師、川村講師、曽山講師、松本講師
活動内容：

1. 進路支援：

希望する全員の就職進学が内定した。今年度は、開学記念日行事の都合で同日に学生セミナーの開催が困難であった。そのため学生セミナーを独自開催し、前年度同様に就職進学のための個別支援、看護職としての職業像を育てるための集団支援を実施した。
次年度も、今年度と同様の活動を継続する。

1）アドバイザー教員による個別支援

4年生に対する支援として、8名のアドバイザー教員による担当制で行った。主たる支援内容は、進路決定への助言や情報提供、履歴書の書き方や面接への助言等の就職・進学等への助言・指導である。今年度は、首都圏の就職試験日程が早まっていることに伴い、アドバイザー教員配置前に、履歴書作成の支援を求める学生が数名いた。この場合は、3年生担任が個別に支援を行った。結果、卒業までに全員の就職先や進学先が決定した。

2）同窓会の協力を得てセミナー開催

（1）学生セミナー

看護職としての職業像を描けること、看護職として長く働き続けられることを目的に、開催した。

日時：2019年7月12日10：00 ～ 12：00
対象：1・2・3年生
場所：講堂
内容：「様々な分野で活躍する先輩の話を聞き自分の進路に活かそう」
講師：松井久美（12期生・看護師）道谷内愛（11期生・助産師）
中村貫二（10期生・看護師）上田琴美（8期生・養護教諭）
本田瑛子（7期生・看護師）　辻真理子（1期生・保健師）

（2）座談会

新型コロナウイルス感染症対策のため開催が中止された。

3）公務員試験対策講座

教務学生課が窓口になり、県立大学で行われる公務員試験対策講座に、3年生8名が実習期間と重ならない講座の一部分について受講した。

4）求人情報の集約

教務学生課職員と部会員が、求人に来学した医療機関等の対応を実施した。就職情報に関する資料は、進路支援コーナーに設置した。

2. 国家試験対策：

前年度の国家試験合格率を踏まえ、部会員が、業者主催の教員向け国家試験対策講座を受講し、個別支援に活かした。特に今年度は、看護師必修問題、保健師国家試験の対策を強化した。結果、看護師国家試験合格率97.6％（全国平均94.7％）、保健師国家試験合格率97.5％（全国平均96.3％）であった。3年次から看護師国家試験対策を開始したこともあり、看護師と保健師の2つの国家試験対策にバランスよく取り組む時間が確保できたと考えられる。引き続き、3年生からの支援、看護師必修問題、保健師国家試験対策は、重点課題として取り組む。

1）4年生への支援

（1）個別支援

アドバイザー教員が学生10-11名を担当し、学内の模擬試験結果等を基に、得点の伸び率等を確認しながら個別指導を行った。

（2）模擬試験への支援

模擬試験担当学生が、模試年間計画を立案できるように支援した。保健師模擬試験回数は、学生の希望で2回から3回に増やした。

（3）学習支援内容

【看護師】

・第1回目必修試験に誤解答だった問題について、まとめのノートを作成の課題を課し学習方法の指導を実施した。

・補講担当学生が学生の希望を集約し、希望に応える内容で、機能・病態学の教員の協力を得て実施した。

・国家試験2週間前に、教員が作成した必修問題を用いて試験を実施した。

・第1回強化学習として､成績不良者（必修問題正答数34以下）を対象に､アドバイバーが2-3名の学生を受け持ち学習方法修得の支援を行った。

・第2回強化学習として、2月実施の必修問題正答数が42問以下の学生を対象に、個別支援を実施した。

【保健師】

・補講は、地域看護学講座の教員の協力を得て実施した。

9月「社会保障と医療経済」、「疫学・保健統計」、「成人保健と健康増進」、「健康危機管理」

12月「母子保健／成人・高齢者保健」、「精神保健・障害者保健」、「感染症」等非常勤講師による特別講義

12月「疫学・保健統計」非常勤講師

・希望者全員を対象に、地域看護学講座の進路アドバイザー教員が問題を提供・採点を実施した。

・強化学習1回目として、2回目の模擬試験状況設定問題正答率60％以下の学生を対象に地域看護学教員1人あたり2-3人の学生を担当してもらい状況設定問題対策を実施した。

・強化学習2回目、1月の模擬試験正答率56％未満の学生を対象に個別支援を実施した。

(4) 国家試験受験に伴うバス代補助

後援会の援助を受けられることになった。今年度から、学生の自負負担は1日500円となった。

2) 3年生への支援

7月　低学年模試（費用は自己負担）

2月　学内国家試験予想問題試験

次年度も引き続き、低学年模試を実施する。

4.4.1.3　研究推進委員会

委 員 長：長谷川 昇　教授

委　　員：濵教授、桜井准教授、石川准教授、三部講師

事 務 局：中村専門員

活動内容：

1. 研究推進に係る会の開催

1) ウェルカムセッション

開　催　日　時：令和元年8月2日(金)　13：30 ～ 14：00　参加者：45名(うち院生3名)

場　　所：管理棟3階　大会議室

内容および講師：

「ストーマ周囲皮膚障害のスキンケアに携わる看護師への支援」

紺家千津子　教授（成人・老年看護学講座）

2) 研究サポート集会

【1回目】

外部研究資金申請の応募・採択率を伸ばすために行われている各大学の組織的取り組みについて情報共有し、今後の申請に活かすことを目的に開催した。

開　催　日　時：令和元年7月17日(水)　大学院博士課程中間報告会後

場　　所：教育研究棟1階　大講義室

内容および講師：

「一般社団法人　公立大学協会主催『令和元年　科学研究費獲得セミナー』参加報告」

プレゼンター：長谷川研究推進委員長

【2回目】

開　催　日　時：令和元年9月19日(木)　17：40 ～ 18：00　参加者：22名

場　　所：教育研究棟2階　中講義室2

内容および講師：

「科研費申請に関する事務的伝達事項」　平村主任主事（事務局総務課）

3) 平成30年度学内研究助成成果報告会の開催

ポスター発表形式で実施した。13課題の発表がなされた。　参加者：40名(うち院生2名)

開　催　日　時：令和元年8月2日(金)　14：00 ～ 16：00
場　　所：管理棟1階　地域ケア総合センター研修室

4）石川県立大学との合同研究発表会の開催

両大学の学術交流を目的とした研究発表会を実施した。また同時にFD研修会も開催された。

開　催　日　時：令和元年8月7日(水)　15：30 ～ 18：05　参加者：38名(本学関係者)
場　　所：ANAクラウンプラザホテル金沢3階　「瑞雲」
演　題・講　師：
「子育て期にあるがん終末期療養者の在宅生活を支える訪問看護師による支援に関する研究」子吉知恵美　助教
「耕作放棄地草資源としてのヨシの畜産的利用に関する研究」浅野桂吾　助教
「カムアウトする親子　―　同性愛と家族の社会学」三部倫子　講師
「大腸粘液分泌を起点とした大腸がん予防に関する基盤的研究」　東村泰希　准教授
本年度は、受賞された研究を主に発表が行われた。

2．大学全体の研究業績評価

令和元年度外部資金（科研費）獲得件数（9月現在）は、申請39件のうち基盤研究（B）が0件、研究活動スタート支援1件、基盤研究(C)が9件、挑戦的研究（萌芽）が1件［辞退］、若手研究が3件であった。また、令和2年度には、27件の申請があった。

また、平成31年度申請時から引き続き、同申請書のブラッシュアップを目的とした、申請書作成支援を行った。令和2年度申請時には3名が利用した（2名対面、1名書面のみ）。

4.4.1.4　学内研究助成審査委員会

委 員 長：長谷川 昇　教授
委　　員：中田教授、亀田教授、西村教授、牧野教授
事 務 局：中村専門員
活動内容：

本委員会は、学内研究助成全般のあり方の検討と実際の学内研究助成に関する申請書類の審査、報告書の評価、予算案の提案を主たる活動とする。

平成31（令和1）年度は3回の委員会を開催し、研究成果公表の申請がある場合は随時審査を実施した。

平成31年4月に平成31年度学内研究助成（研究プロジェクト）の2次募集を行ったが、採択件数は0であった（申請1件、取り下げ）。令和2年1月には令和2年度学内研究助成（研究プロジェクト）の1次募集を行い、2月の委員会で、昨年度から引き続き2年申請として採択済みの課題7件（うち、3件は計画変更）、新規4件の課題（うち、2件が2年申請）を採択した。その他に、研究成果公表助成5件（海外渡航費助成2件学術論文等掲載費助成3件）を採択した。

4.4.1.5　石川看護雑誌編集委員会

委 員 長：今井 美和　教授
委　　員：西村教授、牧野教授、中田教授、亀田教授、松原教授

委員補助：子吉助教、今方助教
活動内容：
「石川看護雑誌」第17巻の編集を行った。第17巻には総説1編、原著論文4編、資料2編の計7編の論文が掲載された。

4.4.1.6　情報システム委員会(含むセキュリティ)

委 員 長：谷本 千恵　准教授
委　　員：小林教授、市丸准教授、曽山講師、松本講師
事 務 局：平村主任主事
開催頻度：随時
活動内容：
1．第1回石川県公立大学法人情報セキュリティ委員会への参加
開 催 日：8月9日　15時～ 16時20分
開催場所：石川県立大学
参 加 者：谷本委員長、小林教授、平村主任主事；(県立大学) 桶教授（委員長)、一恩教授、
大和主任主事；(法人本部)　宮島総務課長、井田主事
法人より以下の議題について説明があり、リモートアクセスの導入に向けて意見交換を行った。
議題1：情報セキュリティ緊急時対応マニュアル及び連絡体制
議題2：リモートアクセスの導入及びポリシーの改正について

2．情報セキュリティ教育ならびに情報システムの説明
1）新任教職員研修（委員長、平村主任主事）
開催日：4月1日(月)　午後
法人情報セキュリティーポリシーの概要ならびに情報システムに関する事項の説明を行った。

2）リモートアクセス用PCの運用・操作説明会（法人本部井田主事、平村主任主事）
開催日：9月20日(金)10時30分～ 12時
場所：本学管理棟研修室
情報セキュリティー上の注意点ならびにPCの利用申請・操作方法等について説明がなされた。

3．石川県公立大学法人情報ネットワークシステム保守委託業務の作業実績報告会議への参加（年4回）（委員長・平村主任主事）
保守委託業務の作業実績報告を受け、法人本部・両大学・業者の間で情報共有・意見交換を行った。

4.4.1.7　広報委員会

委 員 長：木森 佳子　准教授
委　　員：武山教授（附属地域ケア総合センター長)、多久和教授（学生部長)、
林教授（附属看護キャリア支援センター長)、米田准教授（国際交流委員長)、
西村教授（附属図書館長)、川島教授（研究科長)、小林教授、西田事務局長、

上杉アドミッションアドバイザー
委員補助：子吉助教、瀧澤助教、河合助手
事 務 局：宮川専門員
活動内容：

1. 委員会開催

年7回開催、広報戦略について大学教職員、学生広報委員による提案を活かした広報活動を検討した。主には、広報媒体を作成する業者を一元化し、ホームページ、大学案内、大学新聞（IPNU）をリニューアルした。

2. オープンキャンパス

1）第20回　令和元年度　オープンキャンパス2019の企画立案・準備・実施

夏：開催日時　令和元年 7月13日（土）10：00 ～ 14:00　参加者334名

看護系の実習室、スキルラボの紹介を企画した。それぞれの領域・講座において企画を工夫して授業風景の展示や看護体験をしてもらった。学生からは普段の学生生活、実習、海外研修について紹介した。今回は例年開催している模擬授業に替えて、本学で養成する看護職について詳しく知ってもらうため、看護師、保健師、助産師、養護教諭として活躍する卒業生から本学での学びや仕事内容に関する講演を開催した。相談コーナーは例年同様、学生主体で企画した。

秋：開催日時　令和元年10月19日（土）10：00 ～ 12:00　参加者167名

例年同様、大学紹介と入試準備セミナーを実施した。

2）第21回　令和2年度　オープンキャンパス2020の検討

参加者アンケートの回答内容等をふまえ、実施内容を検討した。

3. キャンパスネット　IPNU（大学新聞）

1）第36巻　2019.11の企画立案・編集・発行

特集は『1年生の6か月』を取り上げた。新しい連載企画として教員の取り組む研究内容を紹介する『My Research』を掲載した。そのほかに海外研修、卒業生記事、入学式、大学祭、附属機関（附属図書館、地域ケア総合センター、看護キャリア支援センター）の紹介、能登地区での学生の活動などを紹介した。

2）第37巻　2020. 5の企画立案

特集は『訪問看護』を取り上げた。地域ケアを重要視する本学の特徴の一つとして広報する。卒業式、修了式の他、トピックとして2019年11月30日、12月1日に金沢市で開催した第39回日本看護科学学会学術集会（大会長：石垣学長）の記事を紹介する。

4. ホームページのリニューアル

ホームページをリニューアルした。今回のリニューアルで重要視したのは『訪問者』である。本学にとってのステークホルダーを明確にし、トップページから下位ページまでを戸惑うことなく導けるようなシンプルなトップページとした。リニューアル後、大きなトラブルなく運用できている。トップページの写真をスライドショースタイルは継続し1-2か月ごとを目途に写真を更新した。主に学生の活動を掲載した。業者と適宜ミーティングを開催し改善に

ついて検討した。

5. 大学案内（学部・大学院）、広報誌の発行

1）2020（学部・大学院）の企画立案・編集・発行

業者を変更しリニューアルした。本学の全体的キャリアパスマップ、普段の学生生活や大学周辺のマップを新しく追加掲載した。

2）2020広報誌の企画立案・編集

業者に依頼し広報誌をリニューアルした。本学の強みに特化し、高校訪問などで手短に本学を広報することを目的としシンプルに伝えることを重要視した。

6. 大学コンソーシアム石川

1）情報発信部会

・第1回　令和元年5月10日（金）
・第2回　令和元年9月5日（木）
・第3回　令和元年11月5日（火）
・第4回　令和元年12月6日－12月16日（書面付議）
・第5回　令和2年1月24日（金）

2）事業内容

(1)広報事業：石川県の大学ガイドブック「イシカレ」等、発行協力

(2)出張オープンキャンパス事業　本学実績は県内3校

(3)学都石川大学・短大合同進学説明会の開催

7月15日（月・祝）金沢駅東もてなしドーム地下広場　10：00－16：00

(4)関東圏母校訪問事業

12月下旬群馬県出身学生1名が母校に訪問し本学の説明をした。

7. 学生広報委員活動のサポート

夏・秋のオープンキャンパスに協力を求めた。学生の意見を取り入れた運営、主に相談コーナーでの活動に取り組んでもらった。オープンキャンパス前のPR動画作成にも協力してもらった。

8. その他

効果が十分とはいえない受験広報誌の掲載を見送り、大学グッズやビデオカメラなどを購入した。金沢駅構内のデジタルサイネージに本学の学生写真を掲載、リビングかなざわ、高校生向けの広報誌「i-teens」に本学の記事を掲載した。高校訪問、高校出展ブース、能登ナーシングカフェの開催に協力した。

令和元年度広報委員会活動総括

昨年度に決定した大学案内、大学新聞（IPNU)、大学ホームページの業者一元化から、それぞれリニューアルした。外部から「わかりやすくなった」と高評価を得ており、本学の魅力を伝える情報発信に寄与したと考える。一方、大学ホームページはトップページのデザイ

ンや機能の意見がまとまらなかったためリニューアルオープンが予定より遅れてしまった。未だ学生サイトがリニューアルオープンしていない。業者の協力を得て来年度夏までにはオープンしたい。今後は学生広報委員をはじめとする学生組織と卒業生にいかに協力してもらいながら情報発信していくかが重要で、持続的な改善とステークホルダーによる評価が必要である。

4.4.1.8　入学試験委員会

委 員 長：石垣 和子　教授
委　　員：武山教授、小林教授、村井教授、川島教授、林教授、塚田准教授、西田事務局長
事 務 局：納橋専門員
活動内容：
1．前年度の実情および問題点・課題等
①作問体制の改善を行う。
②前年度に続いて入試改革に関する作業を行う。
③看護学部受験者増に向けた対策を実施する。

2．今年度の目標
1）全国的な入試改革に対応した本学の意思決定
2）受験生確保に向けた広報の見直し及びその具体化
3）入試問題作成体制の改善（作問委員会役割の浸透不足の解決）
4）その他の入試委員会が担当する作業を確実に行う。課題を発見し、その解決につなげる。

3．今年度の活動内容･その評価
1）定例的な入試業務について
①看護学部及び看護学研究科の入学試験の一連の事務作業は入試実施部会の計画の基に円滑・確実に実施できた。センター入試においても同様にできた。
②助産学生の選抜日程の5月から7月への変更と大学院学内選抜の同日実施を行った。
2）入試改革の検討について
①英語外部試験の導入や記述式問題の採用などについて文部科学省から年度末までの方針公表を求められホームページに公表した。
②受験時に高校に求める調査書の一部見直しを行い、新活動報告書の腹案を作成した。
3）新型コロナウィルス対策について
①一般入試前期日程、後期日程において安全な試験体制を整えて実施した。
4）受験者確保対策について
①高等学校の教員経験者をアドミッションアドバイザー（AA）として新たに任用した。
②AAのアドバイスのもとに、高校個別訪問時期・対象校を見直し効果向上を目指した。
③入試倍率が前年度より回復し、その一因として時機を得た高校訪問が挙げられるのではないかと思われる。
5）作問体制の改善について
①大多数の作問委員長の役割発揮に困難性があり、問題編集部会の問題のブラッシュアッ

プに割く時間が減らなかった。次年度の課題として残った。

4. 次年度以降に向けた課題・発展
   1) 入試委員長⇔問題編集部会長⇔作問委員長⇔作問者による作問体制を検討しなおす必要がある。
   2) 入試改革においては引き続き、詳細を決定する必要があり、さらにその2年後の2段階目の入試改革への対応が必要である。
   3) 看護学部受験者増に向けた対策を継続して考える必要がある。

4.4.1.8.1　入試実施部会

部 会 長：非公開
部 会 員：非公開
活動内容：
1. 看護学部入学試験の準備・実施体制およびそれに付随する業務
2. 研究科入学試験の準備・実施体制およびそれに付随する業務
3. 大学入試センター試験の会場準備・実施体制およびそれに付随する業務

4.4.1.8.2　入試評価部会

部 会 長：非公開
部 会 員：非公開
活動内容：
令和4（2022）年度以降の大学入学者選抜において受験生が提出する書類の検討を行った。学校推薦型選抜試験においては、志願者の「学力の3要素」をより多面的・総合的に評価するため新規に『活動報告書』の記述を求めること、加えて推薦書書式を改訂することを決定した。社会人選抜試験においては、受験生のこれまでの活動実態を解りやすく記述する書式に変更することを決定した。これらについて原則、変更2年前告知として本学ホームページにて公表、及び高等学校に対して文書にて周知した。

4.4.1.9　自己点検・評価委員会

委 員 長：石垣 和子　教授（学長）
委　　員：川島教授（研究科長）、西村教授(附属図書館長)、多久和教授(学生部長)、武山教授（附属地域ケア総合センター長)、林教授（附属看護キャリア支援センター長)、村井教授（教員評価部会長)、市丸准教授（年報部会長)、中田教授（教務委員長)、垣花准教授（FD委員長)、牧野教授（学長補佐)、今井教授（学長補佐)、浅見特任教授（アカデミックアドバイサー)、西田事務局長
委員長補助：金子助教、大江助教、瀬戸助教
事 務 局：平村主任主事
委員会開催頻度：隔月開催　計6回開催
活動内容：
1. 前年度の状況及び問題点･課題

①認証評価受審の準備及び現地調査受審への対応
②H30末に実施した在学生調査、卒業生調査の分析
③成績の質保証、教育の順序性検討の継続
④教員評価方法の検討（複数年評価）
⑤職位ごとの教育力、研究力の標準化作業の次年度への繰り延べ
⑥本学独自のIRの探求及び法人と連携したIRの探求

2. 今年度の目標
1）認証評価の受審
2）例年通りの年報の作成
3）教員複数年評価の早期開始のための検討の加速
4）職位に応じた教員力量の判断基準の検討開始

3. 今年度の活動内容･その評価
1）認証評価の受審：認証評価WGが推進役となり、受審のための資料の整理、訪問調査の受け入れ準備を行った。当日（10月）は台風襲来のため日程短縮になったが無事終了した。教育の内部質保証に関する質疑が大変多く、近年の認証評価の目的が「教育の質」に集中していることが感じ取られた。
2）教員複数年評価の検討を本格的に行い、教員全体会議（8月）にてグループワーク形式での意見収集等を行った。次年度開始の方向性をもって評価票の見直しを行った。
3）年報は予定通り発行された。
4）成績の質保証、教育の順序性、IRの探求については検討が進まなかった（認証評価の受審に時間を割いたため）。
5）FD委員会からの提案により、講義終了後に行う個別授業評価アンケート項目の見直しを行ったが最終結論には至らなかった。
6）法人の募集したアクションプランに「卒業生の就職先への聞き取り調査」が採択され、業者に委託して6医療機関からの卒業生に対する客観的評価を得た。次年度に分析・評価し、教育の内部質保証に活用する。

4. 次年度以降に向けた課題
①教育の内部質保証の本学初めてのPDCAサイクルを回す試みを行う
②教育の質保証のための調査の改善点の検討
③成績の質保証、教育の順序性検討の継続
④教員複数年評価の試行の開始の実現
⑤職位ごとの教育力、研究力の標準化の検討
⑥本学独自のIRの探求と法人と連携したIRの探求

4.4.1.9.1　教員評価部会

部 会 長：村井 嘉子　教授
部 会 員：今井教授、濵教授

活動内容：

前年度に引き続き、教員活動評価の複数年評価を採用している公立大学の情報収集を行い、それを土台に本学の教員活動複数年評価における評価指標及び方法を教員全体会議で提案し、それを基に加筆修正をして教員活動複数年評価指標、評価方法等を決定した。次年度（令和2年）より試行する。

また、これまでの教員活動評価における単年評価の取り組みのプロセスを振り返り、単年評価及び複数年評価の方向性を提案し、教員単年評価は令和2（2020）年度をもって一旦終了することを決定した。

4.4.1.9.2　年報編集部会

部 会 長：市丸 徹　准教授

部 会 員：松原教授、川村講師、曽根講師

事 務 局：平村主任主事

活動内容：

平成30年度の年報　第19巻を発行した。また令和元年度年報　第20巻の原稿執筆依頼に際し、これまで各委員会ごとに様々であった担当教職員の記述様式を統一するよう作成要領を改訂し、周知した。

4.4.1.10　FD委員会

委 員 長：垣花 渉　准教授

委　　員：阿部准教授、市丸准教授、金谷講師、川村講師

事 務 局：納橋専門員

活動内容：

1．FD研修会

平成30年度の課題は、アクティブ・ラーニングを推進する授業法の実施であった。そのため、令和1年度は学生が主体的に学ぶ授業に関する研修会を実施した。

1）学内FD研修会

2月13日に、西村秀雄先生（金沢工業大学基礎教育部教授）を招き、「科目間連携によって実現するカリキュラムの実質化」をテーマに本学から37名の参加があった。西村教授は、学生が主体的に学ぶためには教員が科目と科目のつながり方を示すとともに、何をどのように学ぶのかを学生へ説明することが重要であると解説した。

2）学外FD研修会

8月7日に、本学と県立大学主催のFD合同研修会を行い、本学から30名の参加があった。「人気のある授業のからくりを探る」をテーマに、授業の実践例を本学と県立大学の教員が2名ずつ報告した。学生が主体的に学ぶためには、構造化された授業のもとで「参加型」授業の環境をつくることが重要であることを討論した。

令和2年度には、学生の主体的な参加を促す授業実践に関する研修会を計画している。

2．授業評価の実施

平成30年度の課題は、学生の授業評価が低い項目についてその理由を分析することであった。そのため、令和1年度は、授業評価票の質問項目を見直すことを検討した。

1）授業評価票のうち低い評定の分析

授業評価票の各質問項目に対して、低い評定が占める割合を調べるとともに、低い評定の理由を集約した。その結果、低い評定が占める割合は全体の5%を下回り、過去2年と同様であった。低い評定の理由のうち約半数は、授業実践に関するものであった。

2）授業実践に関する調査

学生の授業評価が高い講義科目を担当する教員6名に対して、学生が積極的に学ぶための授業の工夫および仕掛けについて聞き取り調査を行った。その結果、①振り返りの活用、②小テストの活用、③教材や資料のわかりやすさ、④課題に向かう学生への意識づけ、が抽出された。

令和2年度には、授業評価票の質問項目の修正を計画している。

3．教育力向上に関する先進事例の調査

平成30年度の課題は、高校と大学の接続教育の実践事例を具体的に調査することであった。そのため、令和1年度は、実践事例の把握に取り組んだ。

1）高大接続教育の情報収集

金沢大学医薬保健学域保健学類では、入試制度を活用して高校での教育を大学へつなげる仕組みを計画している。併せて、入学後の初年次教育の場に高校生を招き大学教育を体験する機会を今年度から開始した。

令和2年度には、金沢大学の取組を引き続き調査するとともに、他大学の実践例についても調査したい。

4.4.1.11　ハラスメント委員会

委 員 長：石垣 和子　教授（学長）

委　　員：長谷川教授、中田教授、牧野教授、阿部准教授、西田事務局長

相 談 員：武山教授、亀田教授、阿部准教授、清水講師

委員会開催：2回(必要に応じて開催)

活動内容：

1．前年度の状況及び問題点･課題

教員から学生へのハラスメント予防の研修会の開催

顕在化しないハラスメントの実態把握

2．今年度の目標

ハラスメント案件が発生した場合には適切に対処する。

ハラスメントを予防するような職場環境を醸成する。

3．今年度の活動内容･その評価

1）ハラスメントの訴えはなかったが、訴えに近い情報提供があったため委員会を開催して共有した。

2）研修会の開催については、開催のための根拠がある方が望ましいと考え、まず潜在するハラスメントの実態把握のための作業を行った。全教職員（非常勤を含む)、全学部学生、

全大学院学生、全研修生（認知症認定看護師養成課程）にアンケート票を配布。無記名、自記式調査である。実施時期2020年2月-3月。分析は次年度に持ち越し。

4. 次年度以降に向けた課題

①アンケート結果の集計・分析、本学のハラスメント課題の導出

②必要と思われる研修会の開催

③職場環境改善の検討を継続

4.4.1.12　コンプライアンス委員会

委 員 長：川島 和代　教授

委　　員：松原教授、多久和教授、三部講師、西田事務局長

事 務 局：松本専門員

活動内容：

倫理委員会との連携の重要性に鑑み、研究倫理委員会とコンプライアンス委員会共催により令和元年12月23日（月）2限に研修会を開催した（参加者：教員及び大学院生計60名）。

石川県公立大学法人の『公的研究費の適正使用に関するハンドブック』に基づいて教育実施担当者から説明をいただき適正な研究費の執行に向けての啓発活動を行った。

平成29年4月よりCITI Japanから事業を継続したAPRIN（Association for the Promotion of Research Integrity:一般財団法人公正研究推進協会）に本学は法人本部を通じて引き続き機関登録しており、新任教員の受講を確認するとともに大学院生に受講を奨励し、さらなる研究倫理の推進を確認した。令和2年度末までには教員の受講率は100%である。引き続き、新任教員や大学院生に十分浸透するよう、次年度以降も新任教員へのオリエンテーションや大学院の授業等で推奨する予定である。

4.4.1.13　倫理委員会

委 員 長：川島 和代　教授

委　　員：多久和教授、濵教授、西村教授、紺家教授、谷本准教授、三部講師
外部委員（8名）

事 務 局：杉本主任主事

活動内容：

1. 委員会開催状況

1）令和元年度は、学長が委嘱した8名（各回2名）の外部委員の参加を得て、計10回の委員会を行った。倫理審査案件のなかった2月は委員会は休会した。

2）倫理委員会の開催日（迅速審査・通常審査）を公開し、毎月申請日を事務局よりメール配信したところ、円滑な運営ができたと考える。

3）倫理審査案件の深読みの担当者を定めできるだけ各委員にかかる負担を最小とした。また、毎回同様の指摘事項・修正事項に関してはまとめて倫理・コンプライアンス研修時に報告し、次年度からの倫理審査申請書の変更案に反映することとなった。

2. 倫理審査案件について

1）令和元年度の通常申請数は、教員14件、大学院博士前期課程院生15件、博士後期課程院生 3件、卒業論文20件、迅速審査14件で合計 64件であった。H30年度は59件)。審査の結果は、通常審査において承認15％（昨年24％)、条件付き承認85％（昨年74％)、変更の勧告0％（昨年2％)、不承認0％（昨年0％)、非該当0％（昨年0％）であった。

2）条件付承認は、修正された申請の再審査で、100％が承認となった。

3）倫理審査で修正提案があった内容には、以下の案件があった。

①対象数が少ない研究の場合、研究協力施設の管理者名から研究対象者が特定される可能性があるため、「承諾書」についても文書の管理・保管を適切に行った方が良い。

②医療機関い入院中の患者へのインタビューを実施する際、患者が中途辞退等を行いたくても病院看護師も研究者と親しい関係もあることが想定され、伝えにくい可能性がある。適切な第三者（事務局など）を提示する必要がある。

③学内でアンケート調査を実施する際、回収ボックスは持ちだされてしまうことも危惧され、調査回収等のロッカー等の設置も検討してはどうかという意見が出た。

④「アンケートに回答しなくても不利益はない」と一律記載されているが、その内容が重要である。どのような不利益がないかも記載する。

⑤研究協力してくれる方に対する謝礼の範囲について大学としてのガイドラインやポリシーが必要である。

⑥身体に負荷がかかる実験的研究に対しても大学としてのガイドライン必要ではないか。

3．研修会の開催について

1）令和元年12月23日（月）2限に倫理委員会、・コンプライアンス委員会の合同研修会を開催した。講師は本学の事務局総務課平村主任主事、倫理委員会委員紺家、三部、川島が担当した。(進行　西村）院生にも公開して広く学内に周知を図った。参加者総数は60名であった。

2）出席できなかった教員・大学院生には聴講できるよう、講師の許可を得て録画した研修会内容を2ヶ月間Pドライブに搭載し視聴可能とした。

4.4.1.14　衛生委員会

委 員 長：今井 美和　教授

委　　員：金子助教、瀧澤助教、西田事務局長、野川嘱託、中川産業医

事 務 局：中村専門員

活動内容：

1．職場巡視

校舎の設備や衛生状態について職場を3回巡視した［6月10日、12月16日、3月9日］。なお、巡視前にこれらに関する状況を職員からメールにて収集した。

2．定期健康診断

受診状況を調査し､「職員保健だより（春号）(冬号)」やメールにて職員に受診を勧奨した。

3．ストレスチェック、長時間労働

法人の指示に従い、7～8月にストレスチェックを実施し、職員に受検を勧奨した。また、職員（転任、新任を含む）にリーフレット「自分の時間外労働について考えよう　働き過ぎ

て疲れていませんか？」（衛生委員会作成）を配布した。

4．消防避難訓練

防火管理者の管理のもとで消防避難訓練（地震対応訓練を含む）を7月16日（火）に実施した。学生及び職員約278名が参加した。

5．敷地内全面禁煙

禁煙宣言から3年経った6月12日にメールにて職員に再度周知した。

6．環境マネジメント

他大学の取り組みも参考にして、「職員保健だより（冬号）」にて、節電、エコマーク商品等の購入、紙媒体の電子化、図書館のリユース市などを啓発した。

7．「職員保健だより（春号）（冬号）」の発行

春号では、定期健康診断の受診勧奨、保健室の窓から、職場巡視結果からのお願いなど、冬号では、定期健康診断の受診勧奨、ストレスチェック時代のメンタルヘルス、職場巡視結果と対応、環境マネジメント、消防訓練の振り返りについて掲載し、職員に配布した。

4.4.2　特設委員会

4.4.2.1　20周年記念事業委員会

委 員 長：石垣 和子　教授（学長）

副委員長：中道准教授

委　　員：武山教授、丸岡特任教授、米田准教授、桜井准教授、寺井講師、曽根講師、
川村講師、田淵助教、千原助教、南堀助教、瀧澤助教、
西田局長、田畠教務学生課長

活動内容：

1．2020年5月30日開催予定の開学20周年記念事業の準備全般

①記念誌発行に向けた執筆依頼、冊子印刷及びDVD作成

②式典会場の決定、記念式典の次第の決定

③記念講演者、記念シンポジストの決定及び依頼

④懇親会の開催、懇親会次第、リレートーク者の決定と事前準備

⑤記念品の決定（バック等）

⑥式典招待者と案内発送先の選定及び発送

⑦予算の確保（後援会、同窓会等から寄付）

2．新型コロナ感染拡大危惧から記念式典中止の決定と事後処理

2019年度末に感染拡大傾向が強まっていることに鑑みて2020年5月には開催が困難と判断。式典中止を決定。

1年遅れで式典を行うかどうかは保留とした。

次年度へ繰り越す作業：

記念誌、記念品、DVDの配布（20周年記念事業委員会が事後処理する）

式典、懇親会中止の挨拶状配布（20周年記念事業委員会が事後処理する）

1年遅れの式典開催の是非の検討（時機を見て教育研究審議会にて検討する）

4.4.2.2　省エネ・働き方改革ワーキング

委 員 長：石垣 和子　教授（学長）

委　　員：木森准教授、小林教授、今井教授、濵教授、牧野教授、紺家教授、川村講師
浅見特任教授

活動内容：

1．会議

今年度計6回開催した。国が打ち出している「働き方改革」を参照にしつつ、本学における働き方において比較的時間を要する内容を洗い出し、働き方に活かせるよう検討した。

2．検討内容

1）所定労働時間制度を労働時間制度としてはどうか。

これまでの所定就業時刻 8時30分―17時（休憩45分）、所定労働時間 7時間45分/日では、学部授業時間割、窓口業務などで適切に遂行できない。そこでフレックスタイム制度の一部を取り入れ、就業時刻を労働者側である程度決めて、7時間45分/日の所定労働時間を確保した労働時間制度とする。ただし、例えば労働者が13時―21時の所定労働時間で、午前中に会議があった場合、会議分の労働時間は他の日に代休として取得してもよい。必ず取得する、ということではなく個人の裁量にまかせる。

2）委員会活動について会議の持ち方、構成委員数などを変更してみてはどうか。

委員会の数や委員会の種類、会議時間などよっては業務負担に影響する可能性がある。来年度より委員会によって3人の委員数で試行してみる。会議の所用時間は1時間を目安として45-90分内とし、開催は午前中と17時以降を避ける。メール会議も会議として位置付ける。これらにより会議の準備や後処理に時間を要する可能性がある。事務担当や委員長補佐と連携し支援を得る。また、業務改善ツールのサイボウズで会議開催場所を予約するなど業務の効率化をはかる。

3．次年度に向けた課題

1）授業について

委員会活動と同様に「授業」に関する業務が時間を要する内容として挙げられている。単なる過重な負担だけでなく、委員会活動などにも影響がある。教育の特性上、実習は学生だけでなく実習対象者、実習指導者にもよるが「働き方」の改善に向け検討していく。

2）変動労働時間制を取り入れた労働時間制度

労働時間制度をさらに効率的、個人調整しやすくするために変形労働時間制を取り入れてはどうか。ただし委員会会議、授業、授業のために個人で調整するには時間がある。委員会会議などをいれず個人調整が可能な期間を提案し、教職員の合意を得たい。

3）学長から教職員へのメッセージ

重点的な取り組みやその考え方等「働き方」の背景と目的を教職員が理解できるようにし

たい。

4.4.2.3　語学力推進ワーキング

ワーキング長：石垣 和子　教授（学長）
ワーキング副長：加藤准教授
ワーキングメンバー：寺井講師、松本講師、磯助教、瀬戸助教、大江助教
事務補助：宮川専門員
活動内容：
1．ワーキングの設置趣旨
　本学のグローカル人材育成方針に基づく学生の海外研修の効果の向上や海外研修引率教員の確保、グローバル化の進む今日にふさわしい研究成果の発信、将来的な英語による講義の導入等を見据え、学生や教員の語学力向上を目指す。

2．2019年度の目標
①海外研修に出かける学生の語学力の向上　　出発前　及び　帰国後
②一般学生の語学力向上
③若手教員の語学力向上
④全教員の語学力向上
⑤米国留学が可能となるレベルの英語能力を有する教員の複数確保

3．活動実績
1）英語力の推進について
◆学生向けの英語講習会実現の可能性の探求
ネットを通じた業者探し、WGメンバーによる個人的な講師探し等･･･2回講師を招いて試行
◆海外研修経験学生に対するネイティブ教員による英語力補強機会の提供
11月にドーレンボス教授夫妻を招聘して実施･･･成功裏に終わった
◆教員向けのTOEIC講座の実施とTOEIC試験の受験機会の提供
生涯教育プログラムを持つ北國文化講座を導入し講座を学内で2回実施
TOEIC受験機会提供1回　受験者数18名
2）韓国語力の推進について
◆講師探し：国際交流協会等を通じた探索
◆韓国語講座の実績
開催回数　2回／月　　11月－2月
受講学生　15名

4．振り返り
メンバーの発案と尽力により語学力向上のための様々な試みが行われた。
それぞれに手ごたえや徒労感があったが、基本は学生や教員のモチベーションにあり、次年度以降はこのWGで得た手掛かりを基に方針を絞ることが必要と考えられた。

4.4.2.4　基礎科学教育拡充ワーキング

委 員 長：石垣 和子　教授（学長）
副委員長：市丸准教授
委　　員：武山教授、小林教授、松原教授、今井教授、多久和教授、長谷川教授、垣花准教授、加藤准教授、三部講師

本ワーキングの目的
◆学部生に対する実証・実測的な方法を用いた基礎科学教育の充実を図ること
◆人間科学、健康科学教員の研究体制充実を図ること
上記2点のための施設設備、組織体制の検討

活動内容：
1. フリーディスカッション2回
2. 年度末に健康科学領域の教員人事が3件予定されているため、予備的な検討に終始

次年度への課題
1. 新教授3名を加えた具体的な検討
2. 購入備品の検討
3. 法人に対する情報提供

4.5　2019年度　卒業研究論文題目一覧

領域または科目群	氏　　名	論　　文　　題　　目
人間科学領域 （16人）	秋山実瑞穂	高齢者の歩行を基盤とした生活習慣が動脈スティフネスに及ぼす影響 －指尖容積脈波測定を通して－
	石田　恵梨	看護学生の家族機能とバーンアウトの関連についての量的研究
	石村明香里	医療通訳者の不満や要望に関する文献検討
	岩下茉莉花	小児がんの子どもを亡くした家族へのグリーフケア －継続した支援のために必要な連携－
	太田　佑輝	トレッドミル歩行時の体幹動揺パターンの個人差
	尾西　真奈	看護学生の実習中における身だしなみについて
	北島絵里奈	ミニトランポリンを用いたホッピング運動が自律神経の活動に及ぼす即自的な影響
	木村　早希	ミニトランポリンを用いたホッピング運動が下肢筋活動に及ぼす影響
	久郷友季菜	女子看護学生の健康への意識と生活習慣
	源田　里沙	小児看護学実習における子どもとのコミュニケーションの問題とその対処について
	小林　真生	HIV抗体検査における保健師の役割 －HIVへの差別に焦点を当てて－
	高本　莉奈	歩行速度と傾斜角度が歩行中の体幹動揺幅に与える影響
	中田　涼乃	トレッドミル歩行時の左右対称性・定常性
	服部帆乃夏	臨地実習における看護学生の自己開示の実態について
	宮田　麻衣	養護教諭が参加した研修の文献検討 －研修の詳細と課題について－
	山本紗弥加	看護学生が就職先を決定する際の影響要因について －他者関連的要因、状況適合的要因、施設的要因の比較－
健康科学領域 （12人）	飛鳥井彩加	月経教育プログラム内容の検討 －月経痛と社会的時差ボケ（SJL）との関連－
	岩田まなみ	看護大生の生活習慣の実態と身体の健康状態との関連
	大岡　未咲	月経教育プログラム内容の検討 －月経痛と月経観の関連性－

領域または科目群	氏　　名	論　　文　　題　　目
健康科学領域 （12人）	尾西実千瑠	椿茶が骨密度へ及ぼす効果に関する研究 －年齢による効果への影響－
	春日　祥子	婦人科がん患者のリンパ浮腫に対する看護の問題と対策
	河口祐里奈	月経教育プログラム内容の検討 －セルフケアの実態－
	中田つぐみ	飲用していた椿茶を中断することによる骨密度の変化に関する研究
	野村　巴菜	HPVワクチン接種対象者の子宮頸がん予防に関する知識・意識の状況 －接種勧奨差し控えの影響に注目した文献検討－
	浜田　幸恵	県内の在宅高齢者を支える訪問看護師の抱く達成感・困難感についての研究
	深田　夏海	椿茶の骨密度増加に対する飲用期間の影響
	松浦　史歩	看護学生のストレスと睡眠の関係
	山本　美香	AYA世代における子宮頸がん検診無料クーポン配布の効果
看護専門領域 基礎看護学（7人）	小嶋　菊乃	主観的評価による目視困難な末梢静脈の可視化のための最適な光波長の選択
	千寺丸晴香	森林映像が脳活動に与える影響 －RE尺度による評価－
	立川　啓太	森林映像が脳活動に与える影響 －近赤外分光法による評価－
	中村さくら	在宅復帰する神経難病患者・家族の不安に対する病棟看護師の認識とその支援
	山下　大揮	客観的評価による目視困難な末梢静脈可視化のための最適な光波長の選択
	和田　朋子	高齢・人口減少地域の病棟看護師が実践する退院支援の実態
	桶屋　好未	色彩が人に与えるリラクセーション効果に関する文献検討
看護専門領域 母性看護学（8人）	木戸口　栞	硬膜外麻酔を用いた無痛分娩に対する看護者と妊産婦の認識に関する文献検討
	寺田　真理	退院後の母乳育児支援の現状と課題についての文献研究 －多職種連携に焦点をあてて－
	野川眞咲貴	無痛分娩に対する看護系大学生の認識
	林　　未紗	妊娠期から産後にかけた介入プログラムの実態と今後の課題について

領域または科目群	氏　　名	論　　文　　題　　目
看護専門領域 母性看護学（8人）	村田　樹里	遺族グループの活動の効果と課題に関する文献検討 －周産期に児を亡くした遺族グループへの支援を考える－
	本　　晴奈	妻が産後に里帰りする夫の父親役割獲得を促す支援についての文献検討
	柳澤　真奈	不妊治療後に妊娠した女性の母親役割獲得を支援する助産師・看護師の認識・実態
	酒谷　明里	大学生の性感染症の知識及び予防に関する文献検討
看護専門領域 小児看護学（4人）	今井　輝恵	精神疾患の親を持つ子どもの困難さと支援ニーズについての文献検討
	木下　璃子	若年女性アスリートの月経異常に関する文献検討
	濱端　純伶	クラスメイトへの発達障害の公表に関する文献検討
	吉岡　桃子	慢性疾患をもつ児への移行期支援に関する文献研究
看護専門領域 成人看護学（10人）	青木　美空	看護師のせん妄ケアにおける教育内容とその成果の文献的考察
	川瀬　優佳	乳房切除術を受けた患者のボディイメージに関する文献検討
	木村日菜乃	若手看護師のグリーフワークの効果
	新出　朱音	ICU入室中における患者の体験とその思いに関する文献検討
	西田　琴美	脳血管障害発症直後から2週間における患者が抱く不安や苦悩の文献的考察
	早瀬　彩夏	終末期がん患者が自分らしく生きようと考えるきっかけについて
	干場美沙輝	若手看護師が捉える終末期看護や看取り時の体験
	山原　萌葉	脳動脈瘤患者とその家族の治療過程における心理についての文献検討
	芳本　夕樺	糖尿病患者の食事療法継続に関わる要因についての文献検討
	水戸　早恵	初発乳がん患者の強みを活用しながら療養生活を継続することの文献的考察
看護専門領域 老年看護学（5人）	岩井　　夢	急性期病院での院内デイケアにおける認知症高齢者への効果
	島　　優奈	看護学生の認知症高齢者とのコミュニケーションにおける回想法の実施状況

領域または科目群	氏　　名	論　　文　　題　　目
看護専門領域 老年看護学（5人）	新田　萌華	過疎地域に住む高齢者の転倒・骨折に対する生活上の工夫
	向井　美結	急性期病院での院内デイケアにおける看護実践
	渡辺　恭子	急性期病院における認知症高齢者への院内デイケアの効果 －唾液アミラーゼ活性値を用いた評価－
看護専門領域 地域看護学（8人）	池田　令奈	慢性疾患児が学校生活を送るための支援に関する文献検討
	帯山　杏香	在日中国人留学生の健康意識と保健行動 －国民健康保険の加入と医療機関への受診行動を中心とした考察－
	河端　優佳	日本の看護における補完代替医療の現状と課題 －アロマテラピーからの検討－
	寺西　千晶	発達障害児をもつ母親が抱える育児上の困難と保健師の支援に関する文献検討
	仲田　彩乃	夫の育児協力行動が妻の心理に及ぼす影響についての文献検討
	中村乃々佳	在日中国人留学生の健康意識・行動調査 －インフルエンザの予防行動・対処行動に着目して－
	林　　紗永	労働者の禁煙促進要因と阻害要因
	藤井　一耀	健康増進事業における中年期の参加中断要因の検討
看護専門領域 在宅看護学（4人）	佐々木成美	医療的ケアを必要とする重症心身障害児をもつ母親に対する退院支援についての文献検討
	棚木紗英子	足浴と熟眠との関連に対する研究
	安中　朱里	在宅に向けた人工呼吸器装着児を持つ母親に対する支援
	関浦　　葵	在宅における介護事件の実態 －新聞報道からの検討－
看護専門領域 精神看護学（8人）	鮎川　佳奈	発達障害児に関わる教員の困りごとと養護教諭による支援の現状
	奥野　明莉	子どもの自殺に対する取り組みと周囲の人々への心のケアについて
	尾田まどか	農福連携事業を推進するために必要となることの検討 ～障害のある人への理解に焦点をあてて～
	杉谷　菜月	精神科看護師の非言語的コミュニケーションスキルの分析 －「傾聴」看護に視点を当てて－
	田中　志歩	統合失調症者への退院後の食事に関する医療従事者の働きかけ

領域または科目群	氏　　名	論　　文　　題　　目
看護専門領域 精神看護学（8人）	長井　彩夏	農福連携事業を推進するために必要となること －就労継続のための支援のポイント－
	福井　七海	看護師からみた拒薬傾向のある患者を理解した関わりを継続するための病棟と外来の連携
	三浦　　綾	発達障害児の就学に向けた多職種支援と保健師の役割について

5. 大学院・看護学研究科

5.1　理念・目標

5.1.1　博士前期課程（修士）

5.1.1.1　教育理念

「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性とともに、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」という本学の教育理念を受け継ぎ、深化・発展させる。看護を取り巻く状況が高度化・複雑化・専門化する中にあって、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努める。

5.1.1.2　教育目標

1. 看護教育を支える教育・研究職の育成

　本課程では、学部で蓄積された看護学に関する成果を、さらに深化･発展させることによって時代と地域の要請に応えるため、看護学分野における学術上の先端的役割を担うとともに、知識の体系化と看護技術の開発を積極的に推進し、看護学の学問体系の構築に貢献する教育･研究職の人材を育成する。

2. 高度な専門的知識・技術・実践能力を備えた看護職者の育成

　実践現場において当面する種々の問題について、体系的、継続的に研究を行い、合理的に問題解決できる人材や、看護職に対する指導・相談、関係する職種間の総合的調整能力、ケアの環境条件を積極的に改革していく役割を担う人材の養成が求められている。そうした要請に応えるため、専門看護師（CNS:Certified Nurse Specialist）の養成を図り、もって地域の看護の発展に一層寄与する高度専門職業人を育成する。

3. 女性の一生を通じた性と生殖に関わる健康を推進できる助産師の育成

　時代の流れや社会情勢に高い関心と洞察力を持ち、多様化する女性の生き方や家族のニーズ、専門化・複雑化する助産に対応できる人材や、保健・医療・福祉に携わる多職種と積極的に連携・協働し、継続的に援助を推進できる人材の養成が求められている。そうした要請に応える助産師の養成を図るとともに、助産学の発展に寄与する専門職業人を育成する。

4. 生涯にわたって研鑽できる看護職の知的交流の場づくり

　日々進歩・発展する医療技術と看護環境の変化に機敏に対応し、看護の知識と技術の向上を図るため、看護の実践現場と教育・研究の場の交流を活発にし、地域が要望する質の高い看護サービスの提供を図っていく。そのためには、学部の社会人入学に加えて、卒業後の継続教育、社会人の再教育の場を提供する必要がある。本課程は、このような向上心旺盛な学部卒業生や社会人の受け皿としての機能を持ち、看護現場のより一層の質の向上のために寄与することを目指す。

5.1.1.3　アドミッション・ポリシー（求める人材）

本学の看護学研究科では、入学者選抜試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

1. 幅広い基礎学力を有し、かつ希望する専攻分野の基礎知識を有する人
2. 人間や社会に対して広く興味を持ち、豊かな人間性と高い倫理観を有する人
3. 看護学を通じて地域社会及び国際社会に貢献する意志を有する人
4. 専門看護師コース志望者は、対応する分野の実務経験を有し、専門看護師の資格取得を志す人
5. 助産実践コース志願者は、助産師の免許取得を志す人

5.1.1.4　カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

博士前期課程では、より卓越した看護実践能力と高い研究能力を有し、看護学の研究や教育、看護実践・管理に携わることのできる研究者・教育者・高度看護実践者を育成する。研究コースに加え、専門看護師コースと助産実践コースを設け、次のような教育課程を編成している。

1. 広い視野で看護を学ぶための学際的な科目から構成されている「共通科目A」、科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を育成するための「共通科目B」、各研究教育分野におけるより深い専門性を学ぶ「看護専門科目」を置いている。
2. 国際的な視野を持ち、より効果的な看護を探究し提供していくために、海外の招聘教員による国際看護を学ぶ科目を置いている。
3. 論文作成にあたっては、研究計画の中間報告や複数教員による、組織的で計画的な研究指導体制をとっている。
4. 専門看護師コースでは、特定分野におけるケアとキュアを融合した看護実践力、保健医療福祉チーム内の調整力などの育成をめざし、看護実践力の高い専門看護師とタイアップして日本看護系大学協議会で認定された専門看護師教育を展開している。
5. 助産実践コースでは、助産師免許取得に必要な科目のみならず、多職種と連携してハイリスクに対応でき、多様な年代の性と生殖に関わる健康課題に応えられる専門的知識・技術や倫理的態度を育成する科目を置いている。

5.1.1.5　ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

所定の単位を修得し、次のような研究能力や看護実践能力を有する者に修士（看護学）の学位を授与する。

1. 看護学に寄与する修士論文の作成を通して、学際的で深い科学的知識を基にした体系的な研究方法を修得している。
2. 専門看護師コースでは、1に加えて特定の看護分野における高度な知識と技術を修得している。さらに、総合的な判断力をもって組織的に問題解決をはかる能力を身につけている。
3. 助産実践コースでは、1に加えて専門化・複雑化する助産分野に対応できる助産実践能力と助産管理の基盤となる能力を修得している。さらに、女性のライフサイクル全般の性と生殖に関わる健康課題に応える能力を身につけている。

5.1.2　博士後期課程（博士）

5.1.2.1　教育理念

「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性とともに、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」という本学の教育理念を受け継ぎ、深化・発展させる。看護を取り巻く状況が高度化・複雑化・専門化する中にあって、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努める。

5.1.2.2　教育目標

1. 看護学や看護実践の発展に寄与する教育者・研究者の育成

　看護・保健・医療・福祉を取り巻く環境の変化や地域の要請に対応することができる高度で専門的な知識・技術と、総合的判断力、リーダーシップを備えた看護職を養成する。また、これまで蓄積された経験知や実践知に基づいてより効果的な看護ケアプログラムを開発していくとともに、健康に関する人々の反応や看護援助にまつわる専門的知識を系統的に理解し、諸科学の知見と関わらせながら看護学をさらに体系化し、かつ現代社会の変化や趨勢に照らして看護が果たすべき役割を発展的、科学的、体系的かつ原理的に探求していくことができる教育者・研究者を育成する。

2. 科学的な理解に基づいて看護をデザインできる研究者の育成

　地域社会並びにそこで生活するあらゆる健康レベルの人々やその家族に対して総合的なヘルスケアをデザインするために、高度な理論・方法など学際的な知識体系を修得・活用して新しい看護実践方法、環境、用具等の開発を行なう。さらに、それらの実践の場における有用性の検証を図り、実践に活かせるエビデンスを明らかにできる研究者を育成する。

3. 対象の特性を踏まえた看護を実践できる研究者の育成

　効果的な看護ケアプログラムの開発、あるいは対象者個々の個別性を踏まえ、その人たちが帰属する地域の文化的特性を踏まえた看護援助の開発、エビデンスに基づいた看護援助法の確立をめざした高度の研究を継続的に推進していくことのできる研究者を育成する。

5.1.2.3　アドミッション・ポリシー（求める人材）

入学者選抜試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

1. 実務経験を有し、看護学への探求心を有する人
2. 看護学研究に対する高い動機と学びに必要な基礎的研究能力を身に付け、自立して学修する姿勢を有する人
3. 看護学や看護実践の発展に寄与する意志を有する人
4. 看護学を通じて地域社会及び国際社会に貢献する意志を有する人

5.1.2.4　カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

博士後期課程では、看護学や看護実践の発展に寄与する研究者・教育者を育成するために、教育課程においては次のような点を重視している。

1. 広い視野で看護学の学的基盤を見据え、看護実践のもととなる原理を解明する能力や人々の健康ニーズに役立てる能力を身につけるために、研究計画の中間報告や複数教員による組織的、かつ計画的な研究指導体制をとっている。
2. 学位論文の審査にあたっては、他の大学院等の教員を審査委員に加える等、論文の質の向上と客観性の確保に努める。

5.1.2.5　ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

所定の単位を修得し、看護学や看護実践の発展に向け、学位論文において新しい知見を産出し、自立した研究活動に必要な能力を有する者に博士（看護学）の学位を授与する。

5.2　大学院生の入学・在学・修了の状況

1．入学の状況

1）入学定員・収容定員

単位（人）

課　　程	入学定員	収容定員
博士前期課程	15	25
博士後期課程	3	9

2）試験実施日

	実施日
博士前期課程入学試験（学内選抜）	令和元年 7月 6日（土）
博士前期課程入学試験	令和元年 9月28日（土）
博士前期課程入学試験（第2次募集）応募なし	令和 2年 1月25日（土）
博士後期課程入学試験	令和元年 9月28日（土）

3）受験状況等

単位（人、倍）

	募集定員 A	志願者数 B	志願倍率 B/A	受験者数 C	受験倍率 C/A	合格者数 D	実質倍率 C/D	入学者数
博士前期課程	10	10	1.0	10	1.0	10	1	10(9)
博士前期課程助産	5	3	0.6	3	0.6	3	1	3(3)
博士後期課程	3	5	1.7	4	1.3	3	1.3	3(2)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す
博士前期課程には学内選抜を含む

2．在学の状況（令和2年3月1日現在）

単位（人）

課　　程	1年次	2年次	計
博士前期課程	13(13)	15(14)	28(27)

課　　程	1年次	2年次	3年次	計
博士後期課程	4(4)	2(2)	8(8)	14(14)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

3．修了の状況

1）修了者数と修了後の進路状況　（令和2年3月31日現在）

単位（人）

課　　程	修了者数	修了後の進路
博士前期課程第15期生	10(10)	医療機関、教育機関
博士後期課程第12期生	2(2)	教育機関

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

2）修了後の進路状況（令和2年3月31日現在）

(1) 博士前期課程（第15期生）

単位（人）

区　　分		県内 人数	県外 人数	合計 人数
就　職	医療機関	5	3	8(8)
	研究機関	0	0	0(0)
	教育機関	1	0	1(1)
	保健・福祉機関	0	1	1(1)
合　計		6	4	10(10)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

単位（人）

区　　分		県内 人数	県外 人数	合計 人数
進　学	大学院博士後期課程	0	0	0(0)
	その他	0	0	0(0)
合　計		0	0	0(0)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

(2) 博士後期課程（第12期生）

単位（人）

区　　分		県内 人数	県外 人数	合計 人数
就　職	医療機関	0	0	0(0)
	研究機関	0	0	0(0)
	教育機関	1	1	2(2)
	保健・福祉機関	0	0	0(0)
未　定		0	0	0(0)
合　計		1	1	2(2)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

5.3　大学院教務学生委員会

委 員 長：川島 和代　教授

委　　員：長谷川教授、亀田教授、紺家教授、林教授

事 務 局：田畠教務学生課長、松本専門員

活動内容：

1. 委員会の開催について

大学院教務ならびに院生の学生生活に関する以下の事項について審議・実施し、必要事項は研究科委員会で審議・報告し、大学院運営を行った。

1）年度初めに新入ならびに在学生へのガイダンスを実施した。

2）助産実践コースの大学院生には､助産学担当教員が別枠のオリエンテーションを企画した。時間割・授業がうまく運用できるかモニタリングしながら委員会をすすめた。

3）助産実践コースの大学院生が初めて修士論文審査ならびに論文発表会が実施できるよう論文提出の締め切り、審査期間を前倒しして実施できるよう計画し、助産師国家試験に専念できる期間を確保した。

4）既修得単位、14条学生、長期履修生、科目等履修生、休学･復学の申請書類の確認を行い、研究科委員会への審議実施の準備を行った。

5）前期・後期成績判定、学位授与・修了判定を行った。

6）非常勤講師、院内講義担当者、実習施設から提出された臨床教授に関する申請を受けて検討した。

7）時間割の作成、大学院便覧2020の作成を実施した。

8）在学生との懇談会や修了生へのアンケートを実施し院生の満足度を明らかにし、修学支援を検討した。さらにデイプロマポリシーに沿って学修状況の評価に努めた。

2. 修士論文・博士論文に関する検討・審議について

1）中間評価委員、予備審査・本審査委員の案の検討

平成31年度（令和元年度）の博士前期課程の修士論文（12件：2019年4月実施）の中間評価委員と論文審査委員（15件）（案）、博士後期課程の博士論文（1件：2019年11月実施）の予備審査委員（案）を研究科委員会に提出した。

2）中間報告会（前期・後期）、修論・博論発表会の運営

4月に修士中間報告会（12名発表､参加者77名）､7月に博士後期課程の中間報告会（1名発表、参加者55名）を実施した。

3）修士論文・博士論文発表会の運営

2月に修士論文発表会（15名発表、参加者78名、うち内部76名、外部2名）を実施し、研究科委員会にて合否の判定を行った。引き続き、博士後期課程の院生1名が博士論文を発表した（参加者69名、うち内部69名）。研究科委員会にて審議の結果、修了・学位授与が承認された。

3. 助産看護学分野の開設2年目の運営について

1）助産看護学分野開設2年目（完成年度）を迎え、院生の入学後の学習環境整備（実習室、

院生室）を行った。さらに、研究コースやCNSコースの学生との間で授業の進行や履修状況に差異が生じないか継続的にモニタリングを行った。

2）修士論文作成や審査体制などスケジュールに関して検討し、研究科委員会にて審議依頼を行い、研究コースやCNSコースの院生よりもひと月前倒しで修論審査を実施、円滑な運営に努めた。助産学コース5名の第1期生は、予定通り修了することができた。

4．大学院生の学修環境の改善について

1）7月に委員2名が『大学院生との懇談会』をもった。院生からの要望をとりまとめ研究科委員会で報告を行った。また、プリンターの補充と書籍の購入（研究科長預り金）を行った。

2）院生室の蛍光灯が暗い、デスクが場所によって照度に差異があるとのことであり、照度測定を行った。修士論文作成時期に院生室が冷えるとの要望があり、昨年に引き続き暖房器具を貸与した。

5．大学院教育懇談会の開催について

大学院の受験生確保および実習場所拡大、修了生の動向把握を目的に、昨年に続き8回目の「大学院教育懇談会（旧陸3県看護部長懇談会）」を実施し、19名の看護部長等、本学教員22名の参加を得て、意見交換をした。

6.学部生の大学院進学に関する支援について

1）2月に学部3年次学生向けの大学院説明会を開催した。助産学のみならず、健康科学領域や実践看護学領域の分野紹介も行った。大学院への進学を相談に来た学生も見られた。

2）大学院の修士論文・博士論文の発表会に学部生の参加も促し、ポスターの掲示・配布を実施し3名の参加が得られた。

5.4　2019年度　修士論文題目一覧

分　　野	氏　　名	修　士　論　文　題　目	指導教授
助産看護学	沖田　聡子	小学校高学年女子児童への月経教育に関する母親の認識 －月経教育支援のあり方に視点をおいて－	濵　　耕子
助産看護学	新谷里沙子	妊娠期における立ち会い出産に対する夫の認識	濵　　耕子
助産看護学	木村紗也夏	不妊症予防における男女大学生のプレコンセプションヘルスに関する研究 －男性不妊症と予防行動への関心に焦点をあてて－	亀田　幸枝
助産看護学	中村　佳穂	産後1か月における混合栄養で授乳を行う母親の納得と関連要因の検討	亀田　幸枝
助産看護学	川之上莉央	救急搬送された妊産婦受け入れ時における安心につながるケアの実態および看護者の自己評価との関連要因	亀田　幸枝
看護デザイン	三輪　早苗	心的時間測定の咀嚼・嚥下機能への応用	小林　宏光
地域･精神･保健学	渡辺　達也	加齢による視機能の変化の実態把握～ 40歳代に焦点をあてて～	石垣　和子
老年看護学	元女喜久乃	地域在住高齢者にかかわる介護支援専門員の栄養アセスメントとケアプラン作成の実態	川島　和代
老年看護学	松田　知恵	睡眠に障害のある認知症高齢者の入院中の睡眠パターンと光環境の可視化	川島　和代
看護管理学	北川奈美江	2年目看護師が新人看護師と看護ケアを協働した経験	丸岡　直子
看護管理学	北川　　智	病院に勤務する副看護師長が看護師長と協働関係を構築するプロセス	丸岡　直子
子どもと家族の看護学	中田　史世	看護職に対する「子ども虐待防止をめざす支援者育成プログラム:気になる親子に‘気づく･関わる･つなぐ’力を発揮するために」の効果	西村真実子
成人看護学	濱鍛治青水	終末期がん看護実践で抱いたネガティブな感情への対処と気づき	牧野　智恵
老年看護学	古嶋　涼子	高齢患者の地域包括ケア病棟転棟に対する捉え方と転棟直後の体験	川島　和代
老年看護学	津田　裕子	介護老人保健施設における看護師のポリファーマシー改善への介入	川島　和代

5.5　2019年度　博士論文題目一覧

氏　　名	学　位　論　文　論　題　目	指導教授
橋本　智江	介護保険施設における入浴ケア援助者の温熱環境からみたケア実施方法の検討	川島　和代

6. 教員の業績

6.1 書　　籍

6.1.1 書 籍（著 書）

浅見洋，中島優太，山名田沙智子，井上智恵子 （共編著）：発見!!幾多郎ノート西田幾多郎生誕一五〇周年記念（企画展図録）．石川県西田幾多郎記念哲学館，かほく，2020.3

浅見洋 （分担執筆）：　第2章1　死生観を基盤としたエンド・オブ・ライフ・ケア構築のために．長江弘子編集：看護実践にいかす　エンド・オブ・ライフ・ケア第2版．日本看護協会出版会，東京，2019.9

浅見洋，中嶋優太 （共編著）：　西田幾多郎未公開ノート研究資料化　報告Ⅲ（2019）．前田印刷株式会社出版部，金沢，2020.3

亀田幸枝 （分担執筆），編集：北川眞理子、内山和美 （共著）：今日の助産ーマタニティサイクルの助産診断・実践課程ー改訂第4版．第2章-Ⅱ-I、妊娠期の助産診断とアセスメント・ツール、妊娠時合併症を有する診断．南江堂，東京，2019.3

川島和代，真田弘美，正木治恵(共著)：　コミュニケーション、性、感覚器．：老年看護学技術改定第3版．南江堂，東京，2020.3

木森佳子 （分担執筆）：　採血に関わる解剖学．：検査と技術　3号・増刊号　採血のすべてVol. 48　No.3．医学書院，東京，2020.2

紺家千津子 （分担執筆）：　スキン-テア．古賀雄二，深谷智恵子（編集）：日常性の再構築をはかるクリティカルケア看護ー基礎から臨床応用までー．中央法規出版，東京，2019.7

Michiko Sambe （分担執筆）：　Heterosexual marriage and childbirth as a "natural course of life": parenthood as experienced by the genera-tion before the "LGBT boom" (TRANSLATION: MINATA HARA) . Shiobara, Y., Kawabata, K., & Mathews(ed.) : Cultural and Social Division in Contemporary Japan. Routledge, London&New York, 2019.8

三部倫子 （分担執筆）：「原因」としての家族――「同（両）性愛」をめぐって」．江原由美子，加藤秀一，左古輝人，三部倫子，須永将史，林原玲洋（共著）：争点としてのジェンダー――交差する科学・社会・政治．ハーベスト社，東京，2019.10

三部倫子 （分担執筆）：　親になるということ――どちらが「母親？」「父親？」．池田心豪・西村純子（編著）：社会学で考えるライフ＆キャリア――現代社会を歩く道しるべ（仮）．中央経済社，東京，入稿済み，2020

武山雅志 （分担執筆）：　第7章質問紙法2と作業検査法．津川律子・遠藤裕乃（編）：公認心理師の基礎と実践14　心理的アセスメント．遠見書房，東京，2019.4

注1）　本学の教員の氏名の下にはアンダーライン
注2）　本学の学生・院生（卒業・修了生含む）の氏名の下にはアンダーラインかつ氏名の前にアスタリスク（*）

6.2　学術論文

6.2.1　査 読 有

伊藤智子，阿川啓子，加藤真紀，諸岡良介，浅見洋：　島根県江津市の中山間地域に暮らす中高年に対する地域包括エンドオブライフ・ケア構築の課題．厚生の指標，66(6)，31-36，2019.6

*阿川啓子，石垣和子，大湾明美，金子紀子：　中山間地域における地域文化に根ざした訪問看護師の終末期ケア．文化看護学会誌，11(1)，41-49，2019.5

辻村真由子，石垣和子：　家族と暮らす要介護高齢者への排便ケアにおいて訪問看護師が重視していること．文化看護学会誌，11(1)，2019.5

石川倫子，小村三千代，岩本郁子，児玉菜桜：　診療看護師が抱いていた職務上の困難とその対応．日本NP学会誌，3(1)，1-9，2019.5

磯光江，住田悠慈，川島和代：　誤嚥性肺炎を起こした高齢患者の摂食嚥下機能評価と再発予防ケアの継続の実際．石川看護雑誌，17，69-76，2020.3

大西陽子，村井嘉子：　クリティカルケア領域における浅い鎮静深度で管理されている人工呼吸器装着患者に対する看護実践の特徴．日本看護科学学会，39，245-253，2019

桶作梢，田淵紀子：　乳がんサバイバーが子どもに母乳を与える体験．母性衛生，60(2)，320-328，2019.7

垣花渉：　社会参加型の健康づくりをとおした高齢者の行動や健康状態の変化．地域活性研究，11，11-20，2019．9

齊藤陽子，垣花渉：　高齢者の最大下運動負荷試験における主観的疲労と生理学的負荷の個体差．金沢星稜大学人間科学研究，13(1)，65-68，2019．9

加藤穣：　看護系大学における短期海外研修の現状と課題．石川看護雑誌，17，1-10，2020.3

Kato Y.：　A minority view in the national health care system ： the history of neurologic death legislation in Japan. Formosan Journal of Medical Humanities, 20, 18-27, 2019.12

Kato Y.：　Conscientious Objection and Other Grounds for Vaccination Refusals Worldwide. Journal of Philosophy and Ethics in Health Care and Medicine, 13, 11-24, 2019.12

金子紀子，石垣和子，*阿川啓子：　母親の子育ての肯定的感情とソーシャルキャピタルの地域文化的考察．文化看護学会誌，11(1)，12-21，2019.5

片山美穂，北岡和代，中本明世，川村みどり，森岡広美，川口めぐみ：　抑うつ状態にある母親が子どもに感じる思いから辿る育児プロセス．日本看護科学会誌，39，174-182，2019

後藤亜希，西村真実子：　母親の完全主義と育児困難・エンパワーされた経験の関係．石川看護雑誌，17，23-36，2020.3

Jo H, Song C, Ikei H, Enomoto S, Kobayashi H, Miyazaki Y.：　Physiological and psychological effects of forest and urban sounds using high-resolution sound sources, International Journal of Environmental Ressearch and Public Health, 16 (15) , 2649

Kobayashi H, Song C, Ikei H, Park BJ, Kagawa T, Miyazaki Y.：　Combined effect of

walking and forest environment on salivary cortisol concentration, Frontiers in Public Health, 7, 376

前田朝陽，不動政代，長井宏文，東浜由記，斎藤利英，加藤諄，北村佳子，紺家千津子： 慢性閉塞性肺疾患や気管支喘息の患者に対する吸入指導および多職種連携の実態調査．日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌，28(2)，354-360，2019.11

Asano K., Nakajima Y., Mukai K., Urai T., Okuwa M., Sugama J., Konya C., Nakatani T.: Pre-collecting lymphatic vessels form detours following obstruction of lymphatic flow and function as collecting lymphatic vessels.PLOS ONE, https://doi.org/10.1371/journal.pone.0227814, 2020.1

Tanaka K., Ikeuchi S., Teranishi K., Oe M., Morikawa Y., Konya C.: Temperament and Professional Quality of Life Among Japanese Nurses. Nursing Open, https://doi.org/10.1002/nop2.441, 2020.2

瀧澤理穂，牧野智恵： がん体験者が身近な人に病名を伝える上での悩み．石川看護雑誌，17，63-68，2020.3

Aki S, Yoshioka K, Takuwa N, Takuwa Y.: TGFβ receptor endocytosis and Smad signaling require synaptojanin1, PI3K-C2α-, and INPP4B-mediated phosphoinositide conversions., Mol Biol Cell. , 31(5), 360-372. doi: 10.1091/mbc.E19-11-0662. , 2020.3

Ishimaru K, Yoshioka K, Kano K, Kurano M, Saigusa D, Aoki J, Yatomi Y, Takuwa N, Okamoto Y, Proia RL, Takuwa Y. : Sphingosine kinase-2 prevents macrophage cholesterol accumulation and atherosclerosis by stimulating autophagic lipid degradation . Sci Rep., 9(1), 18329. doi: 10.1038/s41598-019-54877-6., 2019.12

田村幸恵，丸岡直子： 看護学実習指導における大学教員の調整行動の構造．石川看護雑誌，17，49-61，2020.3

千原裕香，西村真実子，成田みぎわ，金谷雅代，寺井孝弘，*伊達岡五月，*本部由梨： 青年期前期における「親世代になることに対する意識尺度」の作成と信頼性・妥当性の検討．日本看護科学会誌，39，211-220，2019.12

子吉知恵美： 発達障害児の保護者の受容状況に応じた保健師による支援としての多職種連携のあり方に関する研究．小児保健研究，78 (2)，122-132，2019.3

Hasegawa N., Mochizuki M., Yamada T.: Vitamin D3 supplementation improved cognitive function in diabetic elderly patients with good glycemic control in Japan: A pilot study. International Journal of Nursing & Clinical Practices, 6, 311-314, 2019.6

Hasegawa N., Yamada T., Mochizuki M.: Vitamin D3 supplementationameliorates typical clinical symptoms in children with autism spectrum disorder in Japan; A case study. International Journal of Nursing & Clinical Practices, 7, 318-321, 2019.9

瀧本千紗，濵耕子： 1歳6か月児を養育する父親の育児家事行動の特徴と夫婦関係満足度との関連．母性衛生，60(1)，74-82，2019.4

*渡部香名映，濵耕子： 育児支援を行うことが中心となる双子の祖母の生活．日本助産学会誌，33(2)，213-224，2019.12

瀧本千紗，室津史子，濵耕子： 子育て中の夫の精神援助行動の特性と夫婦関係満足度の関連．

愛媛県立医療技術大学紀要，16(1)，11-17，2019.12

Tomoe Makino，Noboru Hasegawa，Riho Takizawa，Chisato Matsumoto，Takanori Wagatshuma，Keiko Yabushita，Hiroko Kubo，Kenjiro Aogi： Suggestions for Protecting Breast Cancer Patients Receiving Outpatient Chemotherapy and Their Families Against the Exposure Risk from Salivary Cyclophosphamide. International Journal of Nursing & Clinical Practices (ISSN: 2394-4978)，7，2020.3

松原勇： 看護師の早期離職防止の基礎研究．電子情報通信学会研究報告，ET2019-5，27-32，2019.5

松本智里，加藤真由美，兼氏歩，福井清数，髙橋詠二，平松知子，谷口好美： 女性変形性股関節症患者の術前後の歩容の自己評価と心理社会的側面の検討―人工股関節全置換術患者と低侵襲寛骨臼骨切り術患者の比較―．日本看護科学会誌，38，309-317，2018.

丸岡直子，武山雅志，石川倫子，林静子，吉田千文，樋口キエ子，田村幸恵，田淵知世，林一美：病院看護師による在宅療養移行支援質指標の信頼性・妥当性の検討．石川看護雑誌，17，37-48，2020.3

鈴木みずえ、松井陽子，大鷹悦子，市川智恵子，阿部邦彦，古田良江，内藤智義，加藤真由美，谷口好美，平松知子，丸岡直子，小林小百合： パーソン・センタード・ケアを基盤とした認知症高齢者に対する転倒予防プログラムのケアスタッフに対する介入効果．日本老年医学会雑誌，56(4)，487-497，2019.10

Mizue Suzuki ，Masao Kanamori，Yoshie Furuta，Kunihiko Abe，Mayumi Kato，Yoshimi Taniguchi，Tomoko Hiramatsu，Naoko Maruoka，Sayuri Kobayashi，Tomoyoshi Naito，Hiroyuki Shimada，Kiyoko Izumi： Effects of a Fall-Prevention Program for Older Adults with Dementia Based on Person-Centered Care.DOI：10.6890/IJGE.201910/SP.0003. International Journal of Gerontology Special Issue，23-28，2019.10

越川(田中)陽子,村井嘉子： 緊急入院において「記憶のゆがみ」を経験した患者に対するアプローチの方法．石川看護雑誌，17，11-22，2020.3

6.2.2 査 読 無

紺家千津子： 実態からみた医療関連機器圧迫創傷の予防と管理のあり方．日本褥瘡学会誌，21(2)，75-79，2019.6

紺家千津子： 褥瘡・スキンテア 終末期の皮膚をケアで守る．がん看護，24(8)，760-764，2019.11

紺家千津子，田中秀子，真田弘美，貝谷敏子，片岡ひとみ，高橋麻由美，間宮直子，政田美喜，高木良重： 皮膚・排泄ケア認定看護師による病院外施設のストーマ周囲皮膚障害保有者に対する遠隔看護師支援の効果検証．日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌，23(2)，344-349，2019.10

小西千枝，紺家千津子： ABCD-Stomaケアを臨床現場で使用する際のポイント．看護技術，65(4)，326-333，2019.4

Nakamichi J.,Iso M.,Morita S.,Kobayashi H.： Effects of laughter yoga on oral motor and swallowing function of older adults with dementia. Nursing and Family Health

Care, 2, 2019

6.3　その他の原稿

浅見洋：　〈書評〉遊佐道子編『日本哲学ハンドブック』(英文). 西田哲学会年報, 15, 103-107, 2019.6

浅見洋：　上田閑照先生「お別れの会」献辞. 上田閑照先生　お別れの会　弔辞・スピーチ篇, 19, 2019.12

木村宜彰,浅見洋:　対談「鈴木大拙と西田幾多郎二人の哲人が追い求めたもの」.『致知』4月号, 56 - 64, 2020.3

浅見洋：　特集1　趣旨説明「西田幾多郎と鈴木大拙―比較思想の視座から」.比較思想研究（比較思想学会), 46, 1-3, 2003. 3

加藤諭, 曽根原理, 清水翔太郎, 村上麻祐子, 浅見洋, 井上智恵子, 中嶋優太：　展示記録「西田幾多郎と東北大学ゆかりの人々」. 東北大学史料館研究報告, 15, 60-93, 2003. 3

石垣和子：　巻頭言　笑いと文化. 文化看護学会誌, 11(1), 1, 2019.5

奥裕美, 中山洋子, 三浦友里子, 松田安弘, 石川倫子(他14名)：　看護実践能力向上に寄与する看護教員の養成と継続教育に関する調査. 平成29-30年度　厚生労働省科学研究費補助金　地域医療基盤開発推進研究事業　研究報告書, 2019.3

今井美和：　今月のワーク＆テスト 【病理学】 第1回　循環障害. Clinical Study, メヂカルフレンド社（東京), 40(4), 52-57, 2019. 3

今井美和：　今月のワーク＆テスト 【病理学】 第2回　炎症と創傷治癒. Clinical Study, メヂカルフレンド社（東京), 40(5), 51-56, 2019. 4

今井美和：　今月のワーク＆テスト 【病理学】 第3回　免疫. Clinical Study, メヂカルフレンド社（東京), 40(6), 52-57, 2019. 5

今井美和：　今月のワーク＆テスト 【病理学】 第4回　感染症. Clinical Study, メヂカルフレンド社（東京), 40(7), 52-57, 2019. 6

今井美和：　今月のワーク＆テスト 【病理学】 第5回　腫瘍. Clinical Study, メヂカルフレンド社（東京), 40(8), 52-57, 2019. 7

今井美和：　今月のワーク＆テスト 【病理学】 第6回　代謝障害と老化. Clinical Study, メヂカルフレンド社（東京), 40(9), 51-56, 2019. 8

今方裕子：　意見交換会　CNS高度実践看護のあり方. 2019年度北信がんプロ養成基盤形成プラン事業報告書, 2020.3

今方裕子：　第39回日本看護科学学会学術集会に参加して. 2019年度北信がんプロ養成基盤形成プラン事業報告書, 2020.3

大北全俊, 遠矢和希, 加藤穣, 中村フランツィスカ, 花井十伍, 横田恵子：　感染症における倫理的課題に関する研究. 厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究　平成30年度研究報告書, 72-79, 2019.3

紺家千津子, 市岡滋：　これからの医療･看護の方向性と医師、看護師のキャリアパス（座談会). Expert Nurse, 35(15), 62-64, 2019.11

紺家千津子：　ABCD-Stoma®ケアを活用したストーマ周囲皮膚のスキンケア「特集にあたって」.

看護技術，65(4)，12-13，2019.4

三部倫子：『カミングアウトしてほしい』という欲望について．福音と世界，6月号，18-23，2019.6

三部倫子：　里親が夫婦でなくてもなれることは知りませんでした．里親だより，121，1，2019.8

三部倫子：「LGBTの患者対応についての看護部長アンケート」結果．科学研究費補助金『研究活動スタート支援』課題名「医療機関における家族――性的指向と性自認を軸とする患者・看護師の相互行為」簡易報告書，2019.8

三部倫子：「LGBTの患者対応についての看護部長アンケート」報告書．科学研究費補助金『研究活動スタート支援』課題名「医療機関における家族――性的指向と性自認を軸とする患者・看護師の相互行為」報告書，2019.12

三部倫子:　書評神谷悠介2017『ゲイカップルのワークライフ･バランス』．お茶の水女子大学ジェンダー研究所発行『ジェンダー研究』，22，244-246，2019.7

三部倫子：　研究紹介．石川県立看護大学広報誌『CAMPUS NET』，36，4，2019.9

平山亮，三部倫子：　研究結果報告書「介護施設における性的マイノリティ高齢者の受入態勢の整備・向上に関する研究」．三井住友海上福祉財団研究助成 高齢者福祉部門，2020.3

曽根志穂，武山雅志，金谷雅代：　特集「地域とともに」「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業　災害時に健康を守るための備えに取り組む地域防災活動事業－地域防災活動の活性化と地域防災力の向上を目指してー．一般社団法人北陸地域づくり協会　地域づくり in ほくりく，21，10-13，2020.1

瀧澤理穂：　CNS対象　がん看護事例検討会を開催して．2019年度　北信がんプロ超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成　事業報告書，2020.3

瀧澤理穂：　第39回日本看護科学学会学術集会　平田オリザ先生、西村ユミ先生の対談「人間を理解することの限界と挑戦～現象学的視点からの他者理解を考える」を聴講して．2019年度北信がんプロ超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成　事業報告書，2020.3

瀧澤理穂：「IPRと私」．研究会誌IPR，26-27，113，2020.2

西村真実子，千原裕香：　親子交流授業効果測定尺度の信頼性・妥当性の検討その2-尺度項目の精選．公益財団法人いしかわ結婚・子育て支援財団受託研究完了報告書，2019.4

瀧本千紗，濵耕子，室津史子：　父親が行う育児に関する夫婦の性役割観と父親の育児家事行動からみた「育児」の捉え方の特徴．小児保健研究

牧野智恵：「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」（北信がんプロ）の概要と本学におけるがん看護専門看護師養成．令和元年度　北信がんプロ事業実施報告書，2020.3

牧野智恵：　今年度の本学におけるインテンシブコースの成果．令和元年度　　北信がんプロ事業実施報告書，2020.3

牧野智恵：　＜おわりに＞令和元年の「北信がんプロ」の1年を振り返って．令和元年度　北信がんプロ事業実施報告書，2020.3

牧野智恵：　はじめに．令和元年度　北信がんプロ事業実施報告書，1，2020.3

牧野智恵：　日本IPR研究会誌．研究会誌　IPR，26.27号合併号，13-18，2020.2.15

松原勇：　やさしい物理と放射線の基礎知識．非売品：A4版33ページ，2019.12

松原勇：　保健統計学の研究事例．非売品：A5版195ページ，2020.1

林静子，松本智里： 北信がんプロフェッショナル 海外FD研修 「mccCulloch House 視察研修レポート」. 北信がんプロ報告書，21，2019.3

6.4 学会発表

小野若菜子，亀井智子，浅見洋（他7名）:「自分らしい人生の旅立ちと看取りを考えるセミナー」の開催―2017-2019年 in 東京 ，第3回日本エンドオブライフケア学会，名古屋，2019.9，日本エンドオブライフケア学会抄録集，3(1)，76，2019

阿部智恵子： 父親の育児に関する研究，日本都市学会第66回大会，広島，2019.10，日本都市学会第66回大会発表要旨集，72-73，2019

石垣和子： 日本文化型看護の創出（特別公演），第12回岩手看護学会学術集会，岩手，2019，10，2019

石垣和子： ヒトと人の科学を看護へ（学術集会長講演），第39回日本看護科学学会，石川，2019.11，第39回日本看護科学学会学術集会（抄録集は電子抄録集），20，2019

安河内朗，樋口重和，石垣和子： 合同シンポジウム；適応と健康：現代社会における人間の健康とは？ シンポジスト：「看護と生物の適応」，第39回日本看護科学学会，石川，2019.11，第39回日本看護科学学会学術集会（抄録集は電子抄録集），20，2019

R.Itou, A.Shimamura, Y.Amamiya, M.Tsujimura, K.ishigaki, et al: Ethical beliefs influencing the moral distress experienced in family care by Japanenes care managers, 14th International Family Nursing Conference, Wagsinton, U.S.A, 2019.08, 2019

*松村伊悟，石垣和子，金子紀子，*室野奈緒子： 30歳代までに禁煙に成功した男性就労者の行動変容の要因について，第39回日本看護科学学会学術集会，金沢，2019.12，第39回日本看護科学学会学術集会抄録集，906-907，2019

*室野奈緒子，石垣和子，塚田久恵，阿部智恵子： メンタル不調者の職場復帰支援における産業看護職の人事労務担当者との連絡・調整に関する質的研究，第39回日本看護科学学会学術集会，石川，2019.11，第39回日本看護科学学会学術集会プログラム集，52，2019

石川倫子，丸岡直子，林静子： 臨地実習指導者講習会（特定分野）プログラムの学習効果，第29回日本看護学教育学会学術集会，京都，2019.8，日本看護学教育学会誌，29，203，2019

石川倫子，田村幸恵，磯光江，武山雅志： 高齢・人口減少地域における病院の看護教育責任者が捉えた看護の困難さと教育ニーズ，第39回日本看護科学学会学術集会，金沢，2019.12，第39回日本看護科学学会学術集会プログラム集，55，2019

林静子，石川倫子，田村幸恵，丸岡直子: VR学習システムを活用したシミュレーション教育の試み，第29回日本看護学教育学会学術集会，京都，2019.8，日本看護学教育学会誌，29，102，2019

小原美帆子，石川倫子： 退院支援看護師が行う患者・家族の意向の不一致に対する支援，第13回看護実践学会学術集会，金沢，2019.9，第13回看護実践学会学術集会講演集，30-31，2019

Noriko Ishikawa, Naoko Maruoka, Chifumi Yoshida, Mariko Deguchi, Chikako Yuno, Tomoyo Tabuchi: Changes in the awareness and behavior of nurses who participated in an educational program to improve support during the transition to home care through an outpatient service-ward collaboration, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, JAPAN, 2020.2, 266, 2020

石川倫子： これからの看護基礎教育－思考・判断・表現力を育む学習支援－（シンポジウム：未来の看護師を育む新カリキュラム），第73回国立病院総合医学会，名古屋，2019.11，第73回国立病院総合医学会プログラム集，2019

磯光江，住田悠慈，篠川希世子，北村千香子，飯田恭子，川島和代： 摂食嚥下障害をもつ高齢者の施設移行に伴う連携の実際，第24回日本老年看護学会学術集会，仙台，2019.6，日本老年看護学会学術集会抄録集，204，2019

市丸徹： 人気のある授業のからくりを探る：人間機能学Ⅰ，2019年度　石川県立大学・石川県立看護大学合同FD研修会，石川，2019.8

本井悠子，今方裕子： 悪い知らせを受けた患者への認定看護師・専門看護師の看護実践，第32回日本サイコオンコロジー学会，東京，2019.10，第32回日本サイコオンコロジー学会抄録集，211，2019

垣花渉: 看護学生の主体的に学ぶ力を育てる地域早期体験，初年次教育学会第12回大会，八王子，2019.9，初年次教育学会第12回大会発表要旨集，134-135，2019

Saito Y，Kakihana W： The variation in perception of fatigue in elderly, The 24th annual congress of the European College of Sport Science, Prague, 2019.7, 2019

齊藤陽子，垣花渉： 高齢者の最大下運動時における生理学的負荷と持久力の関連，第74回日本体力医学会大会，つくば，2019.9，the Journal of Physical Fitness and Sports Medicine, 8(6), 359, 2019

Kato Y.：Challenges in helping nursing students with developmental disorders to learn English - Our experience，第2回全国看護英語教育学会 学術集会，長野，2019.6，The 2nd JANET Conference on Nursing English, 2, 5, 2019

Kato Y.：Kato, Y. Revisiting autonomy in the new era in light of conscience. , The XVI Annual Conference of the International Society for Clinical Bioethics , Krakow, Poland, 2019.10, The XVI Annual Conference of the International Society for Clinical Bioethics, 16, 2019

金谷雅代，西村真実子，千原裕香： 石川県における在宅育児家庭通園保育モデル事業利用の評価－保育教諭の視点から－，日本小児看護学会第29回学術集会，札幌，2019.8，日本小児看護学会第29回学術集会講演集，201，2019

*江縁はるな，金谷雅代： 乳幼児を持つ母親への地震災害後の慢性期・復興期のこころの支援に関する文献検討，第36回石川県母性衛生学会総会・学術集会，金沢，2019.6，第36回石川県母性衛生学会総会・学術集会プログラム抄録集，6-7，2019

Kaneko N.，Ishigaki K.，*Agawa K.：Relationship between Mothers' Sense of Comfort of Child-Rearing in Their Residential Areas and Their Connection with Regional Society in Japan, the 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars , Chiang Mai , 2020.1, the 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars Abstract book, 503, 2020

川島和代，石垣和子，丸岡直子，林一美，田村幸恵: 石川県の過疎地域における看護職員の離職・再就業の実態と課題～診療所・介護保険施設に勤務する看護職員を中心に～，第14回日本ルーラルナーシング学会学術集会，沖縄県宮古島，2019.11.，第14回日本ルーラルナーシング学会学術集会　抄録集，2019

橋本智江，川島和代，小林宏光，平松知子： 介護老人福祉施設における入浴ケア援助者の生

理学的反応と入浴ケア体制との関連，第39回日本看護科学学会学術集会，石川県金沢市，2019.11.，第39回日本看護科学学会学術集会　オンライン抄録，77，2019

鶴見薫，竹中眞佐枝，村本悦子，川村みどり：地域連携手帳の効果と外来看護師の役割―手帳を利用して通院している患者の事例を通して―，第13回看護実践学会学術集会，石川，2019.9，第13回看護実践学会学術集会講演集，88-89，2019

Nakamoto A.，Katayama M.，Kawaguchi M.，Morioka H.，Kawamura M.：Value Transformation of Returning to Work for Mid-Career Nurses Who Continue Working After Sabbatical Due to Mental Health Disorders, Transnational Meeting on TEA (Trajectory Equifinality Approach), Osaka, 2019.9, The Program for 2nd meeting, 3, 2019

川村みどり，北岡和代：長期入院を経験し地域で暮らす統合失調症者の主観的体験の構造，第39回日本看護科学学会学術集会，金沢，2019.11，第39回日本看護科学学会学術集会　プログラム集，2019

Kawaguchi M.，Morioka H.，Nakamoto A.，Kawamura M.，Katayama M.：Parents Action of Person with Schizophrenia: Preparing for the Future of Children after Parents Pass Away, 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars 2020, Chiang Mai, 2020.1, EAFONS2020 Abstract book, 546, 2020

Kawamura M.，Morioka H.，Katayama M.，Kawaguchi M.，Nakamoto A.：Thoughts of Community-dwelling Individuals with Schizophrenia About Their Medications - A Pilot Study, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Osaka, 2020.2, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science Abstract book, 171, 2020

長田恭子，北岡和代，川村みどり：地域生活を送る統合失調症をもつ人の自殺念慮と困難の体験，日本看護研究学会第33回近畿・北陸地方会学術集会，滋賀，2020.3，日本看護研究学会第33回近畿・北陸地方会学術集会　プログラム，3，2020

小林宏光：看護学における進化的視点（シンポジウム 適応と健康：現代社会における人間の健康とは？），日本看護科学学会39回大会，金沢，2019.11

若村智子，初治沙矢香，中本五鈴，肥後有貴子，堀田佐知子，橋口暢子，小林宏光：交流セッション：社会的存在としての人間の睡眠と生体リズム―看護との関連，日本看護科学学会39回大会，金沢，2019.11

紺家千津子：ICTを活用したストーマケアの遠隔支援看護の現状(ワークショップ　医工連携－AI･ICTを活用した医療･看護のパラダイムシフト)，第44回日本外科系連合学会学術集会，金沢，2019.6，日本外科系連合学会誌，44(3)，548，2019

平岡淳子，紺家千津子：医師と訪問看護ステーション所属の特定看護師による創傷協働管理の始動(ワークショップ　Comfortableな医療へとつなぐ、外科医と特定看護師の協働)，第44回日本外科系連合学会学術集会，金沢，2019.6，日本外科系連合学会誌，44(3)，554，2019

内匠薫，紺家千津子，遠藤瑞穂，松井優子，平松知子：ABCD-Stomaケアを臨床現場で使用する際のポイント，第28回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会，奈良，2019.5，日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌，23(2)，244，2019

遠藤瑞穂，紺家千津子，内匠薫，松井優子，平松知子：褥瘡、スキン-テア、失禁関連皮膚炎の予防と管理において療養病棟の看護師が求める支援，第28回日本創傷・オストミー・失禁管理

学会学術集会，奈良，2019.5，日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌，23(2)，243，2019

紺家千津子： これからなすべき事　患者とスタッフを守るためのスキン-テアの予防と管理（招待講演），第28回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会，奈良，2019.5，日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌，23(2)，135，2019

北村佳子，下平滋隆，紺家千津子： 樹状細胞ワクチンを受けるがん患者のQOLと体験，第39回日本看護科学学会学術集会 ，金沢，2019.12，第39回日本看護科学学会プログラム集，2019

紺家千津子： 防ぎきれない褥瘡とは何か？（シンポジウム　防ぎきれない褥瘡を考える），第49回日本創傷治癒学会学術集会，大宮，2019.12，第49回日本創傷治癒学会学術集会抄録集，58，2019

紺家千津子： スキン-テアからフレイルスキンを守る心地よいケア（シンポジウム　フレイルスキンをケアする極意），第49回日本創傷治癒学会学術集会，大宮，2019.12，第49回日本創傷治癒学会学術集会抄録集，64，2019

村田好生，坂井恵子，紺家千津子，田中浩二： 救急外来における日本版緊急度判定支援システム(Japan Triage and Acuity Scale)の信頼性と妥当性の検証,第22回日本臨床救急医学会総会・学術集会，和歌山，2019.6，日本臨床救急医学会雑誌，22(2)，394，2019

桜井志保美，河野由美子，土師しのぶ： 就学前の医療的ケア児を養育している養育者が抱える育児不安の実態，第24回日本在宅ケア学会学術集会，仙台，2019.7

Shihomi Sakurai， Yumiko Kohno， Shinobu Hashi. : Concerns and Anxieties among Parents of Children Requiring Long-Term Medical Care in Japan, The 23th East Asian Forum OF Nursing , Chiang Mai (Thai Land), 2020.1

三部倫子： 病院におけるLGBTの患者への対応――看護部長への質問紙調査から，第67回関東社会学会大会，東京，2019.6

三部倫子： カムアウトする親子――同性愛と家族の社会学（依頼講演），2019年石川県立大学・県立看護大学合同研究発表会，石川，2019.8

三部倫子： 特別講演　LGBTから家族への問いかけ（招待講演），日本看護科学学会第39回大会合同シンポジウムⅡ（文化看護学会）「時空を超える家族文化と看護」，石川，2019.11.30，文化看護学会誌，12，2020

影山葉子，三部倫子：「LGBTの家族」への家族看護の″これまで″と″これから″，日本看護科学学会第39回大会、交流集会31，石川，2019.12.1

清水暢子，長谷川昇，望月美也子，加藤真弓，山田恭子,Hunsa Sethabouppha，Chalinee Suwannanyos： タイ高齢者に学ぶ“老いることへの意味”についての研究Study on ″ meaning to getting older ″″to learn from Thai elderly people，日本国際看護学会 第3回学術集会，横浜市，2019.8，日本国際看護学会総会抄録集，3，3，2019

清水暢子，山﨑智可，石田元彦，浅野桂吾： 農福連携いしかわ型ヒツジ飼育体験学習が慢性期統合失調症患者に及ぼす影響～意欲と不安の視点から～，第68回日本農村医学会学術総会，帯広市，2019.10，日本農村医学会雑誌，68(3)，373，2019

山﨑智可，清水暢子，石田元彦，浅野桂吾： 知的障害者を対象としたヒツジ飼育と農作業の比較研究―心理面・行動面からの評価―，第68回日本農村医学会学術総会，帯広市，2019.10，日本農村医学会雑誌，68(3)，373，2019

清水暢子，山﨑智可： 農福連携（石川ラム）畜産型ヒツジ飼育事業の実施と評価～知的障害のあ

る人への前頭葉機能に与える影響の検討～，第39回日本看護科学学会，金沢市，2019.10，第39回日本看護科学学会プログラム集，39，111，2019

Nobuko Shimizu，Noboru Hasegawa，Miyako Mochizuki，Takako Yamada，Mayumi Kato，Masahiro Matsunaga,Tomohiro Umemura，Hunsa Sethabouppha,Nattaya Suwankruhasn，Chalinee Suvanayos，Duangruedee Lasuka：The influence of religious and social isolation on the elderly’s cognitive function，The 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) conference，Chiang Mai，Thailand，2020.1，The 23rd EAFONS Abstract book，23，628，2019

Nobuko Shimizu，Noboru Hasegawa，Miyako Mochizuki，Takako Yamada，Mayumi Kato，Masahiro Matsunaga,TomohiroUmemura,HunsaSethabouppha,Nattaya Suwankruhasn，Chalinee Suvanayos，Duangruedee Lasuka：Development of dementia predictor using near infrared spectroscopy-relationship between cerebral blood flow and cognitive function during dual-task. ，The 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) conference，Chiang Mai，Thailand，2020.1，The 23rd EAFONS Abstract book，23，211，2019

山田恭子，清水暢子，長谷川昇，望月美也子，加藤真弓：地域における健康高齢者の重要な生活行為 SCAT分析 から ；パイロットスタデイ，第7回京都府作業療法学会，京都市，2020.2，京都府作業療法学会総会抄録集，2019

瀬戸清華，丸岡直子：在宅ALS療養者が意思疎通を図り続けるためにとった主介護者の行動とその背景要因，第24回日本難病看護学会，山形，2019.8，日本難病看護学会誌，24(1) ，68，2019

瀬戸清華，丸岡直子：在宅ALS療養者が意思疎通を図り続けるためにとった訪問看護師の支援の実態，第13回看護実践学会，石川(内灘)，2019.9，第13回看護実践学会学術集会講演集，84-85，2019

曽根志穂，石垣和子：地域防災活動「健康を守るための備え」の検討－自主防災組織と協働して－，第78回日本公衆衛生学会総会，高知市，2019.10，第78回日本公衆衛生学会総会抄録集，66(10)，506，2019

曽根志穂，武山雅志，金谷雅代：健康を守るための備えに取り組む地域防災活動の検討，日本災害看護学会第21回年次大会，北見市，2019.9，日本災害看護学会誌，21(1)，161，2019

瀧澤理穂，牧野智恵：子どもに自分の病名を伝えることに悩む乳がん患者への M.newman 理論を用いた関わりの事例報告，第26回石川緩和医療研究会，金沢，2019.8，第26回石川緩和医療研究会プログラム集，2，2019

瀧澤理穂，牧野智恵：がん体験者が身近な人に病名を伝える上での悩み，第34回日本がん看護学会学術集会，東京，2020.2，第34回日本がん看護学会学術集会抄録集，76，2020

吉岡和晃，Quynh Hoa Pham，安藝翔，多久和典子，多久和陽：イノシトールリン脂質3’-ホスファターゼMTMR4によるエンド-リソソームおよびオートファジー経路の制御メカニズム，日本生化学会北陸支部第37回大会　ハピリンホール，福井市，2019.6，日本生化学会北陸支部第37回大会抄録集，37，18，2019

Yoshioka K，Aung KT，Sarker MAK，Aki S，Biswas K，Takuwa N，Takuwa Y.：Differential roles of class II PI3K in endocytosis and endosomal signaling.，60th International Conference on the Bioscience of Lipids，　東　京，2019.6，Abstracts of the 60th

International Conference on the Bioscience of Lipids, 60, 82, 2019

Aki S, Yoshioka K, Takuwa N, Takuwa Y. : Sequential phosphoinositide conversion is required for transforming growth factor β-induced receptor endocytosis and Smad2/3 activation in endothelial cell., 60th International Conference on the Bioscience of Lipids, 東 京, 2019.6, Abstracts of the 60th International Conference on the Bioscience of Lipids, 60, 83, 2019

吉岡和晃, Quynh Hoa Pham, 安藝翔, 多久和典子, 多久和陽 : イノシトールリン脂質3’脱リン酸化酵素MTMR4 による細胞内クリアランス制御メカニズム, 第61回 日本脂質生化学会, 札幌, 2019.7, 脂質生化学研究, 61, 204-205, 2019

安藝翔, 吉岡和晃, 多久和典子, 多久和陽 : 連続するホスホイノシタイド代謝がTGFβ受容体エンドサイトーシス及びSmad2/3 活性化に必須である., 第61回 日本脂質生化学会, 札幌, 2019.7, 脂質生化学研究, 61, 206-208, 2019

多久和典子, 石丸和宏, 多久和陽 : 粥状動脈硬化におけるスフィンゴ脂質代謝酵素の役割, 第29回日本病態生理学会大会, 東大阪市, 2019.8, 日本病態生理学会雑誌, 29(2), 35, 2019

安藝翔, 吉岡和晃, Islam Shahidu, 多久和典子, 多久和陽 : 連続するホスホイノシタイド代謝がTGF・受容体エンドサイトーシス及びSmad2/3活性化に必須である, 第92回日本生化学会大会, 横浜, 2019.9, Proceedings of the 92nd Annual Meeting of the Japanese Biochemical Society, 106, 2019

Yoshioka K, QH Pham, S Aki, N Takuwa, Y Takuwa : Regulation of intracellular clearance by3’-phosphoinositide-specificphosphatase,myotubularin-relatedprotein-4 (MTMR4)., 第92回日本生化学会大会, 横浜, 2019.9, Proceedings of the 92nd Annual Meeting of the Japanese Biochemical Society,, 85, 2019

Takuwa Y, Ishimaru K, Yoshioka K, Takuwa N, Okamoto Y. : Sphingosine kinase-2 is required for autophagic lipid degradation in macrophage and inhibits atherosclerosis., 第97回日本生理学会大会（誌上開催), 別府市(大分県), 2020.3, J Physiol Sci , 70(Suppl 1), S89, 2020

Yoshioka K, Aki S, Takuwa N, Takuwa Y. : Differential roles of class II PI3-kinase-C2α and -C2β in clathrin-mediated fluid phase endocytosis in vascular endothelial cells., 第97回日本生理学会大会（誌上開催), 別府市(大分県), 2020.3, J Physiol Sci , 70(Suppl 1), S87, 2020

Aki S, Yoshioka K, Takuwa N, Takuwa Y. : Sequential phosphoinositide conversion is required for TGFβ-induced receptor endocytosis and endosomal receptor signaling in endothelial cells., 第97回日本生理学会大会（誌上開催), 別府市(大分県), 2020.3, J Physiol Sci , 70(Suppl 1), S32, 2020

Aki S, Sarker MAK, Yoshioka K, Kuno K, Okamoto Y, Ishimaru K, Takuwa N, Takuwa Y. : Class II PI3Ks a and b Are Required for Rho-Dependent Uterine Smooth Muscle Contraction and Parturition in Mice. Symposium on Angiology Evolving into New Research Fields, 第97回日本生理学会大会（誌上開催）（シンポジウム招待講演), 別府市(大分県), 2020.3, J Physiol Sci , 70(Suppl 1), S135, 2020

武山雅志, 曽根志穂, 金谷雅代 : 学生災害ボランティア・サークルに求められる支援力と防災

力を高める工夫，日本災害看護学会第21回年次大会，北海道，2019.9，日本災害看護学会誌第21回年次大会講演集，21（1），117，2019

*小川朱音，*大野大貴，田村幸恵，木森佳子： 看護師による携帯型エコーを使用した下大静脈測定の教育プログラム評価，第16回日本循環器看護学会学術集会，東京，2019.11，第16回日本循環器看護学会学術集会プログラム・抄録集，73，2019

塚田久恵，松原勇： 道路貨物運送業における健康リスク診断の試みー現状と課題ー，第78回日本公衆衛生学会総会，高知，2019.10，第78回日本公衆衛生学会総会抄録集，66(10)，571，2019

*北野浩子，塚田久恵，石垣和子： 発達障害のある子どもを持つ母親を支援する保健師が抱える困難とその対応，第47回北陸公衆衛生学会，富山，2019.11，第47回北陸公衆衛生学会講演集，46，18，2019

塚田久恵，川島和代，高安剛，山上孝司，王紅兵，松原勇： 道路貨物運送業における健康リスク診断の試みー現状と課題ー(第1報)，北陸ライフケアシステム研究会，石川，2019.8

中田弘子，三輪早苗，田村幸恵： 地域在住高齢者への懐古的で嗜好性のある音楽が前頭前野皮質酸素化ヘモグロビン濃度に及ぼす影響，日本看護科学学会第39回学術集会，金沢，2019,111，第39回日本看護科学学会学術集会プログラム集，82，2019

子吉知恵美： 発達障害児の早期支援に向けた保健師の支援実践に関する研究，日本地域看護学会第22回学術集会，横浜，2019.8，日本地域看護学会第22回学術集会講演集，124，2019

子吉知恵美： 就学前の発達障害児の保健師による支援構造と支援内容の可視化に関する研究，日本看護科学学会，石川，2019.11，第39回日本看護科学学会学術集会，2019

Mochizuki M., Hasegawa N., Yamada T. : Effect of vitamin D3 suppelementation on cognitive function in elderly japanese diabetes patients., 11th International association of gerontology and geriatrics asia/oceania regional congress, Taiwan, 2019,10

望月美也子，長谷川昇，山田恭子： 自閉症スペクトラム児の症状に及ぼす血清ビタミンD濃度の緩和効果，日本薬学会第141年会，京都，2020.3

*洞庭真由，濵耕子： 女子看護学生における月経異常が原因の受診行動に関する研究，第36回石川県母性衛生学会総会・学術集会，金沢，2019.6.29，第36回石川県母性衛生学会総会・学術集会　プログラム　抄録集，12-13，2019

*山﨑愛満，濵耕子： 形態別出産準備教室の効果に関する文献検討，第36回石川県母性衛生学会総会・学術集会，金沢，2019.6.29，第36回石川県母性衛生学会総会・学術集会　プログラム抄録集，18-19，2019

*大村五輪美，濵耕子： 更年期のホルモン補充療法を受ける女性の体験と婦人科外来看護の役割，第60回日本母性衛生学会総会・学術集会，浦安，2019.10.11，母性衛生，60(3)，234，2019

藤野華，牧野智恵，松本智里，今方裕子，瀧澤理穂： 外来化学療法患者のセルフケア状況をアセスメントする視点　～皮膚障害の副作用に焦点を当てて～，第26回石川緩和医療研究会，石川，2019.8.3

牧野智恵： 対談「人間を理解することの限界と挑戦」 ～現象学的視点からの他者理解を考える～（座長），第39回日本看護科学学会学術集会，石川，2019.12.1，第39回日本看護科学学会学術集会 プログラム集，2019

米森直子，西村詠子，桜井千佳，山瀬勝巳，高地弥里，板倉喜代美，牧野智恵，今方裕子，松本

智里，瀧澤理穂： 街中におけるがん支援「元ちゃん保健室」の取り組み，第57回日本癌治療学会学術集会，福岡，2019.10.24-26，第57回日本癌治療学会学術集会　ポケットプログラム，51，2019

牧野智恵，我妻孝則，内村恵里子，藤川直美，籔下佳子，瀧澤理穂，松本智里，長谷川昇： 外来化学療法を受ける乳がん患者の唾液からのシクロフソファミド排泄の実態調査，第33回日本がん看護学会学術集会，福岡，2019.2，日本がん看護学会誌，33.Suppl，172，2019

*倉下陽子，丸岡直子，石川倫子： 退院支援看護師が役割を果たしていると自覚するまでのプロセス，第23回日本看護管理学会学術集会，新潟，2019.8，第23回日本看護管理学会学術集会プログラム集，103，2019.8

*岡山容美，丸岡直子，石川倫子： 看護師長への役割移行時における経験のプロセス，第23回日本看護管理学会学術集会，新潟，2019.8，第23回日本看護管理学会学術集会プログラム集，106，2019.8

丸岡直子，石川倫子，田淵知世，太田裕子，湯野智香子，中野陽子，本田紀子，出口まり子： 看護交流集会　拡がる在宅療養移行支援における外来看護師の役割，第13回看護実践学会，河北郡内灘，2019.9，第13回看護実践学会学術集会講演集，25，2019.9

Mizue Suzuki, Masao Kanamori, Mayumi Kato, Yoshimi Taniguchi, Tomoko Hiramatsu, Naoko Maruoka, Sayuri Kobayashi, Ryouko Rokkaku, Tomoyoshi Naito, Kiyoko Izumi : Effects of a fall intervention program for older adults with dementia among carestaff in geriatric facilities, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Osaka, 2020.2, https://www.c-linkage.co.jp/6wans/data/program/wans2020_abstracts.pdf, 45, 2020.2

三輪早苗，田村幸恵，中田弘子： 懐古的な音楽聴取が地域在住高齢者の多面的な感情喚起に及ぼす影響，第39回日本看護科学学会学術集会，金沢，2019.11，第39回日本看護科学学会学術集会抄録集，82，2019

渡辺達也，*北西彩，*桑名由希子，*渡辺絢子，中道淳子： グループホームで生活する認知症高齢者に対するレクリエーションにおける自己決定―自己決定を促した介入方法の検討―，第20回日本認知症ケア学会大会，京都，2019.5，第20回日本認知症ケア学会誌，18 (1)，338，2019

6.5　社会活動・地域貢献

浅見洋： 日本エンドオブライフケア学会理事、市民と専門職が協働するための実践・教育・研究員会委員長、学会活動推進員委員会委員長、査読委員

浅見洋： 第3回日本エンドオブライフケア学会実行委員、委員会セミナー企画

浅見洋： 比較思想学会理事、庶務委員、北陸支部会長

浅見洋： 第44回比較思想学会学術大会実行委員長、シンポジウム司会

浅見洋： 西田哲学会理事

浅見洋： 日本宗教学会理事

浅見洋： 北陸宗教学会理事、監事

浅見洋： 石川県博物館協議会監事

浅見洋： 鈴木大拙-西田幾多郎記念金沢大学国際賞選考委員

浅見洋： バウハウス100年いしかわ代表
浅見洋： 201年度日本建築学会大会記念行事「コンサート＋記念講演会」『「時代」としてのバウハウス―モダニズムの1920年』挨拶
浅見洋： 公益信託能登町エンデバーファンド21　運営委員長
浅見洋： 北国新聞「新聞を読んで」感想文コンクール審査員
浅見洋： 講演「大切な家族が認知症になった時」，ホテル海望，2019.6.19
浅見洋： 講義：終末期看護「エンドオブライフケアと日本人の死生観」，人間環境大学，2019.6.21
浅見洋： 講座「金沢検定講座中級・上級」，北國新聞社，2019.6.29
浅見洋： 講義：認知症看護師教育課程「看護倫理」，石川県立看護大学，2019.7.8,22
浅見洋： 講座「西田幾多郎・鈴木大拙に学ぶ心の在り方」，にぎわいのさと野々市「カミーノ」，2019.7.19
浅見洋： 講義：看護管理者者研修会ファーストレベル「看護倫理1・2・3・4」，富山県看護協会，2019.9.6
浅見洋： 講義：実習指導者研修会「看護倫理1・2」，富山県看護協会，2019.9.30
浅見洋： 講演「二人称の死について」，生と死を考える会，石川県女性センター，2019.9.28
浅見洋： 講座「鈴木大拙に触れる」，金沢市中央（彦三）公民館，2019.10.7,9,11
浅見洋： 講話「高橋ふみ」，かほく市立七塚小学校，2019.11.5
岡田圭，浅見洋： 対談「人生の最終章をともに紡ぐ(岡田圭×浅見洋)」，石川県女性センター，2019.12.5
浅見洋： 講義「エンドオブライフケアと日本人の死生観」，国立長寿医療センター（愛知），2019.12.11
浅見洋： 講演「生命倫理」大拙が西田に送りし慰めのソネット―波頭を越える交流と思索の深まり―」，金沢ふるさと異人館，2020.1.25
阿部智恵子： 日本都市学会　査読委員
阿部智恵子： 宝達志水町健康づくり推進協議会委員
阿部智恵子： 石川県准看護師試験委員
阿部智恵子： 令和元年度新任保健師研修会（集合研修2）
阿部智恵子： 石川看護雑誌査読委員，石川県立看護大学，2019
阿部智恵子： JICA青年研修地域保健医療実施管理コース講師，石川県立看護大学，2019
石垣和子： 石川県医療審査議会員
石垣和子： 大学コンソーシアム石川理事
石垣和子： 沖縄県立看護大学外部評価委員
石垣和子： 金沢医科大学病院長選考委員会
石垣和子： 地域医療推進機構金沢病院　第3者評価委員会委員
石垣和子： 日本看護学教育評価機構監事
石垣和子： 日本看護系大学協議会高度実践看護師教育課程プライマリケア看護専門委員会員
石垣和子： 日本ルーラルナーシング学会理事
石垣和子： 日本家族看護学会理事
石垣和子： 文化看護学会理事

石垣和子： 文化看護学会編集委員長
石垣和子： 第39回日本看護科学学会学術集会長
石垣和子，塚田久恵，曽根志穂，金子紀子，阿部智恵子： 石川県新人保健師研修，石川県庁、2019.10
石川倫子： 日本看護管理学会　評議員
石川倫子： 日本看護管理学会　専任査読委員
石川倫子： 看護実践学会　専任査読委員
石川倫子： 石川県看護協会認定看護管理者教育課程運営委員(委員長)
石川倫子： 第39回日本看護科学学会学術集会　実行委員
石川倫子： 金沢医科大学病院特定行為研修部門運営委員会委員
石川倫子: 第39回日本看護科学学会学術集会「厚生労働省　特別報告　特定行為研修制度の現状」座長，石川県立音楽堂，2019.11.30
石川倫子： 認知症看護認定看護師教育課程「指導」非常勤講,，2019.8.5，8.7，8.9，8.21
石川倫子： 厚生労働省看護教員養成事業　看護教員養成eラーニング講師「看護学教育評価」，2018.3 ～ 2019.3
石川倫子： 2019年度石川県看護教員現任研修非常勤講師,，2019.10.5，12.14，2020.2.8
石川倫子,出口まり子,竹田昌代: 地域みんなで取り組む在宅療養移行支援,キャッスル真名井(穴水)，2019.6.15
磯光江： 河北中央病院　看護研究指導・講評，河北中央病院，2019.5 ～ 2020.1.16
磯光江，中道淳子，渡辺達也，川島和代： 高齢者ケア研究・事例検討会，石川県立看護大学，2019.7 ～ 2020.3
磯光江： 石川腎不全看護研究会　世話人，2019.4 ～
磯光江： 介護認定審査会委員，宝達志水町町民センター（アステラス），2019.4 ～ 2020.3
磯光江： あけぼのふれあいサロン，曙会館，2019.4 ～
市丸徹： 認知症基礎病態論，石川県立看護大学・看護キャリア支援センター，2019.7.10，7.16，7.24，2020.2.3
市丸徹： 病理学　非常勤講師，金城大学，2019.9 ～ 2020.2
市丸徹： 生理学実習　非常勤講師，金城大学，2019.9 ～ 2020.1
市丸徹： 白丸曳山祭り，能登町白丸地区，2019.9.25
市丸徹，金谷雅代： 能登町白丸公民館　看護大学訪問，石川県立看護大学，2019.11.21
市丸徹： 講演「前頭葉のはたらき」，石川県立看護大学，2019.11.21
今井美和： 日本病理学会　学術評議員
今井美和： 石川県立看護大学　衛生管理者
今井美和: 2019年春 LOVE49 全国街頭予防･啓発アクション,『子宮頸がんを予防する日』集中キャンペーン，アピタ松任店，2019.4.7
大江真吾： 第39回日本看護科学学会学術集会　実行委員
大江真吾：「精神看護学概論」講義，金沢医療技術専門学校，2019.9
大江真吾： あおカフェ，かほく市こども発達相談支援センター，2019.4 ～ 2020.3
大江真吾： 看護研究指導・講評，金沢医療センター，2019.5.10，6.19，6.20，6.21，10.23，10.24，10.25

大西陽子： 第39回日本看護科学学会学術集会　実行委員
桶作梢： 第25回母乳育児支援を学ぶ北陸教室 実行委員長，金沢大学十全講堂，2019.5.26
垣花渉： 初年次教育学会　理事
垣花渉： 石川県立羽咋高等学校　学校評議員
垣花渉： 日本体力医学会　学会評議員
垣花渉： 石川県大学健康教育研究会　委員
垣花渉： かほく市観光物産協会　理事
垣花渉：「初年次教育実践交流会 in 北陸」実行委員長
垣花渉： 講義　石川県地域スポーツ指導者養成講習会「中高齢者の体力とスポーツ指導」，いしかわ総合スポーツセンター，2019.7
垣花渉： シティーカレッジ授業「石川の市町、かほく市・野々市市」 授業コーディネーター，石川県政記念しいのき迎賓館，2019.7
垣花渉： FD研修会講師「学生の主体的な学びを地域で育てる―社会人基礎力に着目して」，帝京科学大学千住キャンパス，2019.7
垣花渉： 企業内セミナー講師「看護大生の想いをカタチに―健康弁当創作ものがたり」，PFUテクノコンサルト（株），2019.8
垣花渉： 招待講演　かほく市老人クラブ連合会クラブ長研修会「健康弁当・食の健康について」，かほく市七塚健康福祉センター，2019. 11
垣花渉： 招待講演　第55回石川県鉄工機電協会従業員功労者・永年勤続者表彰式「今からできる健康法―スモールチェンジのススメ―」，石川県地場産業振興センター，2019. 11
垣花渉：「ワクワク健康サークル」活動，看護大学，2019.4 ～ 2020.3
垣花渉： 棚田が織りなす食・緑・健康の郷づくり，津幡町興津地区，2019.4 ～ 2020.3
垣花渉：「健康カフェ」事業，津幡町条南コミュニティーセンター，2019.4 ～ 2020.3
加藤穣： 丸善出版『生命倫理百科事典（第2版）』翻訳刊行　編集委員
加藤穣： 全国看護英語教育学会　プログラム委員長
加藤穣： 日本医学哲学・倫理学会　国際交流委員会　副委員長
加藤穣： 生命科学と倫理（S），立命館大学産業社会学部，2019.9.26-2020.3.31
加藤穣： 生命科学と倫理（L），立命館大学文学部，2019.9.26-2020.3.31
金谷雅代： 看護研究指導・講評,浅ノ川総合病院,2019.5.25，6.29，10.5，12.21
金谷雅代： 特別支援学校における医療的ケア対応看護師連絡会の講師,いしかわ特別支援学校,2019.8.21
金谷雅代： 特別支援学校における医療的ケアサポート運営協議会委員,石川県庁,2020.1.30
金谷雅代： 医療的ケア指導アドバイザー ,石川県立錦城特別支援学校,2020.2.5
金谷雅代： 医療的ケア指導アドバイザー ,石川県立いしかわ特別支援学校,2020.2.10
金谷雅代： 医療的ケア指導アドバイザー ,石川県立明和特別支援学校,2020.2.26
金谷雅代： 医療的ケア指導アドバイザー ,石川県立ろう学校,2020.2.27
金谷雅代： 第39回日本看護科学学会学術集会実行委員
金子紀子： かほく市介護認定審査会委員
金子紀子： 第39回日本看護科学学会学術集会　企画委員
金子紀子： JICA青年研修　講師，石川県立看護大学，2019.12.6

金子紀子： 看護研究指導・講評，珠洲市総合病院，2019.6 ～ 2020.2
亀田幸枝: 第33回～第36回 金沢がん哲学外来,金沢赤十字病院、元ちゃんハウス,2019.6.9、9.15、11.24、2020.2.23
亀田幸枝： 第39回日本看護科学学会学術集会　企画委員、査読委員、一般演題口演座長，ANAクラウンプラザホテル金沢，2019.11.30 ～ 12.1″
亀田幸枝： 一般社団法人日本助産学会　代議員，一般社団法人日本助産学会，2018.3 ～ 2020.3
亀田幸枝： 第34回日本助産学会学術集会　一般演題抄録査読委員，2019.11
河合美佳： 第39回日本看護科学学会学術集会運営協力委員
川島和代： 大学コンソーシアム石川「グローカル人材育成・共創インターンシップ専門部会」委員
川島和代： かほく市地域ケア推進会議　委員
川島和代： 石川県後期高齢者医療懇話会　副座長
川島和代： 石川県介護保険審査会　委員
川島和代： 看護科学研究学会 理事
川島和代： 看護実践学会　理事・査読委員
川島和代： 日本未病システム学会　評議員・査読委員
川島和代： 日本老年看護学会　評議員・査読委員
川島和代： 日本看護研究学会　評議員
川島和代： 日本ルーラルナーシング学会　評議員
川島和代： 日本看護研究学会近畿・北陸地方会世話人
川島和代： 社会福祉法人「清湖の杜」理事
川島和代： NPOまちかど倶楽部たかまつ　理事
川島和代： 石川県介護支援専門員協会　河北支部　運営支援
川島和代： 院内研修講師「看護過程展開能力を高める1」，春日井市民病院，2019.6
川島和代： 院内研修講師「看護過程展開能力を高める2」，春日井市民病院，2019.12
川島和代: 日本老年看護学会第24回学術集会　シンポジウム5:老年者の終の棲家を創る　座長，仙台国際センター，2019.6
川島和代他： 地域高齢者サポートを考える会　講演会　座長，石川県立看護大学，2019.7
川島和代： JICA日系研修講師「老年期の理解」，石川県立看護大学演習室1，2019.7
川島和代，谷本千恵，市丸徹，池田幸應：「能登祭りの環」矢波諏訪祭り，能登町矢波地区，2019.8.15 ～ 16
川島和代： 石川県立盲学校介護実習講師，石川県立看護大学スキルラボ，2019.9
川島和代： 令和元年度ファーストステップ研修講師 「介護職員のストレス対策」，石川県社会福祉会館別館，2020.1
川島和代： 第39回日本看護科学学会学術集会事務局長，石川県立音楽堂他，2019.12
川島和代： 第39回日本看護科学学会学術集会　合同シンポジウムⅡ：時空を超える家族文化と看護　座長，石川県立音楽堂，2019.11
川島和代： 石川県における喀痰吸引等研修事業　全体コーディネーター前期，石川県立看護大学地域ケア総合センター研修室，2019.5 ～ 7
川島和代： 石川県における喀痰吸引等研修事業　全体コーディネーター後期，石川県立看護大

学地域ケア総合センター研修室，2019.9～11
川島和代他： 令和元年度看護キャリア支援センター　認知症看護認定看護師教育課程講師「認知症者へのコミュニケーション」，石川県立看護大学小講義室，2019.8～9
川村みどり： 第39回日本看護科学学会学術集会　実行委員
川村みどり： 石川県立中央病院　看護研究指導
川村みどり： 看護実践学会誌査読委員
木森佳子： 看護理工学会査読委員
木森佳子： SAGE Open Nursing査読
木森佳子： 石川看護協会実習指導者講習会講師「論文の書き方」，石川県看護協会，2019.6
木森佳子： 看護研究指導・講評，公立能登総合病院，2019.6，2020.2
木森佳子： かほく市「生涯現役フォーラム2019」，かほく市七塚健康福祉センター，2019.10
小林宏光： 日本生理人類学会理事
小林宏光： Journal Physiological Anthropology. Associate editor
小林宏光： 千葉大学健康環境フィールド科学センター倫理審査委員会外部委員
小林宏光： Journal of Physiological Anthropology. 査読
小林宏光： 日本生理人類学会誌　査読担当
小林宏光： Int J Environmental research and Public Health 査読
小林宏光： Acta of Bioengineering and Biomechanics 査読
小林宏光： 日本看護科学学会39回学術集会 企画委員
小林宏光： 日本看護科学学会39回学術集会 一般演題査読
小林宏光：「人間工学」講義，高岡看護専門学校，2019.4-9
小林宏光： 模擬授業「生理人類学」，大聖寺高校，2019.7.9
小林宏光：「睡眠とサーディアンリズム」講義，名古屋大学・大幸キャンパス，2020.3.7
紺家千津子： 日本褥瘡学会　理事，評議員，実態調査委員長，在宅褥瘡管理者認定委員
紺家千津子： 日本創傷治癒学会　理事，評議員，規約委員，ガイドライン委員
紺家千津子： 日本創傷・オストミー・失禁管理学会　評議員，学術教育委員（オストミー・スキンケア担当），編集委員，論文賞・研究助成選考委員
紺家千津子： 日本看護科学学会　和文誌専任査読委員，選挙管理委員
紺家千津子： 日本がん看護学会　代議員
紺家千津子： 看護理工学会　評議員，教育委員
紺家千津子： 日本老年医学会　代議員
紺家千津子： 看護実践学会　編集委員
紺家千津子： The 6th Congress of World Union of Wound Healing Societies 2020　Member of the international committee
紺家千津子： 第39回日本看護科学学会学術集会 企画委員
紺家千津子： かほく市北部交流ゾーン整備構想研究会委員
紺家千津子： 第22回日本褥瘡学会学術集会　組織委員
紺家千津子： 第34回日本がん看護学会学術集会　査読委員
紺家千津子： 北越ストーマリハビリテーション講習会　幹事
紺家千津子： 北陸ストーマ研究会　世話人，事務局担当

紺家千津子： 北陸PEG・在宅栄養研究会　世話人
紺家千津子： 日本褥瘡学会中部地方会　世話人
紺家千津子： 公益社団法人 日本オストミー協会石川県支部　顧問
紺家千津子： 第28回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会　　理事会企画「ICTによる遠隔看護支援はストーマケアを変えたか？」座長
紺家千津子： 第44回日本外科系連合学会学術集会　ワークショップ6「AI・ICTを活用した医療・看護のパラダイムシフト」，ワークショップ7「Comfortableな医療へとつなぐ、外科医と特定看護師の協働」，パネルディスカッション10「患者ファーストのストーマ作成と管理」座長
紺家千津子： 第21回日本褥瘡学会学術集会　シンポジウム「体位変換、体圧分散寝具選択の高齢褥瘡患者における問題点と対処法」座長
紺家千津子： 第39回日本看護科学学会学術集会　一般演題「ケアイノベーション」座長
紺家千津子： 第49回日本創傷治癒学会学術集会　シンポジウム1「防ぎきれない褥瘡を考える」，シンポジウム2「フレイルスキンをケアする極意」座長
紺家千津子: 第37回日本ストーマ･排泄リハビリテーション学会総会 Mini lecture「どうする！色素沈着」司会
紺家千津子：「創傷のアセスメントと管理」講義，京都橘大学　看護教育研修センター，2019.8.8
紺家千津子： 専門的看護実践力研修事業（分野別実践看護師養成研修「皮膚・排泄ケア看護」）運営協力「ストーマケアの基礎」，「創傷治癒とDESIGN-R」，「スキン-テア」講義，石川県立看護大学，2019.8～9
紺家千津子： 専門的看護実践力研修事業（分野別実践看護師養成研修「がん看護」）「危機理論」講義，金沢大学附属病院，2019.7.28
紺家千津子：「創傷のアセスメント～褥瘡とスキン-テア」Eナース　e-larning講師，S-QUE院内研修1000，2019.12～2020.1
川上重彦，紺家千津子： 石川県在宅褥瘡セミナー「これで拘縮と嚥下の難題解決！」開催，金沢大学医薬保健学域保健学類，2019.12.21
紺家千津子,桜井志保美,川村みどり,清水暢子： 看護研究講評，石川県立中央病院，2020.2.19
桜井志保美： 第39回日本看護科学学会学術集会企画委員
桜井志保美：「あなたの眠りは大丈夫－睡眠の基礎知識－」健康講座，石川県立看護大学，2019.8.22
桜井志保美： JOCV国際協力出前講座，金沢医科大学，2020.1.15
三部倫子： 日本看護学会第39回学術集会実行委員
三部倫子：『石川看護雑誌』第17巻，査読委員
三部倫子:「性の多様性と家庭養護――子ども、地域、行政をつなぐ」（シンポジウム主催），後援:石川県,金沢市,石川県立看護大学,金沢大学，協力:国連大学IAS いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット，2019.6.22，6.23
三部倫子： 性の多様性を考える映画会＆トーク会（司会），白山市学習センターライブシアター，2019.7.6
三部倫子： なぜ「自分のまわりにLGBTはいない」と言えるのか――いないとされる／忘れ去られることを考える，白山市市民交流センター，2019.8.27

三部倫子： 取材協力「性的少数者医療対応進まず」，2019.9.4
三部倫子： 取材協力「LGBTと里親　支援の輪を」，2019.6.19
三部倫子： 取材協力「多様な性　理解の一歩に」，2019.7.7
三部倫子： 取材協力「多様な性を前提に　LGBTと家庭養護のシンポで」,，2019.6.23
三部倫子： 人権・ジェンダー論講師，金沢大学・角間キャンパス，2019.10.1 ～ 2020.3.31
三部倫子： 座談会「LGBT+Qのパートナーシップ・ファミリー・子ども」コメンテーター，2020.3.24（第一生命財団『コミュニティ』164号収録）
Nobuko　Shimizu：PlOS ONE 査読委員
清水暢子： 日本国際看護学会　査読委員
Nobuko　Shimizu：Dementia & Neuropsychologia　査読委員
清水暢子： 羽咋市国民健康保険運営協議会　委員
清水暢子： 第39会　日本看護科学学会学術集会　実行委員
清水暢子： 看護研究指導・講評，公立宇出津総合病院，2019.6.11,2019.12.26,2020.2.28
清水暢子： 令和元年度　生活・介護支援サポーター養成講座・講師，御代田町福祉保健課，2019.7.19
清水暢子： 令和元年度　キャラバンメイトスキルアップ講座・講師，御代田町福祉保健課，2019.9.6
清水暢子： 中能登町あじさい会研修会，中能登町地域包括支援センター，2019.7.12,7.24
清水暢子： 七尾市認知症の人にやさしいまちづくり研修会，七尾市社会福祉協議会，2019.8.30
清水暢子： なかのと若年性認知症カフェ「青空」，中能登町地域包括支援センター，2019.9.10″
清水暢子： 認知症看護認定看護師教育課程「認知症看護援助方法論Ⅰ」，石川県立看護大学看護キャリア支援センター，2019.8
清水暢子： 農福連携ヒツジ飼育体験教室，石川県立大学実験農場，2019.11.5,11.6
瀬戸清華： 第39回日本看護科学学会学術集会　実行委員
瀬戸清華： 後縦靭帯骨化症等患者家族のつどい　助言者，石川県南加賀保健福祉センター大会議室，2019.12.6
瀬戸清華： 日本ALS協会石川県支部令和元年度総会・講演会【はじめに】「療養者との意思疎通の必要性について」講演，国立病院機構医王病院管理棟3階大会議室，2019.6.2″
瀬戸清華： 日本ALS協会富山県支部令和元年度総会・講演会，サンシップ富山，2019.6.9
瀬戸清華： かほく市イクメンプロジェクト2019　PAPATOフェスティバルボランティア活動支援，イオンモールかほく，2019.10.14
瀬戸清華： かほく市イクメン推進事業　親子ふれあい遊び　ボランティア活動支援，七塚健康福祉センター，2019.6.30
瀬戸清華： ALS患者会女子だけではない女子会，金沢市役所2階喫茶友愛，2019.3.21，2019.6.20，2019.9.19″
瀬戸清華： 金沢マラソンボランティア学生引率，石川県西部緑地公園，2019.10.27
曽根志穂： かほく市介護保険認定審査会委員
曽根志穂： 宝達志水町在宅医療・介護連携推進協議会委員
曽根志穂： かほく市地域包括支援センター運営協議会委員
曽根志穂： かほく市自殺対策推進委員会副委員長

曽根志穂： 看護研究指導・講評，町立宝達志水病院，2019.6 ～ 2020.1
曽根志穂： 薬物乱用防止教室，かほく市立大海小学校，2019.11
曽根志穂：「看護の統合と実践Ⅰ（看護研究）」講義，金沢医療技術専門学校，2019.8-2019.10
曽根志穂： 防災訓練「防災ワールドカフェ」，かほく市七窪公民館，2019.6，2020.2
曽根志穂： 防災訓練，かほく市高松東町公民館，2019.12
曽根志穂： かほく市女性防災士研修会，かほく市中央図書館，2020.2
曽根志穂： 石川県新任保健師研修会研修担当，石川県庁，2019.11
瀧澤理穂： 日本看護科学学会　運営協力委員
瀧澤理穂： 日本IPR研究会　第167回ベーシックトレイニング　オブザーバー，国民生活センター（神奈川県），2020.5.2 ～ 5″
瀧澤理穂： 日本IPR研究会　第167回メイントレイニング　オブザーバー，国民生活センター（神奈川県），2020.6.15 ～ 16″
多久和典子： 日本学術会議会員（第24-25期）基礎医学委員会、健康・生活委員会、広報委員会各委員
多久和典子： 自然科学研究機構生理学研究所運営会議委員
多久和典子： 日本生理学会理事・評議員
多久和典子： 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科協力研究員・非常勤講師
多久和典子： 国家試験対策セミナー，石川県立看護大学，2019.8
多久和典子： 石川県公害審査会委員
多久和典子： 大学コンソーシアム石川運営委員会委員
多久和典子： 出張オープンキャンパス，金沢西高校，2019.11
武山雅志： 石川県精神保健福祉協会副会長
武山雅志： 石川県精神保健福祉協会会報委員
武山雅志： 石川県いじめ対応アドバイザー
武山雅志： 石川県社会福祉協議会ボランティアセンンター運営委員会委員長
武山雅志：（公）金沢こころの電話相談役
武山雅志：（公）石川被害者サポートセンター副理事長
武山雅志： 金沢市保健医療審議会委員
武山雅志： 金沢市いじめ防止等対策委員会委員
武山雅志： 羽咋市広域圏事務組合情報公開及び個人情報保護審査委員
武山雅志： 七尾市いじめ問題調査委員会委員
武山雅志： 学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会委員
武山雅志： 第39回日本看護科学学会学術集会における企画委員
武山雅志： 訪問看護師基礎研修，石川県看護研修センター，2019.6.15
武山雅志： お話し相手ボランティア養成講座，かほく市七塚健康福祉センター，2019.6.18
武山雅志： 警察安全相談の演習，石川県警察学校，2019.9.10
武山雅志： ストレスマネジメント・タイムマネジメント，石川県看護研修センター，2019.9.19
武山雅志 ： 主任介護支援専門員第Ⅰ期スパーバイザー養成研修，かほく市七塚健康福祉センター，2019.10.13
武山雅志 ： 指導救命士養成講習（統計学基礎・応用），石川県立看護大学，2019.10.16及び10.21

武山雅志：七尾市徳田地区生活・介護支援サポーター養成スキルアップ講座，千寿苑地域交流センター，2019.10.29

武山雅志，曽根志穂，金谷雅代：災害につよい街づくりフォーラム，石川県立看護大学，2019.11

谷本千恵：かほく市地域自立支援協議会委員

谷本千恵：社会福祉法人のぞみ理事

田淵知世：第39回日本看護科学学会学術集会　実行委員

田村幸恵：看護研究指導・講評，JCHO金沢病院，2019.6.27,8.27,9.17,1.24

田村幸恵：第39回日本看護科学学会学術集会実行委員

千原裕香：「育休からの職場復帰・再就職支援セミナー」パネリスト，石川県女性センター，2020.3

千原裕香：第39回日本看護科学学会学術集会　実行委員，石川県立音楽堂、ANAクラウンプラザホテル金沢、ホテル金沢，2019.11 ～ 12

塚田久恵：日本公衆衛生看護学会査読委員

塚田久恵：北陸公衆衛生学会査読委員

塚田久恵：石川看護雑誌査読委員

塚田久恵：一般社団法人日本公衆衛生学会代議員

塚田久恵：石川県障害者施策推進協議会委員

塚田久恵：かほく市健康づくり推進協議会委員（会長）

塚田久恵：小松市健康づくり推進協議会委員

塚田久恵：第39回日本看護科学学会学術集会企画委員

塚田久恵，石垣和子，阿部智恵子,曽根志穂，金子紀子，：令和元年度新任保健師研修会(集合研修2-1）講師，石川県庁，2019.11.14 ～ 15

塚田久恵：令和元年度新任保健師研修会(集合研修2-2)「実践力アップ事例検討会」講師，石川県石川中央保健福祉センター，2020.2.14

塚田久恵：能登総合研究会第3回研究報告会講演「奥能登地域に暮らす人々の健康－健康情報の入手、理解、評価、活用する力について考えようー」講師，のと里山里海ミュージアム，2020.2.9

塚田久恵：令和元年度「食育ポスターコンクール」選考結果並びに表彰式祝辞，かほく市宇ノ気保健福祉センター，2020.1.15

塚田久恵：JICA青年研修カンボジア地域保健医療実施管理コース「日本の公衆衛生看護の体制としくみ」講師，石川県立看護大学，2019.12.6

塚田久恵：JICA日系研修「介護予防と健康づくり」講師，石川県立看護大学，2019.7.3

塚田久恵：いしかわシティカレッジ「公衆衛生看護」講師，しいのき迎賓館セミナールーム，2019.9.24,10.1

寺井梨恵子：第39回日本看護科学学会学術集会　実行委員

寺井梨恵子，武山雅志，川村みどり，竹田昌代，金谷雅代：地域公開講座，かほく市いきいきステーション，2019.10.30，11.19，12.19，1.21，2.6

中田弘子：公益社団法人日本看護科学学会社会貢献委員

中田弘子：第39回日本看護科学学会学術集会企画委員

中田弘子： かほく市食育推進検討会委員
中田弘子： 公益社団法人大学コンソーシアム教務学生専門部会委員
中田弘子： かほく市食育推進委員
中田弘子： 第3次かほく市食育推進計画検討会，ほのぼの健康館，2019.6.19,10.31
中田弘子： 平成31年度公益社団法人大学コンソーシアム石川教務学生専門部会，石川県政記念しいのき迎賓館，2019.5.15,10.31,2020.2.26
中田弘子： 石川県看護教育連絡協議会総会，石川県庁，2019.8.19
中田弘子： 金沢学習会　事例検討　チューター，独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院，2019.6.15,2020.2.22
中田弘子： 第39回日本看護科学学会学術集会市民フォーラム，金沢市ANAクラウンプホテル，2019.12.1
中田弘子： 第39回日本看護科学学会学術集会ナーシングサイエンスカフェ，金沢市ANAクラウンプホテル，2019.11.30
中田弘子，川島和代： 地域ケア総合センター事業　いしかわ学習会　ジェネラリストのための事例検討 ，石川県立看護大学，2019.8.24,12.14
中田弘子： かほく市イオンモール健康教室 ，ほのぼの健康館，2018.8.20
中田弘子： 公立羽咋病院看護部研修 講師，公立羽咋病院，2019.10.30,2020.3.19
中田弘子，千原裕香： ナースに恋する出張オープンキャンパスin公立穴水病院，公立穴水病院，
中田弘子： タイラチャパットスラ―タニー大学研修講義，石川県立看護大学，2019.6.25
中道淳子： 第39回日本看護科学学会学術集会　実行委員
中道淳子： 介護支援専門員研修　企画委員
中道淳子： 日本認知症予防学会　評議員
中道淳子： JICA日系研修　コーディネーター・講師，石川県立看護大学，2019.7
中道淳子： JICA青年研修　講師，石川県立看護大学，2019.12
中道淳子：「認知症認定看護師教育課程」講義，石川県立看護大学，2019.9
中道淳子： 津幡町介護予防メイト養成講座「高齢者の身体的特徴」講師，津幡町役場，2019.7.31
中道淳子： 津幡町介護予防メイト養成講座「回想法」講師，シグナス（津幡町），2019.9.4
中道淳子： ケアマネ実務研修「ケアマネジメントの展開／内臓の機能不全に関する事例」講師，地場産業センター，2020.2.20
西村真実子： 日本小児保健学会 代議員
西村真実子： 石川県小児保健協会 役員
西村真実子： 日本小児看護学会誌 査読委員
西村真実子： 日本看護科学学会誌 査読委員
西村真実子： 看護実践学会 理事
西村真実子： 石川県要保護児童対策協議会専門家チーム 委員
西村真実子： 石川県奨学生選考審査会 委員
西村真実子： 親子交流授業プログラム検討委員(公益財団法人いしかわ子育て支援財団)
西村真実子： かほく市子ども・子育て会議 委員・会長
西村真実子： かほく市公私連携法人選定委員会　委員

西村真実子： 北陸小児糖尿病サマーキャンプ運営委員会 委員
西村真実子： NPO法人子どもの虐待防止ネットワーク石川 理事(副代表)
西村真実子，米田昌代，金谷雅代，曽山小織，千原裕香，後藤亜希：子育てどろっぷ･イン･さろん，石川県立看護大学、富樫教育プラザ（金沢市)、シェアマインド金沢（金沢市)，2019.8～12
西村真実子，金谷雅代，千原裕香，後藤亜希： 子どもと家族への支援に関する勉強会，石川県立看護大学，2019.8～12
西村真実子： 第39回日本看護科学学会学術集会　プログラム委員，石川県立音楽堂，ANAクラウンプラザホテル金沢，ホテル金沢，2019″
西村真実子： 日本子どもの虐待予防学会第2回学術集会 いしかわ金沢大会　プログラム委員，歌劇座(予定)，2019.10～″
西村真実子：「子ども虐待防止をめざす支援者育成プログラム 気になる親子に“気づく・かかわる・つなぐ”力を発揮するために」第1回・第4回講師，砺波総合病院，2019.10.4および11.12″
西村真実子： 平成30年度児童福祉司養成研修「児童虐待援助論」講師，石川県庁行政庁舎，2019.8
西村真実子，後藤亜希： 乳児の母親対象の「Nobody's Perfect完璧な親なんかいない(NP)」親支援プログラム(全6回) のファシリテーター，かほく市子ども子育てセンター「おひさま」，2019.2～3
西村真実子,米田昌代:「Nobody's Perfect完璧な親なんかいない(NP)」親支援プログラム(全6回)のファシリテーター，かほく市子ども子育てセンター「おひさま」，2019.9～10
西村真実子： 2019年度 高岡市要保護児童対策地域協議会 研修会 「子どもの虐待予防の支援 ：気づく・かかわる・つなぐ力を発揮するために ，高岡市役所8階 802会議室，2019.11.7
子吉知恵美：在宅生活をする重症心身障害児と学生との交流会，看護大学･対象自宅（中能登町)･旧鹿西中学校，2019.4.18,11.2,12.22
子吉知恵美： 在宅療養勉強会，訪問看護ステーションあわら，2020.3.9
長谷川昇： 石川県食品技術者ネットワーク　幹事
長谷川昇： 第39回日本看護科学学会学術集会　企画委員
長谷川昇： Journal of Ethnopharmacology，Phytotherapy Research（Elsevier ） Reviewer
長谷川昇： International Journal of Nursing & Clinical Practices（Graphy Publications)，Editorial Board
長谷川昇，市丸徹，瀬戸清華，渡辺達也： 猿鬼歩こう走ろう健康大会，能登町柳田地区，2019.5.5
長谷川昇： 認知症認定看護師教育課程講師「臨床薬理学」，石川県立看護大学，2019.7.19，7.25
長谷川昇： JICA青年研修講師「医薬分業と薬剤師の役割」，石川県立看護大学，2019.12.6
長谷川昇： 来人来人里創りプロジェクト事業，能登町、かほく市，2019.4～2010.3
長谷川昇： 出張講義「食生活と健康」，石川県立輪島高等学校，2019.10.17
長谷川昇： 愛知医療学院短期大学　講師（病態運動生理学)，愛地医療学院短期大学，2019.7.6
長谷川昇： 聖泉大学　講師　(臨床栄養学)，聖泉大学，2019.12.7,12.21
長谷川昇： 金城大学　講師　(健康科学、生理学ⅠⅡ、生理学実習)，金城大学，2019.4～2020.1

長谷川昇： 日本看護科学学会学術集会　企画委員、シンポジウム座長，音楽堂，2019.11.30 ～ 12.1

長谷川昇，米田昌代： 江蘇省人民対外友好協会交流35周年記念石川県日中友好代表団旅行　南京中医薬大学　視察，蘇州、南京、鎮江，2019.11.17 ～ 11.21

濵耕子： 日本公衆衛生学会認定専門家

濵耕子： 日本家族計画協会認定思春期保健相談士

濵耕子： 日本看護学教育学会　機関誌「日本看護学教育学会誌」専任査読者

濵耕子： 石川県建築審査会委員

濵耕子： 石川県立中央病院　院内看護研究コーディネーター，石川県立中央病院，2019.4-2020.3

東浩司，山川恵子，荻原まりな，濵耕子： 石川県　次代を担う大学生向けライフプラン・キャリアデザインセミナー「人生発見伝！今から考えよう、充実した人生・キャリアの形成について　仕事も生活も充実した毎日に向けて」（出前講座）の開催　講師：株式会社ソラーレ 代表東浩司氏，石川県立看護大学，2020.1.22

林一美： 日本災害看護学会査読委員

林一美： 津幡町介護認定審査会委員

林一美： かほく市地域密着型サービス運営協議会委員長

林一美： 高松訪問看護ステーション運営委員

林一美： 石川県国民県境保険団体連合会介護サービス苦情処理委員会委員

林一美： 石川県防災会議震災対策専門委員

林一美： かほく市介護保険運営協議会委員

林一美： JANS学術集会企画デザイン委員

林一美： 令和元年介護職員等による喀痰吸引等の実施のための研修，石川県立看護大学，2019.6.15

林一美： 在宅医療・介護の多職種連携勉強会，かほく市七塚健康福祉センター，2020.2.13

林一美： かほく看護KKP，かほく市七塚健康福祉センター，2019.11.15

林一美： 認知症看護認定看護師教育課程授業「認知症者の家族への支援・家族関係調整」，石川県立看護大学，2019.7.13

牧野智恵： 第39回日本看護科学学会学術集会 企画局長

牧野智恵： 日本看護科学学会学　和文誌専任査読委員

牧野智恵： 日本がん看護学会誌投稿論文査読委員

牧野智恵： 日本がん看護学会代議員

牧野智恵： 第24回石川緩和医療研究会世話人

牧野智恵： 日本IPR研究会幹部・運営委員

牧野智恵： 令和元年度厚生労働省委託事業　人生の最終段階における医療体制整備事業「患者の意向を尊重した意思決定のための研修会」相談員研修会ファシリテーター

牧野智恵：「がん患者の心のケア」講師，金沢大学付属病院，92019.9.23

牧野智恵，瀧澤理穂：「若手看護師へのグリーフケア」 企画・実施者，石川県立看護大学，2019.8.10　　2019.9.21

牧野智恵：「考えよう！臨床現場の倫理」（中堅看護職編）講師，石川県地場産業振興センター，

2019.9.7

牧野智恵：メンタルケア・スペシャリスト養成講座 「ターミナルケア」講師，石川県文教会館，2019.10.22″

牧野智恵，谷本千恵，松本智里： 公開講座「ゲノム医療の現状と薬物相互作用を知り,現場に活かそう」企画，石川県立看護大学，2019.10.6

牧野智恵：臨床で行うリンパ浮腫のケア 企画，石川県立看護大学，2019.8.24

牧野智恵： がんライフケアステージ事例検討会（8回/年）コーディネーター，テレビ会議，2019.6-2020.3

牧野智恵：FD研修「CNS関係者によるがん看護事例検討会」コメンテーター，石川県立看護大学，2019.7.27　　2019.10.6

牧野智恵：「北信がんプロ」学長連絡協議会,大学院生交流会（長野）報告者，ホテルメトロポリタン長野，2019.11.17

牧野智恵：「北信がんプロ」石川県立看護大学　コーディネーター,，2019.4-2020.3

牧野智恵：「元ちゃんハウス」がん患者へのサポート，元ちゃんハウス（金沢市），2019.5～2020.3

牧野智恵，松本智里，今方裕子，瀧澤理穂：認定特定非営利活動法人がんとむきあう会　元ちゃんハウス　ボランティアスタッフ，越屋メディカルケアビル（金沢），2019.5～

牧野智恵： 令和元年度厚生労働省委託事業　人生の最終段階における医療体制整備事業「患者の意向を尊重した意思決定のための研修会」相談員研修会ファシリテーター，富山県・タワー11，2019.12.22″

牧野智恵，松本智里，田淵知世：「がんになっても自分らしい人生を過ごすために　～今から家族と人生か意義（ACP)を～」企画，ホテル金沢，2020.3.22

松本智里：日本運動器看護学会認定運動器看護師育成講座　コースⅣ実践事例報告　評価委員

松本智里：第39回日本看護科学学会学術集会企画委員

松本智里：公立能登総合病院　研究指導・講評，公立能登総合病院，2019.6.14、2020.2.1

丸岡直子：日本看護学教育学会　専任査読委員

丸岡直子：日本看護研究学会　評議員・専任査読委員

丸岡直子：日本看護科学学会　社員（代議員）

丸岡直子：日本老年看護学会　代議員・査読委員　査読担当

丸岡直子：日本看護管理学会　評議委員・査読委員　査読担当

丸岡直子：第39回日本看護科学学会学術集会　企画委員

丸岡直子：看護実践学会　専任査読委員

丸岡直子：第39回日本看護科学学会学術集会　企画委員

丸岡直子：石川県立中央病院地域医療支援委員会　委員

丸岡直子：かほく市創生総合戦略推進計画策定に係る外部評価委員会　会長

丸岡直子：かほく市空家等対策審議会　会長

丸岡直子：日本看護学校協議会共済会　代議員

丸岡直子：認知症看護認定看護師教育課程　講師（医療安全学：看護管理），石川県立看護大学，2019.7.9，7.12，7.19

丸岡直子： 認知症看護認定看護師教育課程　講師（チーム医療論），石川県立看護大学，

2019.7.17，8.8，8.19

丸岡直子： 石川県看護協会認定看護管理者制度セカンドレベル　講師（質管理Ⅱ　看護サービスの質保証），石川県看護研修センター，2019.8.15，8.17，8.30，9.26

丸岡直子： 金沢医科大学大学院看護学研究科　非常勤講師（看護管理特論），金沢医科大学，2019.8.26，8.29

丸岡直子： 専門的看護実践力研修事業「管理者経営研修」 講師（地域包括ケア時代における看護管理者の役割），石川県立看護大学，2019.9.27

丸岡直子： 第26回石川県看護学会　講演会講師（入院する患者の在宅療養移行支援を考える），石川県地場産業振興センター，2019.11.16

南堀直之： 第39回日本看護科学学会学術集会　実行委員

南堀直之： 厚生労働省　日本DMAT隊員

三輪早苗： 第39回日本看護科学学会学術集会　実行委員

村井嘉子： 日本救急看護学会評議委員

村井嘉子： 日本救急看護学会査読員

村井嘉子： 日本クリティカルケア看護学会査読員

村井嘉子： 日本循環器看護学会評議委員

村井嘉子： 看護研究指導・講評，能美市立病院　2019.7.13，12.7，3.7

米田昌代： 石川県看護協会　助産師職能委員

米田昌代： 日本看護研究学会　査読委員

米田昌代： 第39回看護科学学会学術集会　実行委員

米田昌代： 公益社団法人石川県看護協会主催　平成27年度石川県実習指導者講習会講師　母性看護学　公益社団法人石川県看護協会，2019.6.24、6.28

米田昌代、川久保佳代、吉川由起子、吉田みち代： 北國生きがい支援事業石川県立看護大学プログラム「あなたのそばに助産師はいます」企画・講師，北國新聞社，2019.9.21

米田昌代，曽山小織，桶作梢，河合美佳，西村未来： ペリネイタル・グリーフケア検討会，石川県立中央病院，2019.7.21,11.9

米田昌代： あかちゃんをお空へみ送った方の自助グループに対するサポート活動，石川県立看護大学，通年

米田昌代： SIDS家族の会　医学アドバイザー

米田昌代： NPO法人ワークライフバランス北陸　副理事長

米田昌代： NPO法人ワークライフバランス北陸笑顔のリレー事業　ダブルケアセミナー　ファシリテーター，2020.2.1

米田昌代： 第13回東アジアグリーフの集い　実行委員長

米田昌代： 石川グリーフケアの会　グリーフケア・カフェ運営，2019.5.12,7.20,9.1,10.26,12.22,2020.2.15

渡辺達也： かほく市介護認定審査会委員

6.6　その他（受賞等）

浅見洋：テレビ出演，テレビ北陸朝日「スパーJチャンネル」，2019.3.27

浅見洋： テレビ出演，金沢テレビ　いしかわ大百科「ミュージアム散歩」石川県石田幾多郎記念哲学館・鈴木大拙館，2019.5.12

浅見洋： テレビ出演，金沢テレビ「テレ金ちゃん」「西田幾多郎の就活」，2019.5.25

浅見洋： 図書紹介『変な論文』，かほくケーブルテレビ，2019.5

垣花渉： 受賞，農林水産省主催第3回食育活動表彰　ボランティア部門大学等　消費・安全局長賞，2019.6

垣花渉： 新聞掲載，舞台「みんなで作る健康弁当」 北國新聞夕刊，2019.4

垣花渉： テレビ出演，NHK総合 「かがのとイブニング」，2019.7

垣花渉： テレビ出演，NHK総合 「かがのとイブニング」，2019.11

垣花渉： ラジオ出演，NHKラジオ第一「じわもんラジオ」，2020.2

木森佳子，田村幸恵： 受賞，第16回日本循環器看護学会学術集会優秀演題，2019.11

清水暢子: テレビ出演，NHK金沢放送局「認知症の人の見え方を学ぶ研修会」｜NHK 石川県のニュース https://www3.nhk.or.jp/lnews/kanazawa/20190830/3020002625.html，2019.8

寺井梨恵子： 資格取得，転倒予防指導士取得，2020.2

牧野智恵： FMかほく出演，北信がんプロ企画の紹介、ACPについて，2020.2.17

三輪早苗： 学位論文，石川県立看護大学修士学位論文　心的時間測定の咀嚼・嚥下機能への応用，2020.3

米田昌代： FMかほく出演，北國生きがい支援事業石川県立大学プログラムについて，2019.9.2

渡辺達也： 学位論文，石川県立看護大学修士学位論文　加齢による視機能の変化の実態把握～ 40歳代に焦点をあてて～，2020.3

6.7　研究助成金

6.7.1　科学研究費助成事業（日本学術振興会）

6.7.1.1　科学研究費補助金

1.　本学教員が研究代表者のもの

浅見洋，林晋，森雅秀，上原麻有子，秋富克哉，美濃部仁：　西田幾多郎のノート類資料の研究資料化と哲学形成過程の研究，H29-HH33，科学研究費補助金基盤研究（B）

紺家千津子，真田弘美，須釜淳子，松井優子，木下幸子，浅野きみ：　療養病床病院におけるスキンケアの質保証：近未来型皮膚障害予防・管理支援の整備 ，H29 ～ R2，科学研究費補助金基盤研究（B）

2.　他の研究機関に本学教員が分担者として参加しているもの

該当なし

6.7.1.2　学術研究助成基金助成金

1.　本学教員が研究代表者のもの

石垣和子，大湾明美，宮崎美砂子，塚田久恵，曽根志穂，金子紀子，米澤洋美，他2名：住民の社会文化的背景に基づく保健師による個別支援方法の開発，H29 ～ R1，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

石川倫子：　診療看護師(NP)による症状マネジメントを強化する在宅療養移行支援システムの開発，R1-R3，学術研究助成基金助成金若手研究

大江真吾：　ASD患者の語りから検討する看護師のケアに関する研究，H29 ～ R1，学術研究助成基金助成金若手研究（B）

大西陽子：　浅い鎮静深度で管理中の人工呼吸器装着患者の同意的行為を引き出すアプローチの解明，H30 ～ R2，学術研究助成基金助成金若手研究

桶作梢：　治療後に出産するAYA世代がんサバイバーの周産期ケアモデル構築のための研究，R1-R4，学術研究助成基金助成金若手研究

垣花渉，澤田忠幸，石川倫子，西村秀雄：　主体的に考える力を養う看護系初年次教育の実践的研究，R1 ～ R4，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

加藤穣：　医療における良心的拒否を通じた権利擁護の射程と限界に関する日米比較調査，H29-R1，学術研究助成基金助成金若手研究（B）

金子紀子，*阿川啓子，石垣和子：　妊娠・子育て期に都市部から農村部へ転入した母親の地域のつながりの過程の解明，R1 ～ R4，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

亀田幸枝，濵耕子，米田昌代，曽山小織，桶作梢，河合美佳：　周産期の助産実践能力形成を促すルーブリックの開発と有用性，R1 ～ R4，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

木森佳子，丸岡直子，中山和也：　目視困難な末梢深層静脈可視化近赤外光反射システムの改良と臨床応用，H29 ～ R2，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

小林宏光：　歩行対称性指標の妥当性およびその正常標準値の検討，R1 ～ R4，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

桜井志保美：　小児訪問看護における医療的ケアが必要な乳幼児の育児ハンドブック作成，H30-R2，学術研究助成基金助成金若手研究

清水暢子，梅村朋弘，松永昌宏，望月美也子，長谷川昇，加藤真弓，山田恭子：「認知症者の少ないタイ北部に学ぶ認知症予防対策」～脳血流量と生活習慣の関係を基に～，H29 ～ H32，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

曽山小織：　神経管閉鎖不全の発生リスク低減のための葉酸サプリメント摂取に関する女性の認識，R1 ～ R3，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

多久和典子：　マクロファージ機能極性を制御するスフィンゴ脂質シグナリング，H29 ～ R1，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

武山雅志，曽根志穂，金谷雅代：　看護学生のコミュニケーション教育に及ぼす体験活動とフォーカシングの有効性の検証，R1 ～ R3，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

谷本千恵，大江真吾，塚田久恵：　患者の自殺を体験した精神科看護師のメンタルヘルスケアプログラムの開発，R1 ～ R5，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

千原裕香，西村真実子，金谷雅代，山田ちづる：　親になる前から始める子ども虐待の世代間伝達防止支援プログラムの開発，H31 ～ R3，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

寺井梨恵子：　パフォーマンス評価を用いた看護師の動作観察能力を高める教育プログラムの効果，R1-R2，学術研究助成基金助成金研究活動スタート支援

中田弘子，田村幸恵，三輪早苗，小林宏光：　懐古的で嗜好性のある音楽が認知症高齢者に与える影響，H29-R1，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

西村真実子，米田昌代，金谷雅代，曽山沙織，千原裕香：　子ども虐待や育児困難に悩む母へのペアレンティングプログラムを活用した継続的支援の評価，H31 ～ R3，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

子吉知恵美，田村須賀子：　地域特性や保護者の受容状況に応じた発達障害児の早期療育に向けた保健師による支援，H29年～ R1，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

長谷川昇，山田恭子，清水暢子，久米真代，望月美也子，加藤真弓：　高齢者サロンを利用したプレフレイル状態の可塑性の検討，H30-R2，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

林一美，山﨑智可：　地域包括ケアシステムにおける診療所看護のプライマリケアに関する質指標の開発，H28-R1，学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

丸岡直子，林一美，武山雅志，石川倫子，田村幸恵、田淵知世、吉田千文、樋口キエ子、林静子:当事者視点と当事者との対話を基盤とする在宅療養移行支援システムの構築，H30-R2，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

南堀直之：　安静降圧療法を受ける急性大動脈解離患者に対する看護実践力向上教育プログラムの構築，R1 ～ R3，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

2.　他の研究機関に本学教員が分担者として参加しているもの

林永強，浅見洋，志野好伸：　西田倫理学と古典儒教：人格実現説の形成と意義の再検討，R1 ～ R3，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

辻村真由子，石垣和子：　訪問看護師による一人暮らし高齢者の家族支援指針の開発，H28 ～ R1，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

大湾明美，野口美和子，石垣和子，田場由紀，山口初代，佐久川政吉，砂川ゆかり：　地域の生活文化を基盤にした高齢者ケアの創出のプロセス評価，H29 ～ R1，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

伊藤隆子，雨宮有子，石垣和子，吉田千文，島村敦子：　在宅療養の場における倫理的課題への対処方法の解明と支援プログラムの開発，H30 ～ R2，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

野口美和子，盛島幸子，田場由紀，吉川千恵子，石垣和子，大弯明美：島嶼地区の高齢女性とともに探る人口減少の看護対策－島での子育て文化に学ぶ－，R1 ～ R3，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

宍戸圭介，粟屋剛，加藤穣，陳剛：　「新しい診療拒否」に関する学際的研究，R1-R3，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

*阿川啓子，金子紀子，石垣和子：　地域で暮らす子どもの母親支援；先天性心疾患を持つ子どもへの看護連携の構築，H29 ～ R1，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

橋本智江，川島和代，平松知子：　介護老人福祉施設における援助者の負担軽減に向けた入浴ケ

ア体制の開発，H29 ～ R1，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

長田恭子，北岡和代，河村一海，川村みどり： 地域生活を送る統合失調症をもつ人の自殺念慮の体験とその対処方法に関する研究，H29 ～ R2，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

松井優子，真田弘美，須釜淳子，村山陵子，紺家千津子： 抗がん剤治療を受ける患者の静脈穿刺困難をなくすー硬結予防アルゴリズムの開発ー，R1 ～ R3，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

河野由美子，桜井志保美，小泉由美： 介護職の虐待予防を目指したストレス緩和を図るストレッチプログラムの開発，2017-2019，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

彦聖美，大木秀一，曽根志穂： 高齢期の妻や親を介護する男性介護者世帯に対する災害時の健康管理と共助に関する研究，R1 ～ R3，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

望月美也子，長谷川昇： 脂溶性ビタミンと運動に着目したアンドロゲン低下に伴う肥満とうつ状態の改善，H28-R1，学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

6.7.2 学内研究助成費

本学専任教員が行う「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を発展させることを目的とする。

垣花渉，齊藤陽子：虚血性心疾患の予防を目指す「歩く生活プログラム」の検討

長谷川昇，山田恭子，望月美也子：尿中ビタミンD濃度を指標としたASD発症予防の検討

田村幸恵：ポケットエコーを使用したIVC測定のための看護師向け教育プログラムの構築

牧野智恵，松本智里，今方裕子，瀧澤理穂，松本友梨子，土田祐子： がんサバイバーへの施設外における支援の意義

松本智里，今方裕子：抗がん薬治療に対するアピアランスケアの最近の動向と今後の課題

今方裕子：EGFR阻害薬による皮膚障害の重症化に影響を及ぼす要因に関する研究

瀧澤理穂，牧野智恵： 乳がん患者が子どもに真実を伝える体験ー子どもの発達段階における特徴ー

磯光江，大田一美．大豊千恵： 石川県における血液透析療法を受ける認知症高齢者の実態ー透析看護師と認知症高齢者の家族への質問紙調査よりー

子吉知恵美： 就学前の発達障害児の早期支援に向けた保健師の保健指導の実践に影響する要因に関する研究

清水暢子，梅村朋弘，松永正弘，長谷川昇，小林実夏，山田恭子，加藤真弓，Hunsa Sethabouppha，Nattaya Suwankruhasn，Chalinee Suwannanyos，Duangruedee Lasuka，Peerasak Lerttrakarnnon： こころ豊かな社会に学ぶ認知症予防対策～タイ北部と日本の農村部との国際比較研究～

6.7.3　その他助成金等

1. 本学教員が研究代表者のもの

浅見洋：　西田幾多郎ノート類資料の翻刻と研究資料化，H29-H30，三菱財団2019年学術助成金

垣花渉，石川倫子，澤田忠幸，小椋賢治：「主体的に学ぶ力」を育てる授業法の開発，R1，石川県立看護大学と石川県立大学との共同研究助成

澤田忠幸，小椋賢治，垣花渉，石川倫子：　初年次教育による学生の汎用性技能の育成，R1，石川県立看護大学と石川県立大学との共同研究助成

垣花渉：　食と健康の異世代交流をとおした大学生の健康弁当創作，R1，令和元年度大学生・短期大学生による食育キャンペーン事業

紺家千津子：　ストーマプロ監修業務，R1，遠隔看護支援協議会　受託事業

曽根志穂，武山雅志，金谷雅代：　災害時に健康を守るための備えに取り組む地域防災活動事業ー地域防災活動の活性化と地域防災力の向上を目指してー，2019，第24回「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業　地域づくり研究事業

武山雅志，川島和代：　すず健やか事業実施効果検証事業，R1，受託研究

西村真実子，千原裕香：　親子交流授業の質の向上に伴う研究「世代間ライフストーリーインタビュー」によるアプローチ効果，R1，公益財団法人いしかわ結婚・子育て支援財団受託研究

長谷川昇，西本壮吾：　椿茶の骨密度に及ぼす影響，R1，両大学共同研究費

2. 他の研究機関に本学教員が分担者として参加しているもの

該当なし

7. 国際交流

7.1　国際交流委員会

委 員 長：米田 昌代　准教授
委　　員：加藤准教授、木森准教授、曽山講師、清水講師、金子助教、田淵助教
事 務 局：宮川専門員
活動内容：

1. 学生のアメリカ看護研修（学部科目「国際看護演習Ⅰ」旧カリ：「国際看護演習」）（7.2参照）

本学では、国際的に活躍できる人材の育成をめざし、夏期アメリカ看護研修（国際看護演習、1単位・30時間）が行われている。学生の負担を軽減させるため、研修プランの策定にあたっては、2013年度より業者にプロポーザル方式でプランを提案させ、経費負担の抑制を図っている。参加経費は約346,000円（諸経費含む）となり、23名の学生が参加した。また、今年度は日本学生支援機構（JASSO）の留学生支援資金取得申請が追加採択され、5名の学生に8万円／名の助成をすることができた。事前学習として、2015年度から研修内容に応じて日本とアメリカの保健医療制度や実情を自己学習させ、自己紹介の英会話を実施している。また、今年度は外部講師による英会話レッスンも企画した。研修終了後の企画として、11月に前年度の招聘教授であるドーレンボス教授をゲストにお迎えして、夏期アメリカ看護研修参加者とこれから国際看護研修を目指す人のための情報交換会を開催した（後述）。

今後の課題として、1.引き続き、学生が現地で積極的にコミュニケーションがはかれるよう英語力向上のための取り組みを行う。2.研修終了後、振り返りミーティングを定期的に実施し、ホストファミリーとの交流の継続、海外情勢の国際医療等についての学習状況、今後の海外研修・留学等の進路計画等について確認する機会をもうける等フォローアップ体制の充実をはかる等が挙げられる。

2. 学生の韓国看護研修（学部科目「国際看護演習Ⅱ」旧カリ：「国際看護演習」）（7.3参照）

2015年度に文部科学省の「大学間連携共同教育推進事業」として、学都いしかわ・課題解決型グローカル人材育成システムの構築』の一つ、「ヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクト」事業の一環として、韓国での研修が実施され、それをきっかけとして、隔年に開催、今回は現地旅行社のサポートも得つつ、本学独自のプログラムとしての開催となった。また、国際看護演習Ⅱとして単位化されてからの初めての研修となった。この研修の目的は、政治や文化、社会経済の異なる国での保健医療システムを知り、地域における住民の暮らしや健康課題への対処方法について学ぶことにより視野を広げ、学生の将来の活動において様々な地域住民への健康づくりにアプローチできる、グローカルな人材を育成することであり、このプログラムに参加することにより期待される成果としてアジア諸外国における保健医療システムを学び、わが国の少子高齢化等様々な課題に対して新たな視野で解決策を考える力が育成されることである。日韓関係悪化で実施が危ぶまれたが、県庁国際交流課等関係機関と連絡をとりつつ、実施できた。参加経費は約266,000円（諸経費含む）となり、10名の学生が参加した。

事前学習として、日本と韓国における疾病、死亡の動向、医療保険制度、看護師制度・教育、

保健所の組織と業務、在宅サービスと介護に関する保険制度、母子保健制度についてグループで学習し、発表した。また、石川県国際交流員のキム・ジュヨンさんとNPO法人YOU-Iのキム・ジョンファさんから韓国語だけでなく韓国の生活習慣や文化を楽しく学んだ。研修後も韓国語講座を企画し、現在も月2回継続して学んでいる。

3. JASSO(日本学生支援機構)海外留学支援制度(協定派遣)・短期研修・研究型　申請

グローカル人材育成アクションプラン作成ワーキンググループが作成したアクションプランに基づいて、来年度実施のアメリカ看護研修とタイ看護研修において、申請書を作成した。採択とはならなかったが、両看護研修ともに、最上位2割のA判定であり、追加採択の可能性が高まっている。2021年度からは1か月以上のプログラムしか申請できなくなるため、来年度で最後の申請となる。

4. タイ国立チェンマイ大学とのMOU締結

看護研修を実施しているタイ国立チェンマイ大学と前年度の2月の訪問後から手続きが進み、2019年7月9日にMOU締結の運びとなった。

5. 国際交流意識の向上をめざした取り組み

学生および教職員の国際交流意識の向上をめざし、以下について取り組んだ。

1) 国際交流の集いの開催

日時：2019年4月18日(木)16：20 ～ 18：00

場所：地域ケア総合センター研修室

ねらい：本学学生が講演や対話を通して、異文化のなかの多様な価値観を知る。
国際的視野を広げるとともに、海外で学ぶことの動機付けの機会とする。

スケジュール：国際委員長挨拶
講話1「No.1ではなく、Only Oneを目指す」
講師：キム・ジョンファ氏
(NPO法人YOU-I　大韓民国釜山出身)
講話2「タイと日本における生活様式の相違点
講師：タンチャノック・マンテープさん
(学生、タイ王国バンコク出身)
グループに分かれて、フリーディスカッション
閉会の言葉(国際交流委員)

参加者：学生19名(1年生3名、2年生13名、3年生1名、4年生2名)

アンケート内容：

・海外と日本の違いなどを動画などで楽しく見ることができた。
・講師のお二人がとても明るくて､話を聞いていてとても明るく楽しい気持ちになった。
・お話を聞いて日本にはないタイの魅力を沢山知って、このような国の医学にふれてみたいと強く思った。
・韓国もタイもすごく楽しそうで、ぜひ行きたくなった。
・日本語がとても上手でわかりやすかった。

・日本語で話せたので、自分の思っていることが意見として言えて良かった。
・例年より活発なフリーディスカッションだった。
・自分が悩んでいたことを相談できてよかった。

海外研修申し込み期間内に実施したことで、参加を検討する時期として効果的だったと考える。日本語が堪能な講師であったため、交流も活発に行われた。

次年度以降、 International Cafeと名称を変更する予定

2) 教員の英語能力向上に対する取り組み

今年度は語学力推進ワーキングの教員が外部講師を招いて、TOEIC講座を企画し、受験サポートを実施したため、委員会としての活動はなかった。

3) 学生に対する韓国語講座の開催（学長企画　法人本部事業教育特別活性化事業に応募 2019年度採択　2020年度応募中 国際交流委員サポート）

講師：キム・ジョンファ氏（NPO法人YOU-I）

韓国看護研修参加者対象に韓国語の読み書きや会話だけでなく、韓国と日本の文化の違い、全州市の情報についても盛り込んでいただいた。

日時：①2019年 7月26日(金)16：20 ～ 17：10　参加人数　学生8名
②2019年 8月20日(火)16：20 ～ 17：10　参加人数　学生6名
③2019年10月 1日(火)16：30 ～ 17：20　参加人数　学生6名

場所：地域ケア総合センター研修室

講師：ユウン・スジョン(能美市在住)　月2回実施

韓国研修参加以外の学生も募り、正しい発音の基本から、段階的に学ぶ

日時：①2019年12月12日(木)16：20 ～ 18：00　参加人数　学生13名
②2019年12月19日(木)16：20 ～ 18：00　参加人数　学生11名
③2020年 1月16日(木)16：20 ～ 18：00　参加人数　学生13名
④2020年 1月30日(木)16：20 ～ 18：00　参加人数　学生9名
⑤2020年 2月 6日(木)16：20 ～ 18：00　参加人数　学生7名
⑥2020年 2月20日(木)16：20 ～ 18：00　参加人数　学生12名
⑦2020年 3月23日(月)16：20 ～ 18：00　中止（新型コロナウイルス感染拡大予防のため）
⑧2020年 3月31日(火)16：20 ～ 18：00　中止（新型コロナウイルス感染拡大予防のため）

4) 夏期アメリカ看護研修参加者とこれから国際看護研修を目指す人のための情報交換会

日時：2019年11月28日(木)16：20 ～ 18：00　場所：大会議室

内容：特別ゲストとしてArdith Doorenbos教授と(イリノイ大学、前ワシントン大学看護学部)とそのご主人Keith Doorenbos氏にもご参加いただき、開催した。まず、昨年アメリカ研修に参加した学生からその時の様子や、ホームステイでの家族との様子、現地での買い物や生活の様子、困りごとや良かったことなど、大きな会場ではなかなか聞けないことをより具体的に写真を交えた説明があった。その後Doorenbos先生からより詳しいシアトルでの生活や観光スポットの紹介を受け、ワシントン大学の様子やその周辺買い物スポットにも話は広がった。さらに3グ

ループに分かれて、それぞれに演者、Doorenbosご夫妻が入り、より詳しい質問が飛び交った。

参加者：学生68名(1 ～ 4年生)

5）国際交流の掲示板の内容の更新

本学の国際交流活動を広く周知するために設けられた学内2か所に国際交流の掲示板の内容を令和元年版に更新した。更新した内容は、アメリカ看護研修、韓国看護研修、JICAからの委託研修（日系：パラグアイ、青年：カンボジア)、タイチェンマイ大学とのMOU締結である。

なお、ワシントン大学との提携に関する覚書の更新、同大学クリスマン教授への感謝状贈呈、中国の南京中医薬大学（江蘇省）および吉林大学看護学部（吉林省）との提携に関する覚書の締結、平成30年度タイ看護研修の写真は継続して掲示している。

6．視察対応

1）2019年4月10日（水）韓国全羅北道保健診療所職員訪問団

2）2019年6月25日（火）タイ　ラーチャパットスラータニー大学看護学部教員関係者

7.2　アメリカ看護研修（学部科目「国際看護演習Ⅰ」）

2019年8月28日～9月13日の約2週間にわたり、アメリカ看護研修をワシントン州シアトルで実施し、学生23名（4年1名、3年13名、2年9名）が参加した。大型の台風のため、予定日に帰国できず、延泊となった。復路の飛行機は全員分の席を同じ便で確保することが困難であったため、12日に学生16名（引率；松本）、13日に学生7名（引率；アトラス社員）が帰国した。

研修内容

1. 講義

1）テーマ：「現場から見た日米の医療と看護の違いについて」

講　師：Yuko Hansen先生（Children's Hospital）

内　容：日米の医療システム、医療現場、看護師の働き方の違い
メディカルスタッフの中での役割分担（Dr、SW、PT、OT、ST、NSのそれぞれの役割）
についてご自身の体験を交えた講義

2）テーマ：「アメリカのナースやナースプラクティショナーの役割・教育・保険医療システムについて」

講　師：上月頼子先生（ワシントン大学看護学部准教授）

内　容：

①アメリカの保健医療システム

②アメリカのNSが働いている場（病院・クリニックやそれ以外の場）

③看護教育制度（NPの紹介、ライセンスを得るための教育、権限・責務など）

2. 語学研修

日常英会話、看護英語など

3. 保健医療・福祉施設の見学

1）University of Washington

2）University of Washington School of Nursing　Simulation Center

3）Hall Health Center

4）Harborview Medical Center

5）SKYLINE Retirement Community

6）Nikkei Manor

4. 日程

	月日 (曜)	都市 名	発 着	交通機関	時刻	日程
1	8/28 (水)	小松空港 成田空港 成田空港	発 着 発	全日空 〃 全日空	14：35 15：55 18：15	一路、シアトルへ ≪日付変更線≫
		シアトル	着	Ling Light Rail ホストファミリー	11：25 午後	入国審査後、Ling Light Rail でワシントン大学へ ホストファミリーと対面。ホームステイ宅へ ワシントン大学への行き方を学ぶ
2	8/29 (木)	シアトル		市バス	午前 午後	ワシントン大学 Ling Light Rail Station 集合 **日本人ナースによる看護セミナー**：日米の医療の様々な違いについて **ワシントン大学看護学部准教授** **上月先生による講義** 「アメリカのナース（NS）の役割・教育・保健医療システムについて」
3	8/30 (金)	シアトル		市バス	午前 午後	ワシントン大学 English Lesson(日常英語と視察事前学習) **ワシントン大学看護学部 Simulation Center 視察** キャンパスツアー
4	8/31 (土)	シアトル		市バス	終日	シアトルダウンタウン観光： パイププレイスマーケットやウオーターフロントなど
5	9/1 (日)	シアトル		市バス	終日	**エクスカーション** **フェリーで Bain Bridge Island へ：**初期の日系移民の歴史が始まった日本人ゆかりの島
6	9/2 (月)	シアトル		市バス	終日	フリータイム(Labor Day のため休日)
7	9/3 (火)	シアトル		市バス	午前 午後	ワシントン大学 English Lesson（日常英語） **Hall Health Center**(通訳つき) ※ワシントン大学構内にある施設でプライマリーケアを学ぶ
8	9/4 (水)	シアトル		市バス	午前 午後	ワシントン大学 English Lesson（日常英語） **Harborview Medical Center** へ （通訳付き） ※第１級外傷センターとして高い評価を得ている病院の病棟やリハビリセンター、Medic 1 などを視察
9	9/5 (木)	シアトル		市バス	午前 午後	**SKYLINE Retirement Community 訪問** ※自立した高齢者から介護度の高い高齢者までが入居できる施設で、それぞれの介護度に合わせたユニットを視察する。 **Nikkei Manor** へ ※ボランティアスタッフとして入居者と触れ合い、ケアだけでなくアメリカの日系人の歴史について学ぶ
10	9/6 (金)	シアトル		市バス	午前 午後	ワシントン大学 Closing ceremony の準備 **＊現地学生や留学生との交流会** Presentation / Closing ceremony
11	9/7 (土)	シアトル		市バス	終日	終日フリータイム
12	9/8 (日)	シアトル		市バス	終日	終日フリータイム
13	9/9 (月)	シアトル		ホストファミリー Ling Light Rail	午前 午後	ワシントン大学 Ling Light Rail Station 集合 一路シアトル空港へ ⇒台風のため飛行機が欠航となり、急遽ホテル泊へ
14	9/10 (火)	シアトル		Ling Light Rail	終日	シアトル観光 Starbucks Coffee 本社、メジャーリーグ観戦（マリナーズ vs レッドソックス）
15	9/11 (水)	シアトル		全日空	13：20	学生 23 名中 16 名は松本とともにシアトル空港へ 帰国の途へ ※残りの学生６名はアトラス社員とともにホテルに１泊
14	9/12 (木)	成田空港 成田空港 小松空港	着 発 着	全日空 全日空	16：10 18：35 20：15	学生 16 名は松本とともに成田空港から小松空港へ到着後、解散
		シアトル		全日空	13：20	学生７名はアトラス社員とともにシアトル空港へ 帰国の途へ
15	9/13 (金)	成田空港 羽田空港 小松空港	着 発 着	全日空 全日空 全日空	16：10 19：05 20：45	学生７名はアトラス社員とともに成田空港着後、羽田空港に移動。羽田空港から小松空港へ到着後、解散

7.3　韓国看護研修（学部科目「国際看護演習Ⅱ」）

2019年8月25日～9月8日の2週間にわたり、韓国看護研修を韓国全羅北道全州市で実施し、学生10名（4年2名、2年4名、1年4名）が参加した。教員は木森、桜井が引率した。今年度より当該研修は「国際看護演習Ⅱ」1単位の授業科目となった。そのため、これまで3月に8日間での開催が14日間の研修となった。この研修には石川県観光戦略推進部国際交流課、全羅全羅北道庁国際協力課国際交流課、現地旅行会社ツアーバクサの協力があった。

主な研修内容

1．講義

1）テーマ：「韓国の看護教育、臨床看護」

講　師：Eun-Suk Kong Professor of Nursing（JESUS　University）

内　容：韓国の看護職、看護教育と課題、看護職が活躍する臨床現場の変化など

2）その他

韓国の特徴的な保健医療福祉として「産後ケア」「漢方医療」「療養看護・介護」「韓国の健康保険システム」の講義を視察先で受けた。

2．保健医療・福祉施設の見学

1)全北大学病院

2)ハンナ女性病院、産後調理院

3)国民健康保険公団　全州南部支社

4)淳昌群内保健医療施設（保健診療所、淳昌群保健医療院、長寿健康研究所）

5)漢方治療院

6)孝サラン家族療養病院

3．語学研修

全北大学シルクロードセンターで、韓国語研修を受けた（3時間×7日間）。

4. 日程

1日目 8月25日(日)	小松 仁川 全州	10:45 12:40 19:00	小松空港 仁川空港　全州にバスで移動（約3時間30分） フンサンコンジハウスチェックイン
2日目 8月26日(月)	全州	10:00 11:00 14:00	全北大学校キャンパスツアー 全北大学病院見学 ハンナ女性病院、産後調理院
3日目 8月27日(火)	全州	9:00 14:00	韓国語授業① 全羅北道庁訪問
4日目 8月28日(水)	全州	9:00 14:00	韓国語授業② 国民健康保険公団　全州南部支社
5日目 8月29日(木)	全州	9:30	淳昌群内保健医療施設訪問 治癒農場（ガイア農場） 保健診療所 淳昌群保健医療院 健康長寿研究所
6日目 8月30日(金)	全州	9:00 14:00	韓国語授業③ コンウンスク教授の講義
7日目 8月31日(土)	全州	10:00	伝統文化体験（韓紙づくり） 韓屋村観光
8日目 9月1日(日)	全州	9:00	イムシルチーズ村観光 韓国式サウナ（汗蒸幕）体験
9日目 9月2日(月)	全州	9:00 14:00	韓国語授業④ 漢方治療体験
10日目 9月3日(火)	全州	9:00 14:00	韓国語授業⑤ 全北大学校　看護学部　見学学生との交流
11日目 9月4日(水)	全州	9:00 15:00	韓国語授業⑥ 孝サラン家族療養病院見学
12日目 9月5日(木)	全州 ソウル	9:00 午後	韓国語授業⑦ 全州出発
13日目 9月6日(金)	ソウル		ロッテワールド観光
14日目 9月7日(土)	ソウル		自由行動
15日目 9月8日(日)	ソウル 仁川 小松	7:55 9:40	仁川空港出発 小松空港到着

8. 地域創生

8.1　地域創生委員会（能登キャンパス構想班・COC+・グローカル人材育成班）

委 員 長：川島 和代　教授
委　　員：浅見特任教授、牧野教授、垣花准教授、谷本准教授、市丸准教授、田村助教、
　　金子助教、西田事務局長
事 務 局：宮川専門員
活動内容：

1. 地域創生にかかわる活動について

平成30年度末に本学委員会組織を検討するにあたり、地域創生委員会に能登キャンパス構想推進協議会事業とCOC+・グローカル人材育成事業班事業を吸収して1委員会として運営することが承認された。地域創生員会として2つの班の事業運営を担うこととなった。

1）地域創生委員会の活動

委員会は2回実施した。今年度委員会の運営方針を確認した。

2）能登キャンパス構想班（川島、牧野、谷本、市丸、田村）

本学は、これまで協議会（年2回）と幹事会（年4回）への出席の他、「祭り支援プロジェクト（能登祭りの環インターンシップ事業)」等に学生とともに参加してきた。

平成29(2017)年より「祭り支援プロジェクト」において能登町の矢波諏訪祭りは本学が担当となり、参加学生の募集、事前の連絡・調整、祭り当日の引率等を行ってきた。令和元年度は本学より16名の学生と引率教員3名(他大学も含めた参加総数24名)が参加し､年々地域との絆も深まっている。その他の祭り（黒島天領祭、粟津の秋祭り）も合わせると令和元年度は本学から36名（延べ人数）の学生が参加した。

また、大学祭に能登地区の病院紹介ブースを設ける活動に取り組んだ。公立穴水総合病院からの出展があり、卒業生が病院紹介を行ってくれた。

3）COCプラス・グローカル人材育成班（川島、浅見、垣花、金子）

本事業は平成27年度文部科学省が募集した地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+）に金沢大学が中心となって応募した「金沢･加賀・能登で地域思考型教育による夢と志を持つ人材育成」が採択され、本学も参加校として予算措置を受けた。本学では石川の理解を深めるE-learnig教材「地方創生概論」の視聴を促した。

令和元年度、「グローカル人材育成・共創インターンシップ専門部会」の委員として事業に参加し、他大学の共創インターンシップの成果報告やプログラムの採択に加わった。大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ課題解決型グローカル人材育成システムの構築」に参画し、令和元年度は「グローカル人材育成プログラム」に本学の学生4名が申請しグローカル・ヤングリーダー 4名を輩出した。グローカル・ヤングリーダー累積人数は12名となった。

『トビタテ留学JAPAN』に本学から初めて1名応募し、第二次審査まで進んだが残念ながら不採択となった。

9. 附属図書館

9.1　図書館運営委員会

委 員 長：西村 真実子　教授（附属図書館長）
委　　員：松原教授、村井教授、塚田教授、加藤准教授、石川准教授、田淵助教、河合助手
事 務 局：寺訳総務課長、藤田専門員
活動内容：

1　図書館による学習・研究支援：文献検索セミナー

学生への図書館活用に関する調査の結果を基に、学生・院生および教職員向けの以下の文献検索の仕方(医中誌の使い方等)のセミナーを開催した。

・1年生：入学ガイダンスと科目「アカデミックリテラシー」において、司書(または図書館長)が実施した。

・3年生：科目「研究方法論」において、11月7日に司書が実施した。
また、サーチャーを講師に迎え、以下のセミナーも実施した。事後アンケートよると、「とてもよかった」「よかった」の合計が86%、わかりやすかったと回答した者が97% であった。「自己流で調べて長い時間かけて理解したことが、このセミナーで説明されていたので、もっと早く聞きたかった」「毎年やってもらいたい」等の高評価を得た。次年度は、3年生は科目「研究方法論」の枠内で、また他学年向けとして、同日にもう1回実施するのがよいと思われた。
日時：2020年 2月 3日（月）16:20 ～ 17:50
場所：情報処理室
講師：前田亜寿香氏（サーチャー、株式会社サンメディア）
参加者：3年生　29名　院生9名　教員1名　計39名

・教職員・院生：「文献検索アドバンス編」研修会を以下のように実施した。事後アンケートよると、「とてもよかった」「よかった」の合計が90%であり、全員が「わかりやすかった」と回答した。
日時：2019年12月19日（木）16:20～17:50
場所：中講義室4
講師：前田亜寿香氏（サーチャー、株式会社サンメディア）
参加者：教員・院生36名

2　学生の図書館活用の促進

2018年度の学生への図書館利用状況調査において、よく利用する学生がいる一方で、全く利用しない学生も4割強いたことから、学生の図書館活用を促進するために以下の取り組みを行った。

1）各講座・領域(教員)からの推薦図書コーナーの設置

各月に推薦図書を出してもらう2つの講座・領域を決めて、毎月、2 ～ 5冊程度の推薦図書を、紹介文とともに出してもらった。毎月、学生・教職員にメールでお知らせし、図書館入口に展示することにより、立ち止まって閲覧する者も多く、本の貸し出しにも繋がっ

ていた。また、教員からも「興味深い」「毎月チェックしている」等の反応もあり、好評である。

2）学生の図書館への要望把握方法の工夫

学生の図書館への要望・意見を把握するために、以下の取り組みを昨年に引き続き行った。

・図書館内随所に要望等を記載する小さなメモ(つぶやき用紙)と投函ボックスを設置

・学生の希望図書等を記載する用紙を簡素化し、クラスアワー等でPRした。希望図書記載用紙が10枚出され、購入に繋がった。

3）教育活性化事業としての各種催しの開催

学生の図書館活用の促進をねらいとして2019年度の教育活性化事業に申請し、学生が気軽に図書館に来る機会として、また異学年交流の機会として、以下の2企画を実施した。

(1)看護大学版ビブリオバトル

日時：2020年 2月 6日（木）12:15 ～ 12:45

場所：図書館2階　がんばルーム

参加者：2年生4名、教員6名

図書の紹介者：3年生　松本郁海さん、室崎凌太さん

進行：石川委員

(2)海外渡航経験を共有しよう会

日時：2020年 2月 4日（火）12：15 ～ 12：50

場所：図書館2階　がんばルーム

参加者：学生3名　教員7名

発表：「海外学会参加とアメリカ留学の経験」加藤先生

進行：塚田委員

事後の参加者のアンケート結果では､両会ともに「とても良かった」「時間が短かった」という声が多く、会の満足度は高い様子であった。ただし参加者が少なく、1 ～ 3年生は試験期間、4年生は国家試験前という開催時期が影響していたと思われる。今回は法人の教育活性化事業への申請･認可により実施したためこの時期はやむを得なかったが、次年度は開催時期を検討する必要がある。

3　図書館施設の整備：開架・閉架スペース確保、ラーニング・コモンズの整備等

1）重複本・除籍図書等の整理

蔵書数の増加に伴い、開架・閉架スペースがなくなってきている。スペース確保のために、古い本や看護関係の重複本の除籍可否調査を、2019年度に教員を対象に行い、565冊を除籍した。今後は看護以外の図書についても同様に除籍を行い、スペースを確保していく必要がある。

2）がんばルームの整備

学生の図書館活用の促進をねらいとして2019年度の教育活性化事業に申請し、がんばルームをラーニング・コモンズとして使用しやすいよう整備した。

3）2階視聴覚教材コーナーの整備計画

2020年度教育活性化事業に、図書館活用促進の2つ目の方策として、「2階空間のげんき

スペース化」を申請した。不要なVHS収納棚を撤去し、リラックススペースや専門書以外のコーナーを設置する等の計画がある。

4　図書等の整備

教職員を対象に購入希望図書の調査を7月と10月に行なった。これまでは教員個人が配当額範囲内で希望図書を出していたが、多忙等の理由で提出者が少なく、購入図書が偏る傾向がみられた。また、開学20年を迎え所蔵図書が古くなっているので、本年度は小講座・領域毎に希望図書を検討し提出してもらったところ、各分野の図書が比較的バランスよく出された。本年度は図書560冊(うち、洋書3冊)、e-book 8冊を購入し、利用に供した。

近年、主な海外学術雑誌のほぼ全てが電子ジャーナルとして利用できるようになり、今後も電子ジャーナル、ebook等の電子情報資源へのアクセスを保証することは大学図書館の基本的な課題である。本学図書館にはebookが少ないので、ニーズに合わせて充実していく必要がある。

5　新図書館システム「Mike」と新しいデータベース「ProQuest」等の導入

2020年4月から新しい図書館システム「Mike」が運用される。同時に、看護および関連分野の学術情報を幅広く収集できる新しいデータベース「ProQuest」と、論文全文へのアクセスを簡便にする「リンクリゾルバー」も導入することになった。これに先立ち、2019年5月13日～6月30日まで試用期間をもうけ､アクセス数が739件と多くの利用があった｡「ProQuest」と「リンクリゾルバー」の導入に際しては、インターネット上にある、学術情報の検索・アクセスを支援するサービス(学術情報データベース、各種サーチエンジンなど)の中で本学にとって有効なものをセレクトし、取り込むことになっている。利用者がより簡便に学術情報にアクセスできる環境になると思われる。

6　学術情報のオープンアクセス化の推進

近年、学術雑誌の高騰等を背景として学術情報のオープンアクセス化が世界的に進んでいる。本学においても、2017年度から教職員からの論文等の学術情報を本学の「学術情報リポジトリ(電子図書館)」に登録し公開することを、教員に働きかけており、今年度は1編の教員の論文が掲載された。また、本学のオープンアクセス方針を作成し、ホームページに掲載した。

7　シラバス記載内容の修正

シラバスの「第Ⅴ章　付属図書館利用案内」を新入生ガイダンスの説明用資料としてより使用しやすいように、昨年度の大幅修正に加え、一部内容を修正した。

9.2　今年度の主な活動概況

9.2.1　図書館事業の実施

1.　館内蔵書検索専用iPadの設置

図書館内において、自由に持ち運びが可能であり、どの場所でも蔵書検索ができるツールとして館内専用のiPadを設置した。(97名利用)

2.　わく・ワーク（work）体験事業

かほく市立高松中学校2年生2名が、7月23日（火）～ 24日（水）の2日間「わく・ワーク（work）体験事業」に参加、図書の移動、配架、図書装備、カウンター業務等、図書館業務を体験した。

3.　企画展示の実施

テーマ別に企画展示を行った。(カッコ内展示期間　冊数)

1)「教員からの推薦図書コーナー」(5月～ 7月　9月～ 1月)

〇毎月、各領域・講座ごとに1～5冊の推薦図書を展示する。

・5月　基礎看護学（36冊）　情報科学（4冊）
・6月　成人看護学（6冊）　健康科学領域（機能・病態学）（7冊）
・7月　精神看護学（6冊）　心理学（5冊）
・9月　老年看護学(12冊)　健康科学領域（保健・治療学）（16冊）
・10月　母性看護学(3冊)　健康体力科学(3冊)
・11月　小児看護学(4冊)　社会学(3冊)
・12月　地域看護学(7冊)　人間工学(3冊)
・1月　在宅看護学(5冊)　英語(5冊)

2)「論文・レポートの書き方」(6/3 ～ 2/29)（30冊）

3)「感染症に関する本」(3/18 ～)　(20冊)

4.　文献検索データベース講習会の実施

5月31日（金）アカデミック・リテラシー
「調べる」スキル　1年生（82名）
7月 4日（木）　文献検索セミナー　認知症認定看護師（18名）
11月 7日（木）　文献検索セミナー　3年生（83名）

9.3　資料整備状況

資料整備状況（令和2年3月31日現在）（　　）内令和元年度受入れ数

コレクション別		総　　数	内　訳	合　計
図　　書	和書	54,145冊（448冊）	購入：614冊 寄贈：399冊 除籍：565冊	合計60,192冊 （1,038冊）
	洋書	6,047冊（25冊）	購入：4冊 寄贈：21冊	
雑　　誌	和雑誌	453誌	継続購入99誌	合計　622誌 （内購入129誌）
	洋雑誌	169誌	継続購入30誌	
新　　聞	日本紙	6紙	―	7紙
	英字紙	1紙	―	
視聴覚資料	CD-ROM	163点（0点）	購入：0点	合計　2,284点 （59点）
	ビデオ	1,376点	―	
	DVD	697点（32点）	購入：32点	
	eBOOK	48点（27点）	購入：27点	

9.3.1　分野別蔵書構成（令和2年3月31日現在）

○総冊数：60,192冊

分類	0	1	2	3	4-480	49	N	5	6	7	8	9
標目	総記	哲学宗教	歴史	社会科学	自然科学	医学	看護学	技術・工学	産業	芸術	言語	文学
冊数	4,349	3,041	690	8,619	1,691	20,423	14,537	1,211	261	1,543	1,346	2,481

9.3.2　医学分類蔵書構成（令和2年3月31日現在）

○医学書（看護学を除く）の総冊数：20,423冊

分類	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499
標目	医学総記	基礎医学	臨床医学	内科学	外科学	周産期医学	耳鼻咽喉科	歯学	公衆衛生学	薬学
冊数	1,611	3,073	1,477	6,718	2,075	958	113	120	4,058	220

9.3.3　看護系資料分類別構成（令和2年3月31日現在）

○看護学関係図書総冊数：14,537冊

分類	N0	N1	N2	N3	N4	N5	N6	N7	N8	N9
標目	看護総記	看護理論	看護実践	母性看護	小児看護	成人看護	老年看護	精神看護	地域家庭看護	状態別看護
冊数	2,311	1,009	3,963	710	483	1,907	578	412	2,071	1,093

9.4　利用統計

9.4.1　開館日数・入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開館日数	24	22	25	26	23	22	26	24	23	20	21	19	275
入館者数	3,834	4,044	5,052	7,087	5,151	2,496	3,905	3,979	4,020	4,317	4,786	862	49,533
1日平均	160	184	202	273	224	113	150	166	175	216	228	45	180

9.4.2　館外利用者数及び冊数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
学生	人数	325	259	215	281	271	249	386	325	216	215	105	22	2,869
	冊数	670	546	474	584	710	576	1,016	1,042	565	506	214	69	6,972
院生	人数	77	39	47	44	44	27	33	34	43	41	28	12	469
	冊数	246	168	168	121	149	97	98	93	133	125	100	38	1,536
教職員	人数	114	55	57	52	41	49	29	45	30	39	29	21	561
	冊数	162	93	156	126	94	125	84	147	116	133	97	69	1,402
一般	人数	83	71	82	86	86	80	84	74	57	65	57	23	848
	冊数	196	210	242	252	252	233	280	230	193	232	170	76	2,566
計	人数	599	424	401	463	442	405	532	478	346	360	219	78	4,747
	冊数	1,274	1,017	1,040	1,083	1,205	1,031	1,478	1,512	1,007	996	581	252	12,476

9.4.3　他大学・国立国会図書館・公共図書館への文献複写依頼件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
教員	17	12	19	16	2	10	9	5	3	6	11	12	122
学生	17	68	33	20	37	5	51	4	2	10	20	38	305
一般	0	3	5	0	1	0	6	0	1	1	0	0	17
計	34	83	57	36	40	15	66	9	6	17	31	50	444

9.4.4　他大学・公共図書館・個人からの文献複写受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
教員	9	8	3	7	13	13	4	12	5	11	6	3	94
学生	49	51	37	33	57	35	25	30	22	29	20	12	400
一般	2	14	7	9	5	8	1	2	1	4	3	3	59
計	60	73	47	49	75	56	30	44	28	44	29	18	553

9.4.5　館内設置コピー機による複写件数・枚数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	67	88	89	110	93	59	81	60	104	54	61	18	884
枚数	700	1,548	1,466	1,185	959	718	1,325	940	1,167	899	763	266	11,936

9.4.6　相互貸借貸出冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
公共	2	3	9	8	8	2	14	11	4	2	4	65	132
大学	7	0	0	2	1	1	0	2	2	2	1	10	28
合計	9	3	9	10	9	3	14	13	6	4	5	75	160

9.4.7　相互貸借借受冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
公共	37	48	21	74	86	74	101	109	110	35	66	78	839
大学	0	0	3	1	1	1	0	0	0	5	4	0	15
合計	37	48	24	75	87	75	101	109	110	40	70	78	854

9.4.8　データベースアクセス状況

○洋雑誌：CINAHL（EBSCO社）（件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	190	179	109	1,685	223	404	453	452	150	210	124	94	4,273

○和雑誌：メディカルオンライン（メテオゲート社）（件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	1,924	1,478	1,261	2,670	1,804	1,344	1,448	1,221	1,576	761	1,193	974	17,654

9.5　利用者サービス

9.5.1　学内向図書館サービス

新入生、新任教職員等を対象に、図書館の利用方法等について説明した。

実施時期	対象者	対象・参加人数	内容
4月3日（水）	院生説明会 保護者説明	約20名 約90名	図書館の概要説明
4月4日（水）	新入生ガイダンス	約90名	図書館の使い方 図書館の概要説明

9.5.2　学外向図書館サービス

県政バス、県内の中高生等を対象に、図書館の概要説明や、図書館の利用方法とオンラインデータベース講習会等を実施した。

日　　時	名　　称	対象・参加人数	内　　容
7月13日（土）	オープンキャンパス	高校生、父兄	図書館の開放、施設説明 図書リユースコーナー設置
7月23・24日 （火・水）	かほく市立高松中学校 「わく･ワーク(work) 体験事業」	生徒2名	図書装備体験 カウンター業務体験 資料の複写業務体験
8月9日（金）	県立田鶴浜高等学校衛生看護科	生徒35名	図書館の利用方法と データベースの講習
10月19・20日 （土・日）	大学祭 秋のオープンキャンパス	一般、高校生	図書館の開放 リユースコーナーの設置
6月4日（火） ～7月9日（火）	県政バス（金沢市他） 計3回	約120名	図書館の概要説明

9.5.3　学内で利用できるデータベース

	内　　容	同時使用
最新看護索引web	看護分野に限定した雑誌文献情報データベース。「日本看護学会論文集」平成23年度（第42回）より、電子版を掲載。全10領域の「論文集（電子版）」を閲覧・ダウンロードできる。収録件数、約20万件、収録誌数812誌。更新頻度月1回。	3
PubMed	医学分野の代表的文献情報データベース。米国NLM作成。医学・歯学・生命科学関係の4,800誌以上の雑誌から収録。収録データ数約1,600万件。	フリーアクセス
メディカルオンライン	医学文献の検索をはじめ、医薬品・医療機器・医療関連サービスの情報を幅ひろく提供。	フリーアクセス
CINAHL	看護学・保健学分野の文献情報データベース。約3,000誌の専門誌が対象。データ数約42万件。（EBSCO社）	4
PsycINFO	心理学、行動科学、精神医学分野の文献情報データベース。29カ国、20以上の言語で出版されている2,400点の心理学関連資料から収録。	フリーアクセス
医学中央雑誌	日本国内の医学・歯学・薬学及び関連分野の文献を網羅した文献情報データベース。収録誌数約5,000誌。収録件数約630万件。	8
JDreamⅢ	日本国内の科学関連分野の文献を網羅した総合抄録誌のインターネット版。医学・薬学領域予稿集全文DB。収録約5,200万件。	10
Nii、CiNii（国立情報学研究所）	国立情報学研究所主宰の資料検索、学術雑誌文献検索、研究成果論文検索等を収録した総合検索システム。 （主宰：国立情報学研究所）	フリーアクセス
ELSEVIER Science Direct	購読タイトル（9誌）の2007年以降に出版された論文全て。購読誌「Applied Nursing Research 」他9誌 ｻﾌﾞｼﾞｪｸﾄ・ｺﾚｸｼｮﾝの論文すべて 対象ｻﾌﾞｼﾞｪｸﾄ：Nursing and Health Professions	4

9.6　職員研修

9.6.1附属図書館職員の研修

日　　時	場　所	名　　称	内　　容	参加者名
4月12日(金)	金沢市	平成31年度図書館協力業務・ネットワーク担当者会議 主催：石川県公共図書館協議会	県立図書館との相互協力について	明翫　賢悟
6月14日(金)	米子市	2019年度公立大学協会図書館協議会	大学図書館に関する最近の動向、公立大学の課題と将来構想等について	西村真実子
9月30日(月)	西宮市	2019年度機関リポジトリ新任担当者研修 主催：オープンアクセスリポジトリ推進協会	機関リポジトリの構築・運用に必要な基礎的な知識の構築	明翫　賢悟
3月6日(木)	東京都	次期JAIRO Cloud（WEKO3）移行説明会 主催：オープンアクセスリポジトリ推進協会 ※コロナウィルス感染症のため、会場開催中止。動画中継による開催となる。	移行のスケジュール、変更点、移行データ確認、画面レイアウトの調整等	明翫　賢悟

10. 附属地域ケア総合センター

10.1　地域ケア総合センター運営委員会

委 員 長：武山 雅志　教授（附属地域ケア総合センター長）
委　　員：長谷川教授、紺家教授、阿部准教授、石川准教授、中道准教授、金谷講師、
　　竹田特任講師
委員補佐：桶作助教
事 務 局：田畠教務学生課長、宮川専門員
開催頻度：年4回開催
活動内容：

運営委員会では人材育成、地域活動、国際貢献の3部会の報告を元に、全体のセンター事業の進捗状況を把握するとともに、提示された課題について検討した。また中期計画における年度計画に基づいて令和2年度事業の方向性について検討を行った。平成30年度から行っている事業評価項目を用いて、令和2年度事業の採択を決定した。その際に明らかになった課題については令和2年度の運営委員会に引き継ぎを行った。大学施設の開放化における問題点を明確にするために施設管理担当者に対してアンケート調査を実施した。

令和元年度はかほく市との包括的連携協定締結に係わる協議会を2回開催し、意見交換を行った。平成28年度から始まった「健康ブランド化事業」を継続するとともに、新たに能登枠を設け能登地域に出向く形での在宅療養移行に関する人材育成事業をを行った。

各事業について本学HPやメールマガジンを活用し積極的に情報提供するように務めた。

10.1.1　人材育成部会

部 会 長：石川 倫子　准教授
部 会 員：垣花准教授、谷本准教授、竹田特任講師
開催頻度：随時
活動内容：

人材育成事業の専門職研修として1講座、本学教員主催の研究会・事例検討会として5講座を実施した。相談サービス事業としては病院、行政、職能団体、福祉・高齢者関係の任意団体より研修会講師や看護研究指導の依頼が合計46件あり、年々増えてきている。

人材育成部会では、平成30度に引き続き、能登北部地区の医療・介護職、行政職を対象に専門職研修「地域みんなで取り組む在宅療養移行支援（参加者84名）」を実施した。2年間にわたる実施の評価を行い、在宅療養移行支援の実施率が高まっていることを確認できた。また3月開催の「地域包括ケア時代に活躍する看護職」は、感染対策のために幾度も担当者と部会で協議した結果、中止とした。いずれも地域包括ケアを確立していく時代のニーズに即した研修であり、令和2年も継続して実施していく。

10.1.2　地域活動部会

部 会 長：金谷 雅代　講師

部 会 員：川村講師、寺井講師、竹田特任講師

開催頻度：随時

活動内容：

地域連携・貢献事業の地域連携事業として11事業を実施、ワンストップサービス事業として1件の依頼があり、桜井准教授の協力を得た。

かほく市長寿介護課のいきいきシニア活動推進事業の中で実施された「生涯現役」フォーラムにおいて木森准教授に講演を依頼し、フォーラムに協力した。

いきいきステーションの協力を得て、地域活動部会員による「地域公開講座」を5回実施し、1回あたり10名程度の参加があり、かほく市民に健康に関する本学教員の知見を還元した。また、学生が講義等のない木曜日の午後にいきいきステーションを訪問し、ステーションで行なわれている「持ち寄りカフェ」に参加することで、いきいき世代の住民と交流を図った。今後も地域や市民のニーズを取り入れて、健康に関する講座や学生との交流を展開していく。

10.1.3　国際貢献部会

部 会 長：中道 淳子　准教授

部 会 員：阿部准教授、曽山講師、竹田特任講師

活動内容：

国際貢献事業のJICA日系研修において、日本人会幹部向けの2週間の視察型の研修を実施した。研修生2名（パラグアイ）は、イグアス日本人会福祉担当理事とラ・コルメナ日本人会婦人部部長をされている方であった。成果発表会では、福祉用具や送迎車などを取り入れること、要介護高齢者のニーズ調査や羽咋市福水町サロンとの文通などを帰国後の具体的なプランとして発表された。またこれまでの日系研修における取組を踏まえて、パラグアイ・ピラポ日本人会をパートナーとしたJICA草の根技術協力事業「日系社会における高齢者の介護予防活動を支援するプロジェクト事業」が令和元年度に採択されるに至った。令和2年度の実施に向けて準備を進めている。

JICA青年研修ではカンボジアから11名の研修生を迎え、予防医学・公衆衛生分野における実施体制の課題解決を担う青年層の知識と意識の向上を目指して、講義や施設の視察を行った。研修生は自国の現状における課題を改善するための対策（感染症予防対策、母子の健康増進対策、高齢者へのケアの充実等）について高い関心を寄せ、積極的な態度で丁寧に学びを深めていた。過去3回にわたって研修生を受け入れたカンボジアを対象にしたJICA青年研修のフォロアップ事業を令和元年度末に予定していたが新型コロナウイルスの影響で延期になった。

国際貢献部会としては上記の研修について、JICA北陸および羽咋市社会福祉協議会と協議を重ねて円滑な運営に努めた。それぞれの研修中のカントリレポートまたはジョブレポート発表と成果発表会は、関係者に加え学生の聴講も可能として開催した。開講式・閉講式を執り行うと共に、研修生に喜んでいただけるように工夫を凝らして歓迎会・送別会を実施した。

11. 附属看護キャリア支援センター

11.1　看護キャリア支援センター運営委員会

委 員 長：林 一美　教授（附属看護キャリア支援センター長）
委　　員：石垣教授（学長）、川島教授（研究科長）、武山教授（学長補佐）、石川准教授、
　　西田事務局長、浅見特任准教授
事 務 局：寺井嘱託
活動内容：

1. 今年度の活動
   1）今年の事業計画
      事業内容　①3期目の認知症看護認定看護師教育課程
      ②県委託事業
      看護教員研修事業
      看護管理経営研修
      専門的看護実践力研修事業
      ③認知症看護認定看護師フォローアップ　研修
      ④感染管理認定看護師フォローアップ　研修
   2）2020年　感染管理認定看護師教育課程開講に向けての広報活動
   3）北陸3県の医療・福祉関係機関の看護部責任者に対し、認定看護師教育課程の受講ニーズ調査を実施し、次期開講教育課程の方向性を検討する。
   4）令和元年度の事業報告書のホームページ掲載

2. 今年度の活動に対する評価

　認知症看護認定看護師教育課程の実施をした。さらに3つの県委託事業を実施した。教育課程・県委託事業については、事業実施計画のとおりの運営が行えた。次年度の感染管理認定看護師教育課程の入学生確保のために、北陸3県医療･福祉関係機関の看護部責任者に対し、受講ニーズ調査をおこなった。また、夏期と冬期に2回の入試説明会と石川県・富山県の医療機関看護部に対し訪問広報活動をおこない、定員以上の入試受験生の確保ができた。感染管理認定看護師教育課程は、2年の開講を予定している。2019年度にて認知症看護認定看護師教育課程は閉講予定である。

　さらに次期の認定看護管理者教育課程（サードレベル）に向けて、北陸3県の医療・福祉関係機関の看護部責任者に対し、受講ニーズ調査を実施し、その結果から2020年は看護管理者教育課程（サードレベル）を開講する予定となった。

3. 次年度以降に向けた課題・発展
   1）次年度は感染管理認定看護師教育課程と認定看護管理者教育課程（サードレベル）を開講し、教育体制の構築、質の高い教育の実施・運営、次々年度入学試験の実施等を、関係機関の協力を得て行う必要がある。
   2）次年度はセンター教職員が新任となるため、センター事業に関する教務・入試事務等に

関して、新任教職員で対応しなければならなくなるため、確実な業務運営が求められる。

11.2　認知症看護認定看護師教育課程

11.2.1　受講生の受講・修了状況

	定員	入学者数	修了者数
平成29年度	30	33	33
平成30年度	30	31	31
平成31年度 （令和元年）	30	29	29

11.2.2　入学試験・入試説明会の実施

1）入学試験の実施

平成29年5月13日（土）（平成29年度入学生）

平成30年3月 3日（土）（平成30年度入学生）

平成31年3月 2日（土）（平成31年度入学生）

	定員	応募数	合格者数
平成29年度入学生	30	86	33
平成30年度入学生	30	49	30
平成31年度入学生 （令和元年）	30	33	29

11.2.3　認知症看護認定看護師教育課程入試委員会

今年度（平成31年度:令和元年度）で閉講のため開催しなかった

11.2.4　認知症看護認定看護師教育課程教員会

委 員 長：林 一美　教授（附属看護キャリア支援センター長）

委　　員：川島教授（学長補佐）、多幡講師、堅田助教

小藤幹恵（石川県看護協会）、山下美子（石川県立高松病院）、冨澤ゆかり（金沢赤十字病院）、林浩靖（光が丘病院）

事 務 局：寺井嘱託

活動内容：1．教育課程の内容、教育環境整備に関する検討

2．受講生の修了判定

11.3　石川県委託事業の開催

11.3.1　石川県看護教員現任研修事業

1）目　　的：これからの時代を見据えた柔軟なカリキュラムの開発を考える。
2）開催時期：令和元年10月5日、12月14日、令和2年2月8日
3）受 講 生：令和元年10月5日40名、12月14日125名、令和2年2月8日24名
4）内　　容：(1)10月5日（講演）未来をみすえたカリキュラムの開発方法　－開発の考え方とそのプロセス－
(2)12月14日（講演）これからの時代を見据えた柔軟なカリキュラムの開発－第 5 次指定規則改正内容とその意図－
(3)令和2年2月8日（講義・演習）カリキュラム開発の実際　－求められる「看護」の役割と カリキュラム課題の明確化－

11.3.2　管理者経営研修

1）目　　的：地域包括ケア時代における看護管理者の役割を果たすうえでの知識を修得し、自らの行動を明確 にする。
2）開催時期：令和元年9月6日～ 9月27日の4日間
3）受 講 者：34名（看護師長以上の職位にある者）
4）内　　容：講義と演習において自施設の振り返りが行え、課題解決の戦略を検討することが受講生にとって満足度が高く、有意義な事業であると捉えていた。また魅力あるテーマ3演題で公開講座を取り入れたことも受講生のニーズに沿ったものとなった。

11.3.3　専門的看護実践力研修
「分野別実践看護師養成研修：皮膚・排泄ケア研修」

1）目　　的：皮膚・排泄ケア看護に関する専門的知識、技術を身に付け、看護実践力の向上を図る。
2）開催時期：令和元年8月31日、9月14日・15日・21日・29日の計5日間
3）受 講 者：石川県内34施設から42名が受講した
4）内　　容：ストーマ・創傷・失禁 ケアの3分野に関し講義と演習の方法で実施した。

11.4　感染管理認定看護師フォローアップ研修

1）目　　的：認定看護師更新審査における審査準備の実際を学び更新審査の備えができる。また、感染管理認定 看護師として兼任から専従への転機について考え、今後の活動につなげていくことができる。
2）開催時期：令和元年10月5日

3）受 講 者：50名

4）内　　容：第1部（講演）認定看護師更新審査の手順・手続きについて
第2部（シンポジウム）感染管理認定看護師の活動 ～兼任から専従への転機～

11.5　認知症看護認定看護師フォローアップ研修

1）目　　的： 認知症看護認定看護師としての活動状況や事例内容を共有し、学びを深めるとともに新しい知見と情 報交換を行い今後の活動に活かすことができる。

2）開催時期：令和元年10月26日、令和2年2月8日

3）受 講 者：69名

4）内　　容：令和元年10月26日：第1部実践報告会，第2部(講演）認定更新審査のアドバイス
令和2年2月8日：(講演）認知症高齢者の意向を尊重した 意思決定支援

12. 大学として取り組んでいる連携事業

12.1　超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

実施団体名

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

：金沢大学、金沢医科大学、福井大学、富山大学、信州大学、石川県立看護大学

概要

北信がんプロの実施内容として、1）6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代･希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース（本科10、インテンシブ9)。2）テレビ会議システムを発展させた、北信オンコロジーセミナー、事例検討会。3）スタッフ研修として海外FD研修の実施。4）他のがんプロ拠点や、人材育成プログラムとも積極的に連携し、国際シンポジウム、合同シンポジウムの実施。5）市民啓発、がん教育活動の一環として患者会との連携や、北信4県の自治体、医師会、がん拠点病院と連携し、市民公開講座やシンポジウムの開催などである。本学は主に、大学院教育における、がん看護専門看護師の育成（本科生）と、インテンシブコースでの地域の医療従事者へのがんに関する知識・技術の普及である。特徴として、北陸、信州地域のがん関連病院をつないだテレビ会議システムを用いた事例検討会を実施し、がんに強い看護師の育成に努めることである。

12.1.1　がんプロ企画委員会

委 員 長：牧野 智恵　教授（学長補佐）

委　　員：石垣教授（学長)、谷本准教授、金谷講師、松本講師、磯助教、今方助教、瀧澤助教、田淵助教

事 務 局：白山主幹兼係長、松本専門員、岡山事務員

活動内容：

1. がん看護専門看護師（本科生）の育成

がんライフステージコースとして、がん専門看護師コースの大学院生を対象に今年度からスタートしたコースである。本学1名、福井大学2名の計3名の申し込みがあり、北信がんプロのe-learning科目とがん看護専門看護師の科目の履修を進めている。修業年限は2年であり、今年度は1名の修了者がいた。

2. インテンシブコースによるがん看護の知識の普及実施・評価

以下の4つのコースへの募集および成績判定を行った。

①「がん看護インテンシブAコース」

平成19年度から実施しているコースの一つで、北陸がんプロのがん看護本科生（大学院のがん看護専門看護師課程）を修了し、今後がん看護師専門看護師の受験をめざしている看護師、または更新予定のがん看護専門看護師を対象としたコースである。今年度は2名が履修した。

また、7月と10月にがん看護専門看護師と本コース申請者を対象に、がん看護専門看護

師の知識と技術のブラッシュアップと専門看護師の受験に向けた学習のための事例検討会を実施した。7月には北里大学病院の近藤まゆみ（がん看護専門看護師）にコメンテーターとしてお越しいただいた。7月では今年度がん看護CNSを受験予定の2名から、コンサルテーションやコーディネーションについての事例提供があり、コメンテーターや他のCNSの助言のもと、事例検討が行われました。参加者は22名であった。

10月には「CNSの高度実践のあり方について」～日々の悩みを語り合おう～ というテーマで意見交換会が行われた。まず北陸CNS会のメンバーから日本専門看護師協議会の専門看護師ラダーの紹介があり、その後、臨床でCNSが実際に遭遇した困難事例についてその対処について参加者で意見交換が行われた。参加者は11名であった。

②がんライフケアコース

看護師、薬剤師、医師、理学・作業療法士、ソーシャルワーカーを対象としたコースで、今年度は、受け入れ目標5名に対して、5名が申請した。

3．がんプロ企画の実施と評価

今年度は、3つの公開講座と、2種類の事例検討会を実施した。

1）ライフステージ事例検討会およびCNS対象クローズド事例検討会企画・評価

①ライフステージ事例検討会を実施した。

今年度は、6月から翌年3月までの期間に計8回の事例検討会を企画したが、3月はコロナ感染拡大予防の関係で中止とし、7回実施し計679名の看護師、医師、薬剤師、OT/PTが参加した。今年度は、医師が昨年に比べ30名増加し、他職種での意見交換が活発になった。

②CNSおよびCNS候補者を対象に、CNSクローズド事例検討会を2回実施した。7月27日には、北里大学病院のがん看護専門看護師の近藤まゆみさんをお呼びし、22名が参加した。10月6日には、11名が参加した。

2)「ゲノム医療の現状と薬物間相互作用を知り、現場に活かそう」公開講演会の実施・評価

10月6日（日）10:00 ～ 12:30にホテル金沢にて、「がんゲノム医療を理解し現場に活かそう」を開催した。第1部は、「がんゲノム医療の現状と看護上の倫理的課題」と題して東邦大学看護学部の村上好恵教授に講演していただき、第2部では、「抗がん剤のPK/PDと相互作用」と題して、東京大学医学部付属病院薬剤部の大野能之先生に講演いただいた。参加者は50名であった。

3)「臨床で行なうリンパ浮腫ケア」＜基礎編＞および＜アドバンス編＞の企画・評価

①富山県立中央病院（がん看護専門看護師・日本医療リンパドレナージ協会認定セラピスト）の時山麻美さんを講師として招き、8月24日（土）に本学成人看護学実習室にて実施し、66名の看護師が参加した。演習では、一人ずつマッサージでの圧の加減について時山講師から指導していただいたこともあり、自由記載において、「今回の学びをスタッフにも伝達していきたい」という意見や、「マッサージの圧が軽くて驚いた。実際に足が軽くなるのを実感した」など、演習での成果が表れていた。

②基礎編の2か月後、10月26日（土）に、時山麻美さんと山野洋子さん（福井県済生会病院・日本医療リンパドレナージ協会認定上級セラピスト）を招き、これまでの基礎編に参加した人の中から17名が参加した。基礎編に引き続き、より実践に活かせる内容の支援を

した。

4）FD・SD講演会の企画・評価

令和2年3月22日(日)にホテル金沢にて、北陸CNSの会、かほく市との共催、北國新聞後援にて、「がんになっても自分らしい人生を過ごすために　～今から家族と人生か意義（ACP）を～」と題した市民公開講座の開催を予定していたが、コロナ感染拡大予防のため次年度9月に延期となった。

外部報告

2019年度事業報告書

外部資金

研究拠点形成費等補助金（先進的医療イノベーション人材養成事業）連携大学の負担金

4,300千円

13. 大学施設の開放

実施年月日	内　　容	参加 人数（人）
31. 4 ～ 2. 3　火曜	スポーツ教室	50
31. 4 ～ 2. 3　土曜・日曜	野球練習	20
1. 5 ～ 2.11	介護職員等によるたんの吸引等の実施のための研修	30 ～ 80
31. 4.14・20・21	吹奏楽コンサート、リハーサル	400
1. 6. 1	ピアノコンサート	60
1. 6. 8	日本精神科看護協会石川県支部支部大会	100
1. 6.22・23	石川県紙ひこうき大会	350
1. 7. 7	ピアノおさらい会	20
1. 7.27	地域高齢者サポートを考える会　講演会	150
1. 7.26	教育研究中間集会	150
1. 8.21・26	食品衛生責任者研修会	200
1. 8.26	教育研究総括集会	150
1 .8. 9	テニスサークル	5
1. 9.18・19	産後ヘルパー養成研修会	30
1. 9.12・19・26	専門的看護実践力研修	30
1. 9.14・15	定期演奏会・リハーサル	400
1. 9.29	合唱練習、音楽発表会	80
1.10.12・13	介護支援専門員実務研修受講試験	300
1.10.26	ピアノリハーサル	13
1.12. 8	クリスマスコンサート	50
1.12. 7	認知症支援チーム対応作業療法士研修会	45
1.12.21	ピアノ発表会リハーサル	100
1.12.22	ピアノ発表会	100
1.12.15	子ども会行事	75
2. 1.31・2.1	手話啓発事業公演	10
2. 3. 1	理容師美容師国家試験（筆記試験）	465
2. 3.21	運動	10

編集後記

令和元年度の年報をお届けします。新しくバトンがつながれたこの記念すべき年度に、本学は大学基準協会の審査を受け、2020年3月12日付で同協会が定める大学評価基準を満たしていると認定されました。本学は規模が小さいながらも事務職員の手厚いサポートを受けながら、各教員がさまざまな学内の委員会、教育、研究、そして地域貢献に真摯に取り組んできていると活動記録から伺えます。そして大学評価（認証評価）結果と今年度の年報を照らして読んでおりますと、各教職員が例年、目の前の仕事に全力で取り組んできたことが積み重なり、認証評価につながったと感じずにはいられません。

令和元年度は新カリキュラムの運用開始、大学と臨床機関との連携強化、グローバル化の推進、大学院の研究コースに新たに学内選抜枠を設けて入試を実施、そして助産師養成課程では初の修了生を輩出することで教育課程が充実するよう目標が掲げられました。その実施体制は、図書館システムのオンラインを主とするデータベース、そして無線LAN化が進められ、学生の学習環境は時代に応じ、変化し続けているといえます。地域貢献では能登町、津幡町、かほく市と事業を協働し地域の方と学生と教職員は「ごちゃまぜ」になりながら、貢献するだけでなく、地域の健康指標である「自然」「文化」「産業」を尊重し「その人らしさ」を学び続けています。国際貢献につながる人材育成としてアメリカ看護研修だけでなく「韓国看護研修」も国際看護演習の単位認定の対象となり「授業科目」としてスタートを切りました。未来につながる人材育成は今、まさに社会が大学教育に求めていることであり、具現化された一つ一つの活動の意味を俯瞰しながら年報を読んでいただきたいと思います。

この年報では詳細に記述する項目がありませんが、石垣学長が会長を務められました第39回日本看護科学学会学術集会は、看護学では全国で最も権威のある学術団体、日本看護科学学会によって開催されました。本学はホスト大学としてまさに教員は身命を賭し、学術集会の成功裏を目指して参りました。こまごまとした忙しさの中でも、少子高齢化、医療の高度複雑化を背景に、これからの時代に必要な看護科学とは何か、異分野融合で視野が広がりつつある看護科学の新しい知見はどうあったらよいか、という討論がありました。教員はこの討論を持ち帰り、新しい教育、研究、地域貢献における発展の原動力にしたことと思います。来年以降の年報も楽しみになってまいりました。改めて日々教職員にはご自愛いただき、共に切磋琢磨し頑張っていきたいと願うばかりです。

本誌の編集にあたり各委員会、各附属施設の皆様から多大なご協力を頂きましたことにお礼を申し上げます。また、実質的な作業を担った平村主任主事、曽山委員、曽根委員の労をねぎらいたいと思います。皆様のご協力に感謝申し上げます。

自己点検評価委員会　年報編集部会長　木森佳子

2019年度　石川県立看護大学年報　第20巻
2020 年 12 月　発行

編集：石川県立看護大学　自己点検・評価委員会
年報編集部会

発行：石川県公立大学法人　石川県立看護大学
〒929-1210　石川県かほく市学園台 1 丁目 1 番地
tel.076-281-8300 ㈹　fax.076-281-8319

「版権は石川県公立大学法人に帰属する。」

（この冊子は、印刷用の紙へリサイクルできます。）